



TITLE:

京都大學人文科學研究所漢籍分類 一覽：部-類-屬-目-例

AUTHOR(S):

井波, 陵一

CITATION:

井波, 陵一. 京都大學人文科學研究所漢籍分類一覽：部-類-屬-目-例.
2005

ISSUE DATE:

2005-11-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/65024>

RIGHT:

京都大學人文科學研究所 漢籍分類一覽

(部—類—屬—目—例)

京都大學人文科學研究所
附屬漢字情報研究センター

2005

目 次

四部の基本構成	1
經部	1
經注疏合刻類	1
易類	2
書類	3
詩類	4
禮類	6
春秋類	11
四書類	14
孝經類	16
諸經總義類	17
小學類	20
史部	25
正史類	25
編年類	28
紀事本末類	29
古史類	30
別史類	30
雜史類	31
載記類	34
詔令奏議類	36
傳記類	37
時令類	43
地理類	43
職官類	54
政書類	55
書目類	62
金石類	64
史鈔類	68
史評類	68
子部	70
諸子合刻類	70
儒家類	70
兵家類	73
法家類	74
農家類	74
醫家類	78
天文算法類	79

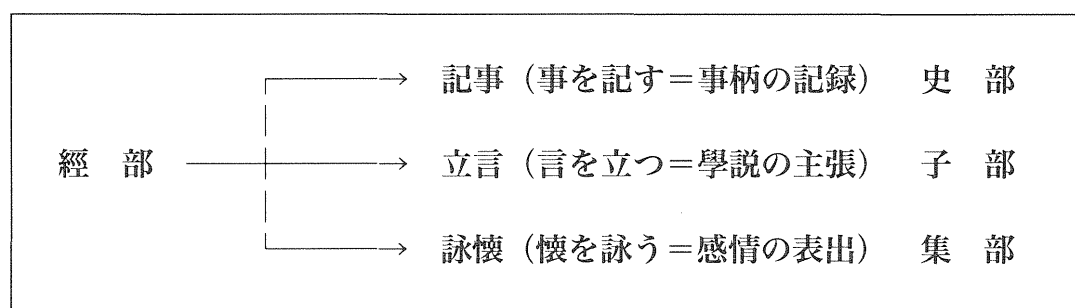
術數類·····	81
藝術類·····	83
雜家類·····	89
類書類·····	92
小說家類·····	92
釋家類·····	94
道家類·····	95
集部·····	98
楚辭類·····	98
別集類·····	99
總集類·····	101
詩文評類·····	105
詞曲類·····	107
小說類·····	111
叢書部·····	113
雜叢類·····	113
景仿類·····	114
輯佚類·····	114
郡邑類·····	114
一姓所箸書類·····	115
一人所箸書類·····	115
『天津圖書館書目』分類一覽·····	117

京都大學人文科學研究所漢籍分類一覽

(部—類—屬—目—例)

京都大學人文科學研究所附屬漢字情報研究センター
井 波 陵 一

四部の基本構成



經 部

第一	經注疏合刻類	セットになった經書を収める。
第二	易類	占いの書である『易』、および『易』に關する書を収める。
第三	書類	王や大臣の政治演説集である『書』、および『書』に關する書を収める。
第四	詩類	歌集である『詩』、および『詩』に關する書を収める。
第五	禮類	三禮および三禮に關する書を収める。
第六	春秋類	魯國の年代記に孔子が手を加えた『春秋』、および『春秋』に關する書を収める。
第七	四書類	四書および四書に關する書を収める。
第八	孝經類	『孝經』および『孝經』に關する書を収める。
第九	諸經總義類	經書全般に關する書を収める。
第十	小學類	文字の形・音・義に關する書を収める。

第一 經注疏合刻類（屬は無い。目は正文と讀本）

正文…『十三經注疏』 漢唐の古注。

讀本…『十三經讀本』 可能な限り宋元以降の新注に置き換え。

第二 易類 (屬は無い。目は時代による区分が基本)

正文：『周易』

* 岩波文庫

先秦：『子夏易傳』

子夏は孔子の高弟。但し偽託の書。

前漢：『京房易傳』

京房。『漢書』儒林傳。

後漢：『鄭康成周易注』

鄭康成は鄭玄。唐以前第一の學者。『後漢書』本傳。

三國：『王肅周易注』

王肅。『三國志』本傳。

晉：『干寶周易注』

干寶。『晉書』本傳。『搜神記』の著者。

劉宋：『周易繫辭荀氏注』

荀柔之。正史に傳は無く、『經典釋文』に見える。

南齊：『周易繫辭明氏注』

明僧紹。『南齊書』本傳。

梁：『周易伏氏集解』

伏曼容。『梁書』本傳。

陳：『關氏易傳』

後魏の關朗。但し北宋の阮逸の偽撰。

隋：『周易何氏講疏』

何妥。『隋書』本傳。

唐：『周易正義』

十三經注疏。もっぱら王肅の注を尊重した結果、他の諸説はすべて廢れる。

北宋：『伊川易傳』

伊川は程頤。兄は程顥。兄弟を二程と稱する。

叢書部の一姓所著書類に『河南二程全書』がある。

南宋：『誠齋易傳』

誠齋は楊萬里。大旨は程氏に基づき、史傳を多く引用。

元：『易纂言』

吳澄。元代の『易』研究者の中では大きな存在。

明：『古易考原』

梅鷟。議論は非常に創造的だが、先人の業績を踏まえておらず、すべて憶測に基づく。

清初：『周易稗疏』

王夫之。『四庫全書總目』も根底ある書と認める。

清中葉前期：『易漢學』

惠棟。漢代の儒者の易學を考察し、序論を収集して、その概要を明らかにする。

清中葉後期：『周易集解』

孫星衍。公務の餘暇に、著書・刻書にいそしむ。* 叢書部雜叢類に『岱南閣叢書』『平津館叢書』

清季：『周易舊注』

徐嘉。漢代の儒者を本源とし、宋代の儒者とは多く見解を異にした。

近人：『周易費氏學』

馬其昶。清史館總纂。費氏學は漢の費直の易學。

連山歸藏：『連山』『歸藏』

『連山』は夏の易、『歸藏』は殷の易に相當する。

焦氏易林：『焦氏易林』

漢の焦延壽。

『四庫全書總目』子部術數類：「その源は經師〔經の先生〕から發していない。……いま退けて術數類に分類し、その本當の有様を残しておく」。

易緯：『易緯乾坤鑿度』

『四庫全書總目』：「緯というのは經の支流であり、旁義（經の本旨から離れた意味）に広く及ぶ」。

河圖：『河圖括地象』

『河圖（黄河から出た龍馬の背に現れた圖）』の緯書。

洛書：『洛書甄曜度』

『洛書（洛水から出た神龜の背にあった文書）』の緯書。

讖：『易九厄讖』

『四庫全書總目』：「讖というのは隱語であり、あらかじめ吉凶を判斷する」。

第三 書類（屬は無い。目は時代による區分が基本）

正文：『尚書』

今文（伏生が伝える）のテキストと古文（孔子の舊宅より出現、科斗文字）のテキストがある。＊世界古典文學全集（筑摩書房）

前漢：『古文尚書』

孔安國（傳）。

後漢：『尚書鄭注』

鄭玄。

三國：『尚書王氏注』

王肅。

晉：『古文尚書舜典注』

范甯。『春秋穀梁傳集解』の著者。

隋：『尚書劉氏義疏』

劉炫。『隋書』儒林傳。

唐：『尚書正義』

十三經注疏。＊吉川幸次郎『尚書正義』

北宋：『東坡書傳』

蘇軾。

『四庫全書總目』：「蘇軾は經世の學に専心し、事勢に明らかにして、また議論に長ずる」。

南宋：『書集傳』

蔡沈。

『四庫全書總目』：「筋道だった解釋は手際よくまとまっており、きちんとした據り所

があるので、おおむね純正である」。

元：『書纂言』

呉澄。もっぱら今文を解釋するのはこの書から始まる。

明：『尚書考異』

梅鷟。『古文尚書』の辨正。

清初：『古文尚書疏證』

閻若璩。

『四庫全書總目』：「經を引いて古を據り所としており、……古文が偽であることが大いに明らかになった」。

清中葉前期：『古文尚書攷』

惠棟。『古文尚書』が偽造であることについて鐵案を下す。

清中葉後期：『古文尚書辨僞』

崔述。『古文尚書』の眞僞について精密な考察を加え、閻・惠諸氏のレベルを越えた。

清季：『今文尚書攷證』

皮錫瑞。前漢の今文尚書について一つの總括的な敘述を行った。

近人：『尚書覈詁』

楊筠如。王國維門下のすぐれた成果。

尚書大傳：『尚書大傳』

『四庫全書總目』：「經文以外に、遺文を収集し、旁義を推し広めた。けだし古の緯書に相當する」。

尚書緯：『尚書中候』

鄭玄の撰と伝えられる比較的規模の大きな尚書の緯書。

第四 詩類（屬は無い。目は時代による區分が基本）

正文：『毛詩』

『四庫全書總目』：「詩には四家〔四つの學派〕があつたが、毛氏だけ傳わつた」。

残る三家は齊、魯、韓。

先秦：『詩序』

『四庫全書總目』：「詩序に關する説は、大勢が互いに是非を争つて定まらない」。

前漢：『魯詩故』

申培。『漢書』儒林傳。

後漢：『毛詩譜』

鄭玄。十五國風・小雅大雅・三頌の各地域に關する解説。

三國：『毛詩草木鳥獸蟲魚疏』

陸機（機）。

『四庫全書總目』：「博識を披瀝する學者は、これが最も古いと言えよう」。

晉：『毛詩異同評』

孫毓。毛氏・鄭玄・王肅の異同を評す。

劉宋：『毛詩周氏注』

周續之。『宋書』隱逸傳。

南齊：『毛詩序義疏』

劉瓛。『南齊書』本傳。

梁：『集注毛詩』

崔靈恩。『梁書』本傳。
 後魏：『毛詩箋音義證』
 劉芳。『魏書』本傳。
 北周：『毛詩沈氏義疏』
 沈重。『周書』儒林傳。
 隋：『毛詩述義』
 劉炫。
 唐：『毛詩正義』
 十三經注疏。鄭箋が行われて以來、齊・魯・韓の三家は廢れる。
 北宋：『詩本義』
 歐陽脩。各篇「小序」の信憑性を疑う。
 南宋：『詩集傳』
 朱熹。唐以後第一の學者。新注。
 元：『詩集傳名物鈔』
 許謙。
 『四庫全書總目』：「考察した名物音訓はいささか根據があり、『詩集傳』の遺漏を補うに足る」。
 明：『毛詩古音考』
 陳第。
 『四庫全書總目』小學類：「顧炎武が『詩本音』を作り、江永が『古韻標準』を作り、經によって經を證明し、ようやく妄論が一扫された。その先鞭をつけたのが、ほかならぬこの書である」。
 清初：『詩本音』
 顧炎武。
 『四庫全書總目』小學類：「その書は陳第の「詩に叶韻無し」の説に従っている。……南宋以來、勝手に行われてきた叶韻の謬論は、ここに至ってようやくすべて一扫された」。叶韻は、詩經などの古い韻文で、韻字が後世の韻に合わないとき、發音を變えて韻を合わせること。
 清中葉前期：『三家詩拾遺』
 范家相。
 『四庫全書總目』：「王應麟の書（『詩考』）に比べると、はるかに詳細である」。
 清中葉後期：『毛詩傳箋通釋』
 馬瑞辰。とりわけ依聲求義〔聲に依りて義を求む〕の方法を運用して文字を校勘・解釋した。
 清季：『詩三家義集疏』
 王先謙。三家の詩說に通じようとする際、最も手頃な書物。
 近人：『敦煌古寫本毛詩校記』
 清の羅振玉。
 韓詩外傳：『韓詩外傳』
 漢の韓嬰。
 『四庫全書總目』：「古事や古語をあれこれ引用し、それを詩經の言葉で證明しようとしたもので、經の義にぴったり沿っていない」。
 詩緯：『詩含神霧』

第五 禮類 (屬は六。目は時代による区分が基本)

周禮之屬	『周禮』は周公旦が周代の官制を記した書とされるが、實際の成立時期については諸説あり。
儀禮之屬	『儀禮』は各種儀禮に関する書で、實際の成立時期は戰國末期以降と考えられる。
禮記之屬	『禮記』は禮に関する理論および解説を記した書で、大戴禮記に對して小戴禮記と稱される。
大戴禮記之屬	『大戴禮記』は小戴禮記と同じく、禮に関する理論および解説を記した書。
三禮總義之屬	禮について包括的に議論した書を収める。
樂之屬	古代の樂に関する書を収める。 * 各時代の音樂に関する技術書は子部藝術類音樂之屬に分類する

一 周禮之屬

正文：『周禮』

漢：『周禮鄭大夫解詁』

鄭大夫は鄭衆。『後漢書』本傳。

晉：『周官干寶注』

干寶。

陳：『周禮戚氏音』

戚袞。『陳書』儒林傳。

北周：『周官禮義疏』

沈重。

唐：『周禮注疏』

十三經注疏。

『四庫全書總目』：「鄭玄はもともと三禮の學を専門としていた。それゆえこれについての解釋は特に精緻である」。

宋：『周官新義』

王安石。

『四庫全書總目』：「『欽定周官義疏』(乾隆13年御定)もその說をきちんと採用しているから、彼の人柄を理由に何もかも廢することはできない」。

元：『周官集傳』

毛應龍。

『四庫全書總目』：「宋以來の諸家の散佚した學說は、なおこれによってその概略を存することができた」。

明：『周禮註疏刪翼』

王志長。

『四庫全書總目』：「古本に忠實に従い、勝手気ままな議論がはびこるのを抑止した」。

清初：『周官辨非』

萬斯大。

『四庫全書總目』：「『周禮』は後世の偽作であると批判した」。

清中葉前期：『周禮疑義舉要』

江永。

『四庫全書總目』：「この書は鄭注を融合調和させ、新説も織り交ぜている。經の義について明らかにした箇所が多い。考工記を解釋した二卷は、とりわけ精緻である」。

清中葉後期：『周禮漢讀考』

段玉裁。『説文解字注』の著者。

清季：『周禮正義』

孫詒讓。『周禮』正文に對する訓釋の水準は漢代の注や唐代の疏を超えている。

近人：『西漢周官師說考』

劉師培。『劉申叔先生遺書』（叢書部一人所著書類）。

二 儀禮之屬

前漢：『喪服變除』

戴德。『大戴禮記』の編者。

後漢：『儀禮』

鄭玄（注）。＊池田末利『儀禮』

三國：『喪服要記』

王肅。

晉：『葛氏喪服變除』

葛洪。『晉書』本傳。『抱朴子』の著者。

劉宋：『集注喪服經傳』

裴松之。『宋書』本傳。『三國志』の注者。

南齊：『喪服古今集記』

王儉。『南齊書』本傳。『七志』の著者。

唐：『儀禮注疏』

十三經注疏。

『四庫全書總目』：「明以來、刻本の文字の誤りはことに甚だしい」。

宋：『儀禮釋宮』

李如圭。

『四庫全書總目』：「儀禮を研究する者の圭臬（日時計。轉じて標準の意）である」。

元：『儀禮集說』

敖繼公。

『四庫全書總目』：「なお先儒の謹嚴な學風の名残がある」。

清初：『儀禮鄭注句讀』

張爾岐。

『四庫全書總目』：「儀禮という經は、韓愈の時から非常に讀みづらいものであった」。

清中葉前期：『儀禮章句』

吳廷華。

『四庫全書總目』：「章ごとに分け句ごとに釋し、箋疏は簡明で、經學において裨益するところがある」。

清中葉後期：『儀禮正義』

胡培翬。注疏以來の儀禮學の集大成。

清季：『士昏禮對席圖』

俞樾。德清の俞氏（俞樾—俞陸雲—俞平伯）。

近人：『禮經舊說攷略』

劉師培。

三 禮記之屬

正文：『禮記』

戴聖（戴德の甥）。

後漢：『禮記』

鄭玄（注）。

三國：『禮記王氏注』

王肅。

晉：『禮記范氏音』

范宣。『晉書』儒林傳。

劉宋：『禮記略解』

庾蔚之。『宋書』に傳無し。

梁：『禮記皇氏義疏』

皇侃。『梁書』儒林傳。

後魏：『禮記義證』

劉芳。

北周：『禮記熊氏義疏』

熊安生。『周書』儒林傳。

唐：『禮記正義』

十三經注疏。皇侃を基本とし、不備な點を熊安生の說によって補う。

宋：『禮記集說』

衛湜。

『四庫全書總目』：「諸說を採集し、最も該博である。……禮を研究する人々の淵海（物事を多く蓄えてある所の喩え）であると言えよう」。

元：『禮記』

陳澧（集說）。

『四庫全書總目』：「初學者の者にとって役に立つ」。

明：『禮記集說大全』

胡廣（等奉敕）。

『四庫全書總目』：「陳澧の集說を本源とする」。

清初：『深衣考』

黃宗羲。

『四庫全書總目』：「彼の名がいささか重んじられており、後世に誤りをもたらす懸念があるため、その誤った點を摘録して留めておく」。

清中葉前期：『禮記訓義擇言』

江永。

『四庫全書總目』：「陳澧の注といささか出入があるが、持論は多く精緻である」。

清中葉後期：『禮記集解』

孫希旦。前人の說に異議がある場合、反論を提出し、いささか創見に富む。

清季：『王制箋』

皮錫瑞。「王制」は『禮記』の篇名。

近人：『學記箋證』

王樹枏。「學記」は『禮記』の篇名。

四 大戴禮記之屬

正文：『大戴禮記』

戴德。

『四庫全書總目』：「先王の舊制について、時に取るべき點もあるから、これもまた禮經を補佐するものである」。

宋：『夏小正戴氏傳』

傅崧卿。夏小正は『大戴禮記』の篇名。

『四庫全書總目』：「舊文を考究して理解の糸口を得ており、讀者に讀むための道筋を與えてくれる」。

清中葉前期：『夏小正詁』

諸錦。

『四庫全書總目』：「憶測によって論斷を下している」。

清中葉後期：『大戴禮記解詁』

王聘珍。孔廣森の『大戴禮記補注』と並ぶ注釋書。

清季：『夏小正集說』

程鴻詔。

近人：『校正孔氏大戴禮記補注』

王樹枏。

五 三禮總義之屬

漢：『三禮目錄』

鄭玄。72 篇。前に禮序を冠して、全體を總括する。

三國：『皇覽逸禮』

繆襲。『皇覽』は類書の先驅。

晉：『雜禮議』

吳商。『晉書』に傳無し。

劉宋：『禮論條牒』

任預。『宋書』に傳無し。

梁：『三禮義宗』

崔靈恩。

後魏：『明堂制度論』

李謐。『魏書』本傳。明堂は天子が政教を行い、諸侯を朝見した建物。

唐：『張氏三禮圖』

張鎰。新舊『唐書』本傳。

宋：『新定三禮圖』

聶崇義。

『四庫全書總目』：「今とりあえずその舊本に従って著録し、一家の學に備える」。

元：『三禮攷注』

『四庫全書總目』：「舊本は元の呉澄の撰と題するが、……この書が偽りであることは疑いもなく明らかである」。

明：『三禮圖』

劉績。

『四庫全書總目』：「聶崇義の闕を補うのみならず、林希逸の遺漏も拾い上げている」。
清初：『讀禮志疑』

陸隴其。

『四庫全書總目』：「その造詣の深さは、近年の儒學者では滅多にお目にかかれない」。

清中葉前期：『禮書綱目』

江永。

『四庫全書總目』：「朱子（の『儀禮經傳通解』）が解決するに至らなかった問題を解決している」。

清中葉後期：『禮學卮言』

孔廣森。戴震に師事し、三禮および公羊春秋の學を修める。

清季：『三禮通釋』

林昌彝。陳壽祺に師事する。

近人：『明堂廟寢通考』

清の王國維。

禮緯：『禮含文嘉』

六 樂之屬

先秦：『樂經』

『四庫全書總目』：「聖人が手ずから定めた經が存在するというわけではない」。

漢：『鍾律書』

劉歆。『七略』の著者。

梁：『鍾律緯』

武帝蕭衍。

後魏：『樂書』

信都芳。『魏書』術藝傳。

北周：『樂律儀』

沈重。

唐：『樂書要錄』

則天武后。

宋：『樂書』

陳暘。

『四庫全書總目』：「博引旁證で、議論も非常に精緻である」。

元：『瑟譜』

熊朋來。

『四庫全書總目』：「音律に通じていないのに、いたずらに樂理を議論する儒者とは、まったくタイプが異なる」。

明：『樂律全書』

朱載堉。

『四庫全書總目』：「音律の研究に専心し、生涯を費やしてこの書を完成した」。

清初：『古樂經傳』

李光地。

『四庫全書總目』：「『周禮』の「大司樂」以下の二十官を採って經とし、（『禮記』の「樂記」を傳とする」。

清中葉前期：『律呂新論』

江永。

『四庫全書總目』：「前人がいまだ明らかにし得なかった點を明らかにしており、もとより一家の學に備えるにふさわしい」。

清中葉後期：『聲律小記』

程瑤田。琴を弾くのが上手で、年老いて失明しても、なおその孫に口授して、琴音記三卷を著す。

清季：『樂記異文考』

俞樾。

近人：『樂詩考略』

清の王國維。

樂緯：『樂動聲儀』

第六 春秋類 (屬は四。目は時代による區分が基本)

春秋左傳之屬	左丘明の注を附す。
春秋公羊之屬	公羊高の注を附す。
春秋穀梁之屬	穀梁赤の注を附す。
春秋總義之屬	三傳全體を取り扱った書を收める。

一 春秋左傳之屬

正文：『春秋』

經＋左氏の傳。經のみであれば「總義之屬」に分類。＊岩波文庫

漢：『春秋左氏傳章句』

劉歆。

三國：『春秋左氏傳王氏注』

王肅。

晉：『春秋經傳集解』

杜預。＊川勝義雄『史學論集』（中國文明選 12）

陳：『春秋左氏傳義略』

王元規。『陳書』儒林傳。

後魏：『春秋傳駁』

賈思同。『魏書』本傳。

隋：『春秋左傳述義』

劉炫。

唐：『春秋左傳注疏』

十三經注疏。

『四庫全書總目』：「傳と注疏は、いずれも春秋に對して大いなる功績があると言ってよい」。

宋：『左氏傳說』

呂祖謙。左傳を研究して、三種類の書（他に類編・博議）を著す。

元：『春秋左氏傳補注』

趙汭。

『四庫全書總目』：「その大旨は……公羊傳・穀梁傳の正解によって、左傳の誤りを修正する」。

明：『讀左漫筆』

陳懿典。

『四庫全書總目』：「左傳を讀んで、氣づいたことを思いのままに記した書」。

清初：『左傳杜解補正』

顧炎武。

『四庫全書總目』：「國初で「學に根底有り」と稱される人物としては、顧炎武が一番である」。

清中葉前期：『春秋左傳補註』

惠棟。

『四庫全書總目』：「舊訓を引用して、杜預の左傳集解の遺漏を補う」。

清中葉後期：『春秋左傳詁』

洪亮吉。漢儒の説によって杜預の注を正す。

清季：『左傳古本分年考』

俞樾。

近人：『春秋左氏傳答問』

劉師培。

二 春秋公羊之屬

漢：『春秋公羊傳』

何休。『後漢書』儒林傳。

後魏：『難杜』

衛冀隆。

唐：『春秋公羊傳注疏』

十三經注疏。

『四庫全書總目』：「何休の解詁を見るに、ただ傳のみ釋して經を釋さず、杜預と體例を異にする」。

明：『公羊墨史』

周拱辰。

清中葉前期：『公羊古義』

惠棟。

清中葉後期：『春秋公羊何氏釋例』

劉逢祿。公羊の學說こそが孔子の眞意を傳えていると主張。

清季：『春秋公羊傳箋』

王闡運。公羊傳の疏に満足せず、改めて箋を作る。

近人：『何氏公羊春秋十論』

廖平。今文學を尊重する師の王闡運の考えに影響を受ける。

春秋繁露：『春秋繁露』

漢の董仲舒。

『四庫全書總目』：「『春秋繁露』は『春秋』に基づいて主張を展開しているが、經の義に關係ないものが多い」。

三 春秋穀梁之屬

漢：『春秋穀梁傳說』

劉向。『別錄』の著者。

魏：『春秋穀梁傳糜氏注』

糜信。『經典釋文』序録に見える。

晉：『春秋穀梁傳集解』

范甯。

唐：『春秋穀梁傳注疏』

十三經注疏。

『四庫全書總目』：「晉の范甯集解、唐の楊士勛疏。……楊士勛は経歴不詳だが、孔穎達の左傳正義序に、「故四門博士楊士勛と參定す」と言うから、やはり貞觀年間の人だろう。その書は孔穎達の該博に及ばない」。

清中葉前期：『穀梁古義』

惠棟。

清中葉後期：『穀梁大義述』

柳興恩。

清季：『春秋穀梁經傳補注』

鍾文烝。著者が全力を注いだ書。

近人：『穀梁春秋古義疏』

廖平。

四 春秋總義之屬

正文：『春秋』

經のみ（傳も無い）。

漢：『春秋三傳異同說』

馬融。『後漢書』本傳。鄭玄の師。

晉：『春秋公羊穀梁傳解詁』

劉兆。『晉書』儒林傳。

唐：『春秋集傳』

啖助。陸淳『春秋集傳纂例』はその師である啖助ならびに趙匡の説を解釋。

五代：『春秋名號歸一圖』

馮繼先。

『四庫全書總目』：「列國の君臣の名は、色々な呼び方があり、……繼先は同一人物の呼稱をとりまとめた」。

北宋：『春秋胡氏傳』

胡安國。

『四庫全書總目』：「南渡（北宋滅亡後、江南に渡ること）の後に作られたので、時事に感じるところがあり、往々にして春秋に事寄せて思いを述べている」。

南宋：『春秋集註』

張洽。

『四庫全書總目』：「明の洪武年間、この書を胡安國の傳とともに學官に立てた」。「學官に立つ」とは、アカデミーでその説を採用すること。

元：『春秋三傳辨疑』

程端學。

『四庫全書總目』：「前提として傳を廢そうという一念があり、あらゆる手だてを盡くして傳の缺陷を暴き出そうとした」。

明：『春秋集傳大全』

胡廣（等奉敕）。

『四庫全書總目』：「この書物を残すのは、……前代（＝明）の學術の陋劣ぶりを明らかにしておくためである」。

清初：『春秋毛氏傳』

毛奇齡。

『四庫全書總目』：「左傳を主とし、……最も攻撃したのは、胡安國の傳である」。

清中葉前期：『春秋大事表』

顧棟高。

『四庫全書總目』：「引用は廣範、議論は精確で、前人が明らかにしていない點を明らかにした」。

清中葉後期：『春秋說畧』

郝懿行。『爾雅義疏』『山海經箋疏』の著者。

清季：『達齋春秋論』

俞樾。

近人：『春秋國名考釋』

鮑鼎。

春秋緯：『春秋孔演圖』

第七 四書類（屬は三。目は時代による區分が基本）

論語之屬	論語および論語に関する書を収める。
孟子之屬	孟子および孟子に関する書を収める。
四書之屬	新注の大學・中庸・論語・孟子、およびその研究書を収める。

一 論語之屬

正文：『論語』

漢：『論語鄭氏注』

鄭玄。

三國：『論語』

何晏（集解）。『三國志』本傳。

晉：『論語范氏注』

范甯。

劉宋：『論語顏氏說』

顏延之。 * 高橋和巳「顏延之の文學」

南齊：『論語顧氏注』

顧歡。『南齊書』本傳。

梁：『論語集解義疏』

皇侃（疏）。

『四庫全書總目』：「山井鼎は……その國にこの書があると稱するが、中國ではこれを手に入れた者はいない」。

唐：『論語筆解』

韓愈。

宋：『論語注疏解經』

十三經注疏。

明：『論語類考』

陳士元。

『四庫全書總目』：「論語の名物典故を考證し、十八門に分かつ」。

清初：『讀論語劄記』

李光地。

清中葉前期：『鄉黨圖考』

江永。

『四庫全書總目』：「經傳の制度名物のうち郷黨に關係あるものを取り上げて、九つに分類した」。郷黨は周代の制度で、五百家を黨、二千五百家を郷といった。ちなみに『論語』には郷黨という篇名もある。

清中葉後期：『論語正義』

劉寶楠。論語の舊注の中で最もレベルが高い。

清季：『論語皇疏考證』

桂文燦。同治元年（1862）に著書の『經學叢書』を献上。

近人：『論語古義』

楊樹達。

論語識：『論語素王受命識』

二 孟子之屬

正文：『孟子』

漢：『孟子』

趙岐（注）。

晉：『孟子綦母氏注』

綦母邃。『晉書』に傳無し。

唐：『孟子陸氏注』

陸善經。新舊『唐書』に傳無し。

宋：『孟子注疏解經』

十三經注疏。

明：『孟子雜記』

陳士元。

『四庫全書總目』：「第一卷は孟子の事跡を述べ、後の三卷は孟子の言葉を詳しく論述している。名目は傳記だが、實質は經解の部分が多い」。

清初：『孟子師說』

黃宗羲。師は劉宗周を指す。

『四庫全書總目』：「日ごろ聞いたことを述べてこの書を著した」。

清中葉前期：『孟子論文』

牛運震。

清中葉後期：『孟子正義』

焦循。戴震の説と結びつけ、『易』『論語』『中庸』に一貫する仁恕の考えを融合し展開した。

清季：『孟子古注擇從』

俞樾。

近人：『孟子微』

康有爲。

孟子外書：『孟子外書』

現在の『孟子』七篇以外に存在したという書。『漢書』藝文志には孟子十一卷といい、七篇のほかに四篇があることになる。趙岐の「孟子題辭」は、性善・辯文・說孝經・爲政という外書四篇の名を記すが、いずれも僞託として退ける。

三 四書之屬

宋：『四書章句集註』

朱熹。

『四庫全書總目』：「四書という名が定まったのは、朱子に始まる」。

元：『讀四書叢說』

許謙。

『四庫全書總目』：「章句の不十分な點を補うに足る」。

明：『大學古本旁註』

王守仁。十三經注疏本より『禮記』の大學篇を取り出して作る。

朱子は大學を獨立した經典とし、經一章と傳十章とに分けた。これを今本大學という。

清初：『大學古本說』

李光地。

『四庫全書總目』：「(朱子と) 考えが合致しない點について、付和雷同してやり過ぎとうとはしなかったが、ことさら朱子を批判するものではない」。

清中葉前期：『大學辨業』

李塉。

『四庫全書總目』子部儒家類：「古の大學の教授法を明らかにし、俗學の誤りを辨じている」。

清中葉後期：『四書是訓』

劉逢祿。

清季：『學庸識小』

郭階。

近人：『中庸篇義』

馬其昶。

第八 孝經類 (屬は無い。目は時代による區分が基本)

正文：『孝經』

漢：『古文孝經』

(舊本題) 孔安國 (傳)。今文系は 18 章、古文系は 22 章だが、内容的に大差はない。

三國：『孝經王氏解』

王肅。

晉：『集解孝經』

謝萬。『晉書』本傳。

南齊：『齊永明諸王孝經講義』

闕名。

梁：『孝經義疏』

武帝蕭衍。

隋：『孝經述義』

劉炫。
 唐：『孝經』
 玄宗李隆基（注）。
 宋：『孝經正義』
 十三經注疏。
 元：『孝經大義』
 董鼎。
 『四庫全書總目』：「初學者にとっては役に立つ」。
 明：『孝經述註』
 項霖。
 『四庫全書總目』：「深遠な議論に立ち入らないようにし、本文に従って意味を敷衍している」。
 清：『孝經鄭注疏』
 皮錫瑞。
 近人：『孝經學』
 曹元弼。
 孝經緯：『孝經鉤命訣』

第九 諸經總義類（屬は六。目は時代による區分が基本）

*『四庫全書總目』は五經總義類

諸經總義之屬	「授受源流之屬」以下の特定分野に入らない書を収める。
諸經授受源流之屬	学派の系譜を記した書を収める。
諸經音義之屬	經書本文の發音に關する書を収める。
諸經校刻文字之屬	經文の校勘をおこなった書を収める。
石經之屬	石に刻まれた經書の拓本、およびその研究書を収める。
目錄叢刻之屬	

一 諸經總義之屬

漢：『白虎通義』
 班固。『漢書』の著者。
 『四庫全書總目』子部雜家類：「六經の傳記（注釋）を引用するほか、讖緯にも及ぶ」。
 三國：『五經然否論』
 譙周。『三國志』本傳。
 晉：『五經通論』
 束皙。『晉書』本傳。
 後魏：『六經略注序』
 常爽。『魏書』儒林傳。
 北周：『七經義綱』
 樊深。『周書』儒林傳。
 宋：『河南程氏經說』

程頤。

元：『十一經問對』

何異孫。

『四庫全書總目』：「子供が暗記朗誦するのに役立つから、無益というわけではない」。

明：『疑辨錄』

周洪謨。

『四庫全書總目』：「下卷に至っては多く空言に屬し、ますます取るべきところが無い」。

清初：『七經孟子考文補遺』

山井鼎。

『四庫全書總目』：「『孟子』を七經の外に別置しているのは、……おそらくなお唐の制度を用いているのではないか」。

清中葉前期：『九經古義』

惠棟。

『四庫全書總目』：「大抵しっかりとした根底があり、精緻なものが多い」。

清中葉後期：『古經解詁』

余蕭客。

『四庫全書總目』：「唐以前の諸儒の訓詁を採録する」。

清季：『羣經平義』

俞樾。

近人：『尚書周禮皇帝疆域圖表』

廖平。

識緯：『古微書』

明の孫穀。

『四庫全書總目』：「孫穀はかつて舊文をあれこれ採録し、四部に分け、これを微書と總稱する。一に曰く焚微、……一に曰く綫微、……一に曰く闕微、……一に曰く刪微で、すなわちこの書である。いま三書はすべて傳わらず、これのみが現存する。そこで微書という名が冠せられたが、實はその中の一種にすぎない」。

二 諸經授受源流之屬

明：『授經圖』

朱睦㮮。

『四庫全書總目』史部目錄類：「(朱彝尊の)『經義考』が出る以前において、諸經の源流をきちんと區分整理した」。

清初：『儒林宗派』

萬斯同。

『四庫全書總目』史部傳記類：「孔子以下、明末の諸儒まで記す」。

清中葉前期：『儒林譜』

焦袁熹。諸經の注疏について、すべて筆記がある。

清中葉後期：『國朝漢學師承記』

江藩。漢儒の訓詁を墨守する學者の系譜。『國朝宋學淵源記』もある。

清季：『經學歷史』

皮錫瑞。この書を執筆していた當時は今文學の復興期。

近人：『漢魏博士考』

清の王國維。『觀堂集林』卷四に收める。

三 諸經音義之屬

唐：『經典釋文』

陸德明。

『四庫全書總目』：「五經や『孝經』『論語』および『老子』『莊子』『爾雅』などの音を集める」。

宋：『羣經音辨』

賈昌朝。

『四庫全書總目』小學類：「同じ字でありながら訓を異にし音もそれによって異にするものを集めて四種に分かつ」。

清：『羣經韻讀』

江有誥。『江氏音學十書』に収める。

四 諸經校刻文字之屬

唐：『五經文字』

張參。『四庫全書總目』小學類。

宋：『刊正九經三傳沿革例』

岳珂。

『四庫全書總目』：「總例一卷はなお世に行われ、……すべて異同を参照訂正し、考證は精密博大である」。

明：『五經異文』

陳士元。

『四庫全書總目』：「雜説を拾い集めて附益しているが、引いて據り所としたものはいささかみすぼらしい」。

清：『十三經注疏校勘記』

阮元。

五 石經之屬

漢石經：『漢熹平石經殘字』

熹平四年（175）。

魏石經：『魏正始石經殘字』

正始二年（241）。三體石經（古文・篆書・隸書）。*王國維「魏石經考」（『觀堂集林』卷20）。

漢魏石經：『漢魏石經考』

清の萬斯同。

唐石經：『唐開成石經』

開成二年（837）。*王國維『五代兩宋監本考』。

蜀石經：『蜀石經殘字』

清の陳宗彝。

北宋石經：『北宋石經攷異』

清の馮登府。

清石經：『儀禮石經校勘記』

阮元。

叢考：『石經考』

顧炎武。

目錄：『欽定石經目錄』

陶湘。

叢刻：『石經彙函』

王秉恩。

六 目錄叢刻之屬

目錄：『經義考』

清の朱彝尊。歴代の經義に關する書について解題を付した總合目錄。

叢刻：『皇清經解』

清の阮元。

第十 小學類 (屬は五。目は時代による區分が基本)

訓詁之屬	字義に關する書、俗語に關する書も含む。
說文之屬	『說文解字』およびその研究書を收める。各體字書之屬より獨立。
各體字書之屬	字形に關する書を收める。
音韻之屬	字音に關する書を收める。
目錄叢刻之屬	

一 訓詁之屬

爾雅：『爾雅註疏』

十三經注疏。著者はよく分からない。

小爾雅：『小爾雅』

『四庫全書總目』：「漢末になって現れ、晉に至ってようやく世に行われた。……長らく伝えられているので、とりあえずその書名を残しておく」。

方言：『方言』

著者は漢の揚雄であるとほぼ認められている。清の錢繹に『方言箋疏』がある。

釋名：『釋名』

漢の劉熙。音が近い字は意味も近いという考え方に立つ。清の王先謙に『釋名疏證補』がある。

辨釋名：『辨釋名』

呉の韋昭。『國語』の注者。『釋名』の解説で不適切なものについて正す。

廣雅：『廣雅』

魏の張揖。隋の曹憲の音釋。別名『博雅』(隋の煬帝の諱が「廣」であるため、同じ意味を持つ「博」に變えられた)。清の王念孫に『廣雅疏證』がある。

宋：『爾雅翼』

羅願。

『四庫全書總目』：「考據は精博、體例は謹嚴である」。

明：『駢雅』

朱謀埴。『水經注箋』の著者。

『四庫全書總目』：「引用は詳細広範で、説得力に富む」。

清初：『助字辨略』

劉淇。古代漢語の虚詞の研究における重要な專著。

清中葉前期：『別雅』

吳玉搢。

『四庫全書總目』：「字體の假借通用するものを取り上げ、韻によって編集した」。

清中葉後期：『經傳釋詞』

王引之。虚詞の解説において新しい道筋を開き、古書における少なからざる疑問を解決した。

清季：『經詞衍釋』

吳昌瑩。『經傳釋詞』を補うに足るものとして世に行われる。

近人：『釋史』

清の王國維。「史」の字に成立と意味の展開に関する考察。

叢刻：『五雅』

明の郎奎金。爾雅・廣雅・小爾雅・逸雅・埤雅。

常言：『通俗編』

清の翟灏。漢語中の俗語・方言を採集し、天文から識餘までの 38 門に分類。

今方言：『吳下諺聯』

清の王有光。幅広く諺を採集して注釋を加える。

稱謂：『稱謂錄』

清の梁章鉅。家族を始めとする他者の呼稱について、様々なケースを詳述する。

二 説文之屬

大徐：『説文解字』

漢の許慎（撰）。宋の徐鉉（等奉敕校定）。

小徐：『説文解字繫傳』

南唐の徐鉉（徐鉉の弟）。徐鉉の校定本より先に成立。徐鉉は許慎『説文解字』の校定者、徐鉉は『説文解字繫傳』の著者という考えに基づき、こちらを後に置く。

五代：『説文解字篆韻譜』

徐鉉。小篆にはすべて音訓を付す。音訓が無いものは許慎の書に附された重文（異體字）。

宋：『説文解字五音韻譜』

李燾。『續資治通鑑長編』の著者。

『四庫全書總目』：「読みやすいので、一般に広く流行した」。

元：『説文字原』

周伯琦。

『四庫全書總目』：「説文の議論を推し広めたのが半分、自分の意見を交えた部分が半分で、長所と短所がともに見られる」。

明：『説文長箋』

趙宦光。

『四庫全書總目』：「注にも論にも疎漏や錯誤が百出する」。

清初：『説文廣義』

程德治。

『四庫全書總目』：「諸家の篆文を採録して各字の下に列ねるが、出典を示さない」。

清中葉前期：『惠氏讀說文記』

惠棟。

清中葉後期：『說文解字注』

段玉裁。＊尾崎雄二郎譯注『訓讀說文解字注』。

清季：『說文古籀補』

吳大澂。古文と籀文によって說文の體系を補い、多くの古器物から文字資料を集める。

近人：『說文解字詁林』

丁福保。醫者としての収入により、各種の圖書を購入。

三 各體字書之屬

先秦：『史籀篇』

周の宣王の太史の籀が編纂したと伝えられてきた。＊王國維『史籀篇疏證』。

漢：『急就章』

史游。

『四庫全書總目』：「最初から最後まで重複した字がまったく無く、文辭も奥ゆかしい」。

三國：『古今字詁』

張揖。

晉：『字指』

李彤。『晉書』に傳無し。

劉宋：『纂文』

何承天。『宋書』本傳。

梁：『玉篇』

顧野王。注音は反切を主とし、時に直音を用いる。

後魏：『字統』

楊承慶。『魏書』に傳無し。

南齊：『篆隸文體』

蕭子良。『南齊書』本傳。

隋：『文字指歸』

曹憲。

唐：『干祿字書』

顏元孫。四聲によって區分し、さらに二百六部の韻によって排列。

五代：『汗簡』

郭忠恕。汗簡とは、殺青した木簡のこと。71種の文獻から引用。

宋：『類篇』

司馬光。『資治通鑑』の著者。部首とその排列は『說文解字』に依據し、各部所收の字は韻によって排列。全15巻、各巻が上中下に分かれるので45巻とも稱す。31,319字を収める。

遼：『龍龕手鑑』

行均。部首の字は平上去入の順序に従い、各部の字は四聲によって排列。

元：『字鑑』

李文仲。

『四庫全書總目』：「二百六部の韻によって編集し、點畫を辨正して俗謬を除き去る」。

明：『字彙』

葉秉敬。

『四庫全書總目』：「字形が似ていて意味が異なるものを取り上げ、分類して解釋する」。

清初：『正字通』

明の張自烈（原本）。清の廖文英（輯）。

『四庫全書總目』：「引用がゴタゴタして、誤りが目立つ」。

清中葉前期：『康熙字典』

今日でもなお實用價值のある工具書。

清中葉後期：『字典考證』

王引之。

清季：『十三經集字摹本』

萬青銓。

近人：『字義類例』

陳獨秀。

叢刻：『宋元以來俗字譜』

劉復・李家同。

増

千字文：『千字文』

* 岩波文庫『千字文』

滿蒙文：『御製增訂清文鑑』

滿洲語の右に漢語、左に漢音による譯を配す。

四 音韻之屬

三國：『聲類』

李登。

晉：『韻集』

呂靜。

劉宋：『音譜』

李概。『切韻』が參考にした書の一つ。

北齊：『韻略』

陽休之。『切韻』が參考にした書の一つ。

隋：『切韻』

陸法言。中國古代の言語學・音韻學の研究分野で最も高い成果をあげ、最も大きな影響を及ぼす。

唐：『刊謬補缺切韻』

王仁昉。『切韻』の基本體例を改變していないので極めて重要。

宋：『廣韻』

陳彭年。廣韻は『切韻』を増廣するという意。切韻系韻書の總括。

金：『五音集韻』

韓道昭。『廣韻』を基礎とし、當時の北方の實際の發音を取り入れる。

元：『古今韻會舉要』

熊忠。傳統的韻書體系の改革について『五音集韻』よりさらに前進。

明：『西儒耳目資』

金尼閣（イエズス會宣教師であるフランスのトリゴー）。西洋の母音・子音の考えを漢字音に適用。

清初：『音學五書』

顧炎武。音論・詩本音・易音・唐韻正・古音表。清代古音學の基礎を築く。

清中葉前期：『古韻標準』

江永。顧炎武が定めた古韻十部を訂正。

清中葉後期：『六書音均表』

段玉裁。前人に比べてさらに綿密な研究を行い、古韻を十七部に分ける。

清季：『切韻考』

陳澧。『廣韻』の反切に用いられた文字に基づいて反切系聯法を明らかにし、「同用」「互用」「遞用」の3種に分かつ。

同用：「冬、都宗切」「當、都郎切」は、ともに反切上字に「都」を用いる。

互用：「當、都郎切」「都、當孤切」は、反切上字として當・都が互いに用いられる。

遞用：「冬、都宗切」「都、當孤切」は、冬の反切上字として都を用い、都の反切上字として當を用いるので、冬・都・當は一類となる。

近人：『慧琳一切經音義反切攷』

黃淬伯。

叢刻：『渭南嚴氏彙刻音學書』

嚴式誨。

滿蒙文：『蒙古字韻』

元の朱宗文。蒙古字を韻で分けて排列。

五 目錄叢刻之屬

目錄：『小學考』

清の謝啓昆。

叢刻：『曹棟亭五種』

清の曹寅。

史 部

第一	正史類	正史および正史に注釋補正を加えた書を収める。
第二	編年類	編年體〔年月順に史實を記録するスタイル〕で書かれた書を収める。
第三	紀事本末類	紀事本末體〔事件ごとに發端から結末までを記すスタイル〕で書かれた書を収める。
第四	古史類	『史記』成立以前に書かれた歴史書、およびそれに關する書を収める。
第五	別史類	紀傳體〔本紀と列傳を主とするスタイル〕だが正史でない書を収める。
第六	雜史類	體裁は完備していないが史料的价值のある書を収める。
第七	載記類	地方割據政權など正統と認められていない王朝の歴史に關する書を収める。
第八	詔令奏議類	詔令〔皇帝の命令〕と奏議〔臣下の意見書〕を収める。
第九	傳記類	個人の事蹟を記した書を収める。
第十	時令類	年中行事を記した書を収める。
第十一	地理類	各地區の情況を記した書を収める。
第十二	職官類	官吏の職制や心得を記した書を収める。
第十三	政書類	國家の諸制度を記した書を収める。
第十四	書目類	各種の書籍目録を収める。
第十五	金石類	金屬や石などに記された文字の寫眞や研究書を収める。
第十六	史鈔類	諸史を節録した書を収める。
第十七	史評類	歴史に關する評論書を収める。

第一 正史類（屬は三。目は正史による區分）

合刻之屬	
分刻之屬	特定の「志」や「列傳」を刻したものも収める。
注補表譜考證之屬	

一 合刻之屬

『二十四史』『十七史』『二十一史』『二十五史』など。

二 分刻之屬

史記：『史記』。『史記貨殖列傳』（『中國歷代食貨志』收）。

漢書：『漢書』。『漢書地理志』（『歷代地理志彙編』收）。

後漢書：『後漢書』

范曄の『後漢書』九十卷（本紀・列傳）と司馬彪の『續漢志』三十卷。

三國志：『三國志』

晉書：『晉書』

最後に「載記」を付して十六國の事蹟を述べる。→載記類

宋書：『宋書』

南齊書：『南齊書』

梁書：『梁書』

陳書：『陳書』

魏書：『魏書』

北齊書：『北齊書』

周書：『周書』

隋書：『隋書』。『隋書經籍志』（『八史經籍志』收）。

『四庫全書總目』：「十の志は五史（梁・陳・北齊・北周・隋）のために作られた」。五代史志。

南史：『南史』

『四庫全書總目』：「李延壽は當時もっぱら北史に力を注ぎ、南史については舊文に手を加えたに過ぎない」。

北史：『北史』

『四庫全書總目』：「南史が多く舊本に従っているのに比べると、まったく別人の手になるかのようだ」。

舊唐書：『舊唐書』。『舊唐書食貨志』（『中國歷代食貨志』收）。

新唐書：『唐書』

『四庫全書總目』：「一代の史書は、……一人の手に成ると精力が行き渡らないし、多數の手に成ると體裁が互いに異なる」。

舊五代史：『舊五代史』

『四庫全書總目』：「文章は歐陽脩に及ばないものの、事蹟比較的備わっているから、埋もれたままにしておくことはできない」。『永樂大典』より抽出復元し、『冊府元龜』等によって補充。

新五代史：『五代史』。『五代史職方考』（『歷代地理志彙編』收）。

宋史：『宋史』

遼史：『遼史』

金史：『金史』

『四庫全書總目』：「（宋遼金）三史の中で、これだけが非常に優れている」。元好問『中州集』・劉祁『歸潛志』の貢獻。

元史：『元史』。

柯劭忞『新元史』。

明史：『明史』

編集に当たった多くの人物の中で、萬斯同の力が最大。

三 注補表譜考證之屬（志ごとの目あり）

史記：『史記志疑』

清の梁玉繩。誤りを正し、源を探るという點で一定の功績。

漢書：『漢書補注』

清の王先謙。顏師古の注以後、漢書に關する最も優れた注釋書。

史漢：『班馬字類』

宋の婁機。

『四庫全書總目』經部小學類：「『史記』『漢書』に載せる古字僻字を収録し、四聲によって部を分かつ」。

後漢書：『後漢書集解』

清の王先謙。清代學者の『後漢書』研究の成果と水準を代表。

兩漢書：『兩漢刊誤補遺』

宋の呉仁傑。

『四庫全書總目』：「典據は完備し、考證は詳細明晰である」。

三國志：『三國大事年表』

清の萬斯同。『歷代史表』の著者。

四史：『四史發伏』

清の洪亮吉。

晉書：『晉書輯注』

清の呉士鑑・劉承幹。異説を列ね、遺漏を補い、誤りを正す。

宋書：『補宋書刑法志』

清の郝懿行。

南齊書：『齊諸王世表』

清の萬斯同。

梁書：『梁將相大臣年表』

清の萬斯同。

陳書：『陳諸王世表』

清の萬斯同。

魏書：『魏書宗室傳注』

清の羅振玉。

北齊書：『北齊諸王世表』

清の萬斯同。

周書：『周書異域傳地理攷證』、

清の丁謙。

隋書：『隋書經籍志考證』

清の姚振宗。*興膳宏・川合康三『隋書經籍志詳攷』

南史：『南史札記』

清の李慈銘。『越縕堂日記』の著者。

北史：『北史札記』

清の李慈銘。

南北朝史：『南北史年表』

清の周嘉猷。

舊唐書：『舊唐書疑義』

清の張道。

新唐書：『新唐書糾謬』

宋の呉縝。

『四庫全書總目』：「歐陽脩と宋祁が『新唐書』を作った際、文章に主眼を置き、考證には疎かった」。

新舊唐書：『唐方鎮年表』

近人の呉廷燮。いかなる順番で誰がどこの節度使に赴任したか一目瞭然。

新舊五代史：『五代史補』

宋の陶岳。

『四庫全書總目』雜史類：「いささか小説に近いけれども、敘事は首尾一貫してつぶさに備わり、おおむねその實を得ている」。

宋史：『宋史藝文志補』

清の倪燦。後出の『八史經籍志』にも収める。

遼史：『遼史拾遺』

清の厲鶚。『宋詩紀事』の著者。

金史：『金史詳校』

清の施國祁。誤りや脱落など四千餘條を校正。『元遺山詩集箋注』の著者。

元史：『元史本證』

清の汪輝祖。證誤・證遺・證名に分かつ。後出の「姓名」に『史姓韻編』。

宋遼金元史：『宋遼金元四史朔閏攷』

清の錢大昕。後出の「叢考」に『二十二史考異』。

明史：『明史攷證攢逸』

清の王頌蔚。現存する書物の中で最も早く『明史』を全面的に考訂。

叢考：『廿二史劄記』

清の趙翼。「ほかに清の王鳴盛『十七史商榷』。

史表：『歷代史表』

清の萬斯同。兄の萬斯大とともに黃宗羲に師事。→『明史』

食貨：『中國歷代食貨志』

闕名。

地理：『歷代地理志彙編』

清の羅汝楠。

經籍：『八史經籍志』

日本の闕名（輯）。文政八年昌平坂學問所刊本。

姓名：『二十五史人名索引』

叢刻：『史學叢書』

闕名。

第二 編年類（屬は三。目は時代による區分）

通紀之屬	通史を収める。
各代之屬	斷代史を収める。
實録之屬	皇帝の事蹟の日録〔起居注〕を、その死後に編集した書〔實録〕を収める。

一 通紀之屬

『資治通鑑』

宋の司馬光。正史のほか、322種の書物を利用。

二 各代之屬

周秦：『古史紀年』

清の林春溥。

兩漢：『前漢紀』

漢の荀悦。晉の袁宏に『後漢紀』あり。

三國：『魏春秋』

晉の孫盛。

晉：『晉陽秋』

晉の庾翼。

南北朝：『齊春秋』

梁の吳均。志怪小説『續齊諧記』の著者。

唐：『大唐創業起居注』

唐の温大雅。李淵（唐の高祖）が太原で舉兵してから正式に皇帝を稱するまでの 357 日間の事實を記す。

五代：『五代春秋』

宋の尹洙。

宋：『建炎以來繫年要録』

宋の李心傳。通鑑の體例に倣って、南宋の高宗朝 36 年間の事蹟を述べる。

明：『國權』

明の談遷。明朝歴代の實録を基礎とするが、全面的に依據したわけではない。

清：『東華録』

4 種あり（最初の一種編纂の際、國史館が東華門内に存在）。

三 實録之屬

晉：『晉武帝起居注』

宋：『太宗皇帝實録』

明：『崇禎實録』

清：『大清歷朝實録』

第三 紀事本末類（屬は無い。目は時代による區分が基本）

上古三代：『繹史』

清の馬驥。

『四庫全書總目』：「篇末の論斷は馬驥の自作だが、事蹟はすべて廣く古籍を引く」。

通鑑：『通鑑紀事本末』

宋の袁樞。

『四庫全書總目』：「通鑑の原文の範圍を越えないが、取捨選擇し、義例は極めて精密である」。

宋：『三朝北盟會編』

徐夢莘。三朝は北宋の徽宗・欽宗と南宋の高宗。宋と金の交渉に關する記録。

遼金元：『遼史紀事本末』

清の李有棠。『金史紀事本末』（李有棠撰）と同じく、典章制度に關する專題は無い。

明：『明季北畧・南畧』

清の計六奇。北畧は萬曆帝から崇禎帝、南畧は南明政權。

清：『歐洲東方交涉記』

英國の麥高爾。ほかに政書類交渉之屬『各國條約』。

叢刻：『紀事本末彙刻』

第四 古史類（属は無い。目は特定の書物による区分）＊『四庫全書總目』には無い

逸周書：『逸周書』

『尚書』編纂時に逸漏した周書の意。多くは戦国以後の附加。

國語：『國語』

春秋時代の國別の歴史書。西周中期から戦国初期まで。

戰國策：『戰國策』

もとは戦国時代の各國の史官あるいは策士が収集記録したものと言われる。劉向の整理。

山海經：『山海經』

『四庫全書總目』では子部小説家類。袁珂（『中國古代神話』の著者）：「史地の權輿であるのみならず、神話の淵府でもある」。

竹書紀年：『竹書紀年』

『四庫全書總目』では編年類。今本と古本あり。

汲冢書：『汲冢書鈔』

晉の束皙。『晉書』本傳に整理考證に關する記事あり。

穆天子傳：『穆天子傳』

『四庫全書總目』子部小説家類：「記事は大量だが、誇張が多く事實に乏しい」。

世本：『世本』

戦国までの系譜・諡號・都邑などを記した書。

晏子春秋：『晏子春秋』

『四庫全書總目』傳記類：「後人が晏子の逸事を集めて作ったもので、……傳記の祖である」。

越絶書：『越絶書』

漢の袁康。

『四庫全書總目』載記類：「その文章は多方面に伸び広がり、『吳越春秋』に類している」。

吳越春秋：『吳越春秋』

漢の趙煜。

『四庫全書總目』載記類：「ややとりとめのない所があるが、言葉は生彩に富んでいる」。

楚漢春秋：『楚漢春秋』

漢の陸賈。『史記』は漢初部分をこれに依據。

雜：『三墳』

三墳・五典・八索・九丘。古書の名で諸説あり。

第五 別史類（属は無い。目は時代による区分）＊『四庫全書總目』とは定義が異なる

先秦：『帝王世紀』

晉の皇甫謐。

漢：『東觀漢記』

劉珍。光武帝から靈帝まで。『史記』『漢書』とともに三史と稱される。

三國：『續後漢書』

宋の蕭常。後漢ではなく三國蜀に關する書。『季漢書』も同じ。

晉：『王隱晉書』

晉の王隱。「○○晉書」は複数あり。『九家舊晉書輯本』。

南北朝：『建康實錄』

唐の許嵩。『四庫全書總目』：「呉は僭國（勝手に皇帝と稱した國）だが、『三國志』がすでに正史に列せられているので、これを別史類に分類した」。

唐：『修史試筆』

清の藍鼎元。＊『鹿洲公案』（東洋文庫）

五代：『續唐書』

清の陳鱣。後唐と南唐を正統（唐の後繼）とする紀傳體の書。

宋：『東都事略』

王偁。北宋九朝に關する書。

『四庫全書總目』：「元人は宋史を編纂する際、この書を参照しなかったと思われる」。

遼：『契丹國志』

宋の葉隆禮。元代官修の『遼史』に比べておよそ百年早く成立。

金：『大金國志』

宋の宇文懋昭。典章制度に關する記載は『金史』の不足を補うに足る。

元：『元朝秘志』

闕名。＊『モンゴル秘史』（東洋文庫）

明：『石匱書後集』

張岱。天啓までの『石匱藏書』と崇禎の『石匱書後集』。

清：『清史列傳』

闕名。敘事は詳細明確。

叢刻：『宋遼金元四史』

清の席世臣。席氏掃葉山房刊本。『東都事略』など五種。

通史：『李氏藏書』

明の李贄（李卓吾）。戰國から元滅亡までの人物およそ 800 名を收録。

第六 雜史類（屬は三。目は時代による區分）

事實之屬	事件の顛末記で、紀事本末類に入れるには雜駁な書を收める。
瑣記之屬	様々な事件に關する斷片的な記録を收める。
史料之屬	原文書の複製などを收める。

一 事實之屬（明代の目は、南明政權も含めて皇帝ごと）

漢：『漢皇德傳』

侯瑾。『後漢書』本傳。

晉：『晉八王故事』

盧綝。『晉書』に傳無し。

陳：『平陳記』

宋闕名。

唐：『東觀奏記』

裴庭裕。もっぱら宣宗朝の事を記す。

漢唐：『漢唐秘史』

明の朱權。劉三吾らが洪武年間に進講した漢唐の事蹟を分類編集。

宋：『北狩見聞録』

曹勛。

『四庫全書總目』：「記事はおおむね事實に近く、『北狩日記』諸書の虚妄を明らかにする」。

遼：『焚椒録』

王鼎。

『四庫全書總目』：「道宗の懿德皇后蕭氏が宮婢の單登によって禍に遭う事を記す」。

金：『大金弔伐録』

闕名。

『四庫全書總目』：「金の太祖・太宗が軍隊を動かして宋を破った事を記す」。

元：『蒙古史料校注四種』

清の王國維。

明太祖：『洪武聖政記』

宋濂。

『四庫全書總目』：「ほぼ『貞觀政要』の體例に倣う」。

惠帝：『建文遜國之際月表』

清の劉廷燮。

成祖：『平定交南録』

丘濬。

仁宗：『仁廟聖政記』

闕名。

宣宗：『三朝聖諭録』

楊士奇。

『四庫全書總目』：「永樂・洪熙・宣德三朝における皇帝直々の詔旨および奏對の語を載せる」。

英宗：『北征事蹟』

袁彬。

景帝：『北使録』

李實。『四庫全書總目』では『出使録』あるいは『使北録』。

英宗：『復辟録』

楊瑄。

憲宗：『平夷録』

趙輔。

孝宗：『平蠻録』

王軾。弘治13年(1500)、普安の賊の婦米魯を討伐した時の記録。

武宗：『平濠記』

錢德洪。王陽明が朱宸濠の亂を平定した際の秘事を記す。

世宗：『遼紀』

田汝成。『西湖游覽志』の著者。

『四庫全書總目』：「まったく考訂に資するに足りない」。

穆宗：『伏戎紀事』

高拱。

神宗：『平播全書』

李化龍。

熹宗：『東林本末』

吳應箕。＊謝國楨『晚明史籍考』（萬曆～三藩の亂）

毅宗：『烈皇小識』

文秉。崇禎朝の史事を記す。

福王：『揚洲十日記』

王秀楚。＊東洋文庫

唐王：『倣指南錄』

范康生。隆武2年丙戌（1646）の贛州城攻防戦の事を記す。

永明王：『書事七則』

陳貞慧。

明總：『明季稗史彙編』

清初：『蜀碧』

彭遵泗。『四庫全書總目』では傳記類。＊東洋文庫

清中葉前期：『欽定平定臺灣紀略』

清中葉後期：『英吉利廣東入城始末』

河上釣叟。

清季：『中東戰紀本末』

美國の林樂知（譯）・清の蔡爾康（輯）。「東」は日本。

清總：『清開國史料考』

謝國楨。

民國：『護國軍紀實』

鄧之誠。

二 瑣記之屬

晉：『晉朝雜事』

闕名。

南北朝：『宋拾遺錄』

梁の謝綽。

唐：『明皇雜錄』

鄭處誨。明皇は玄宗。

『四庫全書總目』子部小説家類：「すべて實録というわけではない。」

五代：『洛陽縉紳舊聞記』

宋の張齊賢。『四庫全書總目』では子部小説家類。

宋：『涑水記聞』

司馬光。

『四庫全書總目』子部小説家類：「宋代の舊事を雜然と記す。」

遼：『燕北錄』

宋の王易。

金：『歸潛志』

元の劉祁。金代の歴史を研究する上で重要な著作。『四庫全書總目』では子部小説家類。

元：『蒙韃備録』

宋の孟珙。王國維に『蒙鞬備錄箋證』。
明：『弇山堂別集』
王世貞。明史編纂の際に大いに役立つ。
清：『嘯亭雜錄』
昭槤。道光初年以前のあらゆる方面に關する貴重な史料。
歴代：『鐵厓咏史』
元の楊維禎。

三 史料之屬

『太平天國文書』

第七 載記類（屬は無い。目は時代に従って國別）

中山：『鮮虞中山國事表疆域圖說』

清の王先謙。

古蜀：『蜀王本紀』

漢の揚雄。

吳：『吳疆域圖說』

清の范本禮。

成漢：『僞成將相大臣年表』

清の萬斯同。

前趙：『和苞漢趙記』

和苞。

前燕：『范亨燕書』

范亨。

前涼：『張諮涼記』

張諮。

後趙：『鄴中記』

晉の陸翽。

後燕：『高閭燕志』

後魏の高閭。

後涼：『涼州記』

段龜龍。

北涼：『北涼百官表』

清の繆荃孫。

南燕：『張詮南燕書』

張詮。

北燕：『北燕百官表』

清の繆荃孫。

前秦：『車頻秦書』

車頻。

後秦：『姚和都後秦記』

姚和都。

西秦：『西秦百官表』

清の練恕。

南涼：『南涼百官表』

清の繆荃孫。

西涼：『西河記』

晉の喻歸。

夏：『夏百官表』

清の繆荃孫。十六國は「二趙、三秦、四燕、五涼、成漢、夏」。

五胡總：『十六國春秋』

後魏の崔鴻。

『四庫全書總目』：「舊本は魏の崔鴻撰と題するが、實は明の嘉興の屠喬孫・項琳の僞本である。……しかしその文はすべて古書を綴り合わせたもので、杜撰ではない。十六國の事を考える者はもとよりこの編を總匯（集大成）となすべきである」。

高昌：『高昌麴氏年表』

清の羅振玉。

後梁：『後梁春秋』

明の姚士粦。

李密：『壺關錄』

唐の太行山人。

南詔：『南詔野史』

明の楊慎。

渤海：『渤海國志長編』

近人の金毓黻。

蜀：『錦里耆舊傳』

宋の句延慶。

『四庫全書總目』：「王氏・孟氏が蜀に據った時の事を記す。……その體例は編年に近い」。

吳越：『吳越備史』

宋の范炯・林禹。

『四庫全書總目』：「錢鏐以下、各代の事蹟を記す」。

楚：『三楚新録』

宋の周羽翀。楚の地に據って王と稱した者（馬殷・周行逢・高季興）の記録。

南漢：『南漢書』

清の梁廷枏。

瓜沙：『瓜沙曹氏年表』

清の羅振玉。

南唐：『南唐書』

宋の馬令と陸游の二種。

五代總録：『十國春秋』

清の吳任臣。歐陽脩の『五代史』に付する形で、十國について『晉書』に倣い載記を作る。

西夏：『西夏紀事本末』

清の張鑑。

西遼：『西遼紀年表』

清の汪遠孫。

齊：『偽齊錄』

宋の楊堯弼。『四庫全書』に『偽豫傳』はあるが、この書には言及せず。「豫」は金によって建てられた傀儡政權である偽齊の皇帝の劉豫。

元季潛竊：『呉王張士誠載記』

近人の支偉成。

福王潞王埈：『南都死難紀略』

清の顧苓。

唐王：『東南紀事』

清の邵廷采。

魯王：『日本乞師紀』

清の黃宗羲。『行朝錄』（分類は季明總）の一部。

桂王：『永曆實錄』

清の王夫之。十六年にわたった永曆政權の政治・軍事の史實を概括。

季明總：『明季三朝野史』

「季明」は南明のこと、*別史類『季漢書』

安南：『大越史記全書』

安南の呉士連（等）。ヴェトナムの編年體の正史。

第八 詔令奏議類（屬は二。目は時代による区分）

詔令之屬	皇帝の詔を収める。
奏議之屬	臣下の奏議を収める。

一 詔令之屬

唐：『唐大詔令集』

宋の宋敏求。この書に収める 1460 餘件の詔書は、唐代の政治・經濟・文化などあらゆる方面において第一級の史料。

明：『皇明詔令』

闕名。

清：『硃批諭旨』

地方官の摺奏＋雍正帝が硃批をもって批答した諭旨。

二 奏議之屬

漢：『漢賈誼政事疏攷補』

清の夏忻。

晉：『山公啓事』

山濤（竹林七賢の一）。

唐：『陸宣公奏議』

陸贄。

宋：『范文正公政府奏議』

范仲淹。治體・邊事・薦舉・雜奏の四類。

明：『徐氏庖言』

徐光啓。『農政全書』の著者。利瑪竇（マテオ・リッチ）口譯『幾何原本』の筆録者。
清：『南海先生四上書記』
康有爲。
歴代：『歴代名臣奏議』

第九 傳記類（屬は十一。目は屬によって立て方が異なる）

聖賢之屬	周公・孔子・孔子の弟子・孟子などの傳を収める。
別傳之屬	個人の傳記を収める。
總録之屬	複數人の傳記を収める。
郷賢之屬	一地方の人物の合傳を収める。
家乘之屬	一家族の人物の合傳を収める。
師友之屬	交遊關係のある人物の合傳を収める。
雜傳之屬	各種カテゴリーに基づく人物の傳を収める。
自序之屬	自叙傳や日記を収める。
記言記事之屬	注目すべき發言や行動について記録する書を収める。
年譜之屬	年譜を収める。
姓名年齒之屬	家の出自、名前の由來、生卒年などに關する書を収める。

一 聖賢之屬（目は孔子を頂點とする序列による區分）

先聖：『孔子編年』

宋の胡仔。『荅溪漁隱叢話』の著者。

『四庫全書總目』：「年譜と言わず、編年と言うのは、聖人を尊ぶからである」。

弟子：『孔子弟子目錄』

漢の鄭玄。

聖裔：『東家雜記』

宋の孔傳。

『四庫全書總目』：「孔傳、字は世文、至聖（孔子）の四十七代の孫である」。

東家は、孔子の西隣に住んだ人が、孔子が聖人であることを知らず、「東家の丘（孔子の名）」と呼んだという故事にちなむ。孔子に關する雜事・舊蹟を記す。

聖裔には、孔子の子孫による孔子關連の著作が分類される。ほかに金の孔元措の『孔氏祖庭廣記』、清の孔尚任（戯曲『桃花扇』の作者）の『出山異數紀』など。

孟子：『孟子生卒年月考』

清の閻若璩。

從祀：『孔廟從祀末議』

清の閻若璩。從祀は、後世の儒者を孔子廟に併せ祭ること。

褒崇：『聖門志』

明の呂元善。

『四庫全書總目』：「山東に赴任していた時、手に入れた孔氏諸家の譜牒が詳細であったので、その宗族の世系を編纂した」。

褒崇は、讚美崇拜の意。ここでの對象は孔子の子孫。

二 別傳之屬（目は時代による區分）

漢：『鄭玄別傳』

□闕名。鄭玄の傳。

三國：『漢丞相諸葛忠武侯傳』

宋の張栻。諸葛亮の傳。

晉：『懷古錄』

元の謝應芳。顧榮の傳。

南北朝：『華陽陶隱居內傳』

宋の賈嵩。陶弘景の傳。＊子部道家類『眞誥』

唐：『顏魯公行狀』

唐の因亮。顏真卿の傳。

宋：『清真先生遺事』

清の王國維。周邦彥の傳。

元：『雲林遺事』

明の顧元慶。倪瓚の傳。

明：『鄭成功傳』

清の黃宗羲。鄭成功の傳。

清：『曾文正公事略』

清の王安定。曾國藩の傳。

三 總録之屬（目は時代による区分）

漢：『英雄記』

王粲。

『四庫全書總目』：「隋志は八卷と著録し、注に残闕と言うから、その本は長らく失われている」。

晉：『晉諸公讚』

傅暢。

唐：『凌煙閣功臣圖像』

清の劉源。

宋：『宋遺民録』

明の程敏政。

元：『元朝名臣事略』

蘇天爵。

『四庫全書總目』：「おおむね諸家の文集に載せる墓碑・墓誌・行狀・家傳に依據している」。

明：『國朝列卿紀』

雷禮。

『四庫全書總目』：「羅列された明代の職官姓名は……嘉靖四十五年で終わっている」。

清：『國朝耆獻類徵』

李桓。

近世：『近世人物志』

清の金梁。

歴代叢録：『列朝后妃傳稿』

張采田。

四 郷賢之屬（目は地域による区分）

舊直隸：『大清畿輔先哲傳』

近人の徐世昌。名臣・名將・師儒・文學・高士・賢能・忠義・孝友。

江蘇：『南吳舊話録』

清の李延昉。もっぱら松江・上海郷賢遺事を記すので、それにちなんで南吳と題する。

安徽：『皖學編』

清の徐定文。皖は安徽のこと。

河南：『汝南先賢傳』

晉の周斐。

陝西：『三輔決録』

漢の趙岐。『孟子』の注者。三輔は京兆・馮翊・扶風。

浙江：『會稽先賢傳』

呉の謝承。別史類に『後漢書』あり。

湖北：『楚國先賢傳』

晉の張方。四種の輯佚本を対照した舒焚の校注本（1986年）あり。

湖南：『零陵先賢傳』

晉の司馬彪。『續漢書』の著者。

兩湖：『歷朝傳記九種』

清の陳運溶。

四川：『益都耆舊傳』

晉の陳壽。『三國志』の著者。

福建：『閩川名士傳』

唐の黃璞。

廣東：『百越先賢志』

明の歐大任。

『四庫全書總目』：「多く史傳に依據し、……體例は謹嚴で、地方志の冗漫さに勝る」。

廣西：『桂陽先賢傳』

呉の張勝。清の陳運溶輯『歷朝傳記九種』に收める。

雲南：『滇南碑傳集』

近人の方樹海。

五 家乘之屬（目は時代による区分）

唐：『皮子世録』

皮日休。

宋：『家世舊聞』

陸游。

元：『蒙古世系譜』

□闕名。

明：『廬江郡何氏家記』

何崇祖。

清：『寶應劉氏家譜』

劉秉鈞（等）。

近人：『上海朱氏族譜』

朱澄儉。

六 師友之屬

『船山師友記』

清の羅正鈞。船山（王夫之）に關係する 157 人の傳。

七 雜傳之屬（目は内容による區分）

景仰：『群輔錄』

晉の陶潛。

忠義：『辛亥殉難記』

清の金梁。

孝感：『孝子傳』

漢の劉向。

烈士：『烈士傳』

□闕名。

獨行：『高士傳』

晉の皇甫謐。『帝王世紀』の著者。

『四庫全書總目』：「宋代にすでに二種類のテキストがあり、改竄されて本來の姿ではない」。

文士：『唐才子傳』

元の辛文房。

『四庫全書總目』：「計有功の『唐詩紀事』に比べると、敘述にやや筋道が備わっている」。

黨綱：『元祐黨籍碑考』

明の海瑞。舊法黨の名籍を刻して天下に頒布した石碑。

結社：『復社姓氏錄』

明の吳翀。＊小野和子『明季黨社考』

早慧：『幼童傳』

梁の劉劭。

游俠：『劒俠傳』

唐闕名。

『四庫全書總目』子部小説家類：「明人が『太平廣記』の文章を勦襲したものである」。

列女：『列女傳』

漢の劉向。＊東洋文庫

恩倖：『高力士傳』

唐の郭湜。

神仙：『神仙伝』

晉の葛洪。『抱朴子』の著者。＊平凡社ライブラリー

女仙：『南岳魏夫人傳』

唐の顔真卿（あるいは闕名）。

優伶：『燕都名伶傳』

張江裁。道光・咸豐以後の燕都（北京）の名優の傳。

倡妓：『板橋雜記』

清の余懷。『四庫全書總目』では子部小説家類。＊東洋文庫

逆貳：『安祿山事蹟』

唐の姚汝能。

雜：『泰西人物志』

清の顧鳴鳳。名王・名臣・名儒・雜家。アレキサンダー大王など。

八 自序之屬（目は時代による区分）

唐：『文武兩朝獻替記』

李德裕。文武は、唐の文宗と武宗。

宋：『蘇黃門龍川略志』

蘇轍。

元：『郭天錫手書日記』

郭昇。

明：『味水軒日記』

李日華。

清初：『三魚堂日記』

陸隴其。

清中葉前期：『鹿洲公案』

藍鼎元。＊東洋文庫

清中葉後期：『浮生六記』

沈復。＊岩波文庫

清季：『忠王李秀成自述手稿』

李秀成。＊リンドレー『太平天國——李秀成の幕下にありて』（東洋文庫）

近人：『集蓼編』

清の羅振玉。

九 記言記事之屬（目は時代による区分。別録〔個人〕と總録〔複數人〕あり）

唐以前別録：『軒轅黃帝傳』

□闕名。

唐別録：『魏鄭公諫錄』

王綝。魏鄭公は魏徵。

宋別録：『欒城先生遺言』

蘇籀。

『四庫全書總目』子部雜家類：「蘇轍の孫で、……十餘歳の時、潁昌で蘇轍に伺候していた」。

宋總録：『宋朱晦庵先生名臣言行録』

朱熹。

『四庫全書總目』：「朱子の編纂の本意は、見聞を広めるためではなく、世の風教に資することを目的とする」。

明別録：『梅墟別録』

李日華・鄭琰。梅墟は周履靖（李日華の外従父）の號。

明總録：『明名臣言行録』

清の徐開任。
清別録：『顏習齋先生言行録』
鍾錢。顏習齋は顏元。
清總録：『國朝名臣言行録』
王炳燮（十六卷）と董壽（三十卷）。

十 年譜之屬（目は時代による区分）

漢：『太史公繫年考略』
太史公は司馬遷。
三國：『魏陳思王年譜』
陳思王は曹植。
六朝：『陶靖節先生年譜』
陶靖節は陶潛（陶淵明）。
唐：『李太白年譜』
李太白は李白。
北宋：『東坡先生年譜』
東坡は蘇軾。
南宋：『朱子年譜』
朱子は朱熹。
金：『元遺山先生年譜』
元遺山は元好問。
元：『虞文靖公年譜』
虞文靖公は虞集。
明：『陽明先生年譜』
陽明は王守仁（王陽明）。
明季清初：『顧亭林先生年譜』
顧亭林は顧炎武。
清中葉前期：『鄭板橋年表』
鄭板橋は鄭燮。
清中葉後期：『戴東原先生年譜』
戴東原は戴震。
清季：『曾文正公年譜』
曾文正公は曾國藩。
近人：『梁啓超年譜長編』
* 岩波書店
叢刻：『唐宋詞人年譜十種』
近人の夏承燾。

十一 姓名年齒之屬（目は内容による区分）

姓：『元和姓纂』
唐の林寶。中唐以前の姓氏・族望に関する詳細な記載。『四庫全書總目』では子部類書類。
諱：『歷代諱名考』

清の劉錫信。
 別號：『自號錄』
 宋の徐光溥。
 謚法：『國朝謚法考』
 清の王士禛。
 年齒：『歷代人物年里碑傳總表』
 近人の姜亮夫。

第十 時令類 (屬・目ともに無い)

『四民月令』

漢の崔寔。＊東洋文庫

第十一 地理類 (屬は十四。目は屬によってやや異なるが、基本的に地域による区分)

總志之屬	中國全土に關する書を收める。
輿圖之屬	地圖を收める。
古地志之屬	元以前の地方志を收める。
今地志之屬	明以後の地方志を收める。
雜地志之屬	府縣志が採る事項別のスタイルにこだわらない書を收める。
邊防之屬	邊境防備に關する書のうち、地理的要素に主眼を置いたものを收める。 ＊軍事制度に主眼を置く書は政書類軍政之屬に分類する。
外紀之屬	外國に關する書を收める。
水道水利之屬	おもに地理的關心に基づいて河川の状況を述べた書を收める。 ＊水利技術に主眼を置く書は政書類考工之屬に分類する。
考古之屬	すでに失われた古蹟について考證した書を收める。
名勝之屬	景勝地について述べた書を收める。
宮殿學校祠墓寺觀名園之屬	建築物に關する見聞を記した書を收める。
游記紀程路程總記之屬	旅行記を收める。
土諺習俗之屬	ある地方における獨特のことわざや風俗を記した書を收める。 ＊言語學的な興味に基づく書は小學類訓詁之屬に分類する。
目錄叢刻之屬	

一 總志之屬 (中國全土を對象にするので、目は時代による区分)

周秦：『禹受地記』

漢：『應劭地理風俗記』

應劭。『風俗通義』の著者（子部雜家類雜說之屬）。

晉：『晉太康三年地記』

闕名。太康三年は282年。

南北朝：『十三州志』

後魏の關駟。

唐：『元和郡縣圖志』

李吉甫。

『四庫全書總目』：「隋唐の（經籍・藝文）志に著録する中で……今に傳わるものとしては、この書が最も古い」。

宋：『太平寰宇記』

樂史。

『四庫全書總目』：「後の地方志は必ず人物や藝文といった項目を列ねるが、その體例はすべて樂史に始まる」。

元：『大元大一統志』

殘本。『遼海叢書』本に詳細な考證あり。

明：『大明一統志』

『四庫全書總目』：「その義例はひとえに元志（『大元一統志』）に倣っており、それゆえ書名も沿用している」。

清：『天下郡國利病書』

顧炎武。

『四庫全書總目』：編纂の體例というものが無いので、未完の稿本だと思われる」。

目の「地域による區分」は、ここに收められる『大清一統志』に依據する。

民國：『中華民國省縣地名三彙』

李炳衡（等）。

二 輿圖之屬

總圖：『大明地圖』

明闕名。＊漢字情報研究センターのホームページにて公開。

各省：『臺灣輿圖』

清の夏獻綸。

掌故：『出塞圖畫山川記』

清の溫睿臨。

目錄：『國立北平圖書館中文輿圖目錄』

三 古地志之屬 ＊『四庫全書總目』では都會郡縣之屬。

劉緯毅『漢唐方志輯佚』（北京圖書館出版社、1997）。

舊直隸：『冀州圖經』

江蘇：『吳地記』

唐の陸廣微。原書は唐代に散佚。『四庫全書總目』では古蹟之屬。現在、江蘇地方文獻叢書の一として出版されている。

安徽：『新安志』

宋の羅願。

『四庫全書總目』：「その物産の部門は、羅願の専門の學にほかならない」。

山西：『并州記』

山東：『齊乘』

元の于欽。

『四庫全書總目』：「元代の地方志の中で最も古法を保持している」。

河南：『洛陽記』

晉の陸機。

陝西：『長安志』

宋の宋敏求。

『四庫全書總目』古蹟：「記述は精緻で幅廣く、舊都の遺事はこれによってきちんと伝えられた」。

甘肅：『沙州圖經』

唐闕名。

浙江：『咸淳臨安志』

宋の潛説友。

『四庫全書總目』：「行き届いた記述がなされ、考據に資す」。

江西：『豫章古今記』

劉宋の雷次宗。

湖北：『荊州記』

劉宋の盛弘之。但し同名異書が多数ある。

湖南：『長沙圖經』

唐闕名。

兩湖：『荊湖圖經』

四川：『華陽國志』

晉の常璩。

『四庫全書總目』載記類：「敘述は開闢から永和三年（347）まで」。

福建：『三山志』

宋の梁克家。

『四庫全書總目』：「(五代)十國の記事は、史籍で漏れ落ちたものが多い」。

廣東：『南越志』

□の沈懷遠。

雲南：『紀古滇説原集』

元の張道宗。滇は雲南のこと。

叢録：『墨娥漫録』

宋闕名。

四 今地志之屬 *『中國地方志聯合目錄』（中華書局、1985年）

『明代方志考』（四川大學出版社、2001年）。

舊直隸：『畿輔通志』『光緒順天府志』『安次縣志』

舊奉天：『盛京通志』『錦州府志』『錦縣志』

吉林：『吉林通志』

黑龍江：『黑龍江外記』

江蘇：『江南通志』『蘇州府志』『吳縣志』
安徽：『重修安徽通志』『續修廬州府志』『合肥縣志』
山西：『山西通志』『大同府志』『大同縣志』
山東：『山東通志』『濟南府志』『平原縣志』
河南：『河南通志』『開封府志』『中牟縣志』
陝西：『陝西通志』『西安府志』『藍田縣志』
甘肅：『甘肅新通志』『敦煌縣志』
浙江：『浙江通志』『杭州府志』『錢塘縣志』
江西：『江西通志』『九江府志』『德安縣志』
湖北：『湖北通志』『荊州府志』『江陵縣志』
湖南：『湖南通志』『長沙府志』『長沙縣志』
四川：『四川通志』『重慶府志』『巴縣志』
福建：『重纂福建通志』『臺灣府志』『臺灣縣志』
廣東：『廣東通志』『廣州府志』『新會縣志』
廣西：『廣西通志』『梧州府志』『藤縣志』
雲南：『雲南通志』『雲南府志』『雲南縣志』
貴州：『貴州通志』『遵義府志』『桐梓縣志』
蒙古：『蒙古游牧記』
青海：『青海誌』
西藏：『西藏圖考』
新疆：『哈密志』
叢刻：『鄉土志叢編』
埭：『方志略例』
清の章學誠。＊内藤湖南『支那史學史』

五 雜地志之屬

舊直隸：『欽定日下舊聞考』

『四庫全書總目』都會郡縣：「朱彝尊の『日下舊聞』原本に基づき、繁を刪り闕を補う」。

東三省：『欽定滿洲源流考』

部族・疆域・山川・國俗の四部門。東三省は、清から民國初にかけて、山海關以東のいわゆる滿洲の地を指した呼称。

盛京：『御製盛京賦』

清の高宗弘曆（撰）・鄂爾泰（等注）。盛京は、清が燕京（北京）に遷都する前の都。現在の遼寧省瀋陽市。

黒龍江：『龍沙紀略』

清の方式濟。黒龍江に流されていた父の方澄蟬を訪ねた際の見聞によって古蹟を考察した書。

吉林：『寧古塔紀略』

清の呉振臣。

江蘇：『中吳紀聞』

宋の龔明之。

『四庫全書總目』雜記：「吳中の故老の嘉言・懿行、およびその風土・人文を採録する」。

安徽：『皖省志略』

清の朱雲錦。

山西：『晉問』

唐の柳宗元。

山東：『山左筆談』

明の黃淳耀。

『四庫全書總目』雜記：「引用が無秩序で、しっかりした構成に闕ける。……ひょっとしたら偽託かも知れない」。

河南：『東京夢華錄』

宋の孟元老。

『四庫全書總目』雜記：「汴京の繁榮を追憶する」。＊東洋文庫

陝西：『雍錄』

宋の程大昌。「職官」「軍制」等の項もあり。『四庫全書總目』では古蹟之屬。

甘肅：『敦煌雜鈔』

清の常鈞。

浙江：『夢梁錄』

宋の呉自牧。

『四庫全書總目』雜記：「『東京夢華錄』の體例に全面的に依據する」。＊東洋文庫

江西：『江西輿地圖說』

明の趙秉忠。

湖北：『渚宮舊事』

唐の余知古。

『四庫全書總目』雜史類：「上は鬻熊から下は唐代まで、記事はすべて荊楚の事である」。

湖南：『岳陽風土記』

宋の范致明。

『四庫全書總目』雜記：「宋人の風土に關する書の中では、よくできたものである」。

四川：『茅亭客話』

宋の黃休復。

『四庫全書總目』子部小説家類：「その見聞を雜然と記録し、……すべて蜀の逸事である」。

福建：『閩小紀』

清の周亮工。清代で比較的早く福建地方の風土・人情・物産・工藝・掌故を記述した書。

廣東：『嶺表錄異』

唐の劉恂。

『四庫全書總目』雜記：「劉恂の原本はすでに長らく失われている」。

廣西：『赤雅』

明の鄺露。

『四庫全書總目』外記：「范成大の『桂海虞衡志』に劣るものではない」。

雲南：『蠻書』

唐の樊綽。

『四庫全書總目』載記類：「宋代ではこの書を非常に重んじたが、明代以降、傳わらなくなった」。

貴州：『黔志』

明の王士性。黔は貴州のこと。

『四庫全書總目』遊記：「游記の中的一篇を、本屋が抜き出して、別にこの名をつけた」。

雲貴：『滇黔紀遊』

清の陳鼎。

『四庫全書總目』遊記：「敘述には趣があるが、時に鄙語が出てくるのを免れない」。

新疆：『哈密國王記』

明の馬文升。

青海：『青海考略』

清の龔柴。

西康：『西康建省記』

清の傅華峰。西康は1928年、四川省の西、青海省の南に設置されていた省。1955年10月に廢止。

西藏：『游歷西藏紀』

英國の李提摩太（ティモシー・リチャード）。

蒙古：『蒙古五十一旗攷』

清の齊召南。

六 邊防之屬

『北邊備對』

宋の程大昌。

『四庫全書總目』邊防：「史傳の舊文を拾い集めたもので、考訂はしていない」。

七 外紀之屬

日本：『日本國志』

清の黃遵憲。

琉球：『中山傳信錄』

清の徐葆光。＊原田禹雄譯注『中山傳信錄』

朝鮮：『宣和奉使高麗圖經』

宋の徐兢。28門に分かつ。

安南：『安南志畧』

ヴェトナム。元の黎崱。『四庫全書總目』では載記類。

緬甸：『緬甸圖說』

ビルマ。清の吳其禎。

暹羅：『暹羅近事末議』

シャム。清の王錫祺。

尼泊爾不丹：『廓爾喀不丹合考』

ネパール・ブータン。清の龔柴。廓爾喀はグルカ（Gurkha）で、地名あるいは部族名。この部族がネパール全土を支配すると、王國の正式名稱となる。

印度：『五印度論』

インド。清の徐繼畲。『瀛環志畧』（外紀之屬・總志）の著者。

眞臘：『眞臘風土記』

カンボジア。元の周達觀。

南海：『南洋事宜論』

清の藍鼎元。
西域：『亞剌伯沿革考』
清の李光廷。
帕米爾：『帕米爾圖說』
パミール。清の許景澄。
俄羅斯：『俄羅斯形勢考』
ロシア。清の何秋濤。邊防之屬に『北徼彙編』（咸豐帝に『朔方備乘』という名を賜る）。
歐洲：『英吉利小記』
清の魏源。『海國圖志』の著者。
阿非利加：『黑蠻風土記』
アフリカ。英國の立温斯敦（リヴィングストン）。
美洲：『古巴雜記』
アメリカ。清の譚乾初。古巴はキューバ。
澳大利亞洲：『澳大利亞可自強說』
オーストラリア。清の薛福成。『出使英法義比四國日記』の著者。
總志：『大唐西域記』
唐の釋玄奘奉敕（譯）・唐の釋辯機（撰）。＊東洋文庫。西域行記データベース（漢字情報研究センター）。
叢刻：『荒外奇書』
清の馬俊良。

八 水道水利之屬（黄河、長江、淮水を別扱い）

總志：『水經注』
後魏の酈道元。
『四庫全書總目』河渠：「明以來、絶えて善本無し」。
『水經注』の校勘に最も大きな役割を果たしたのは、楊守敬と熊會貞。
河水：『欽定河源記畧』
乾隆四十七年の敕撰。侍衛の阿彌達に命じて黄河の源を探索させる。
江水：『長江圖說』
清の馬徵麟（等）。
淮水：『復淮故道圖說』
清の丁顯。
舊直隸：『直隸河渠志』
清の陳儀。
『四庫全書總目』河渠：「水利の諸事に攜わり、あらゆる水性や地形をきちんと辨えていた」。
江蘇：『江蘇水利圖說』
清の李慶雲。
安徽：『宛陵二水評』
明の潘之恆。
山西：『山西省各縣渠道表』
闕名。
山東：『山東運河備覽』
清の陸耀。

河南：『惠濟歌輯說』

清の王儒行。

陝西：『關中水道記』

清の孫馮翼。

甘肅：『甘肅諸水編』

清の齊召南。

浙江：『兩浙水利詳考』

闕名。

江西：『江西水道考』

闕名。

兩湖：『洞庭湖志』

清の綦世基（原本）・清の沈廷瑛（總纂）・清の夏大觀（補輯）・清の陶澍（督修）・清の萬年淳（再訂）。

四川：『蜀水攷』

清の陳登龍。

福建：『閩江諸水編』

清の齊召南。

兩廣：『粵江諸水編』

清の齊召南。

緬滇：『雲南水道考』

清の李誠。緬滇はビルマと雲南。

西陲：『西域水道記』

清の徐松。『登科記考』（政書類科舉學校之屬）の著者。

滿蒙：『蒙古水道略』

清の龔自珍。

北徼：『俄羅斯水道記』

清の何秋濤。→外紀之屬・俄羅斯

外國：『日本河渠志』

清の傅雲龍。

海道：『海道經』

明闕名。

『四庫全書總目』河渠：「海運道里の數を記す。……舟師で海事を習った者が記録したのであろう」。

山脈：『陝甘諸山考』

清の戴祖啓。

九 考古之屬

總志：『歷代帝王宅京記』

清の顧炎武。

『四庫全書總目』都會郡縣：「記録されているのはすべて歴代建都の制度である」。

舊直隸：『京東考古錄』

清の顧炎武。

『四庫全書總目』雜記：「その文はいずれも顧炎武が著した『日知錄』と『昌平山水記』に見える」。

東三省：『東三省輿地圖説』

清の曹廷杰。

江蘇：『六朝事迹編類』

宋の張敦頤。六朝史および南京地方史の豊富な史料を載せる。『四庫全書總目』では雜記。

山西：『山西各縣名勝古蹟古物調査表』

近人の王堉昌（等）。

山東：『河朔訪古記』

元の迺賢。

『四庫全書總目』遊記：「金石の遺文について非常に詳しく言及しており、いずれも考證の補助とするに足る」。

河南：『元河南志』

元の闕名（撰）・清の徐松（輯）。

陝西：『關中勝蹟圖志』

清の畢沅。

『四庫全書總目』古蹟：「郡縣を経とし、地理・名山・大川・古蹟の四つの子目を緯とする」。

浙江：『南宋古蹟攷』

清の朱彭。

邊徼：『西州圖經』

唐闕名。『敦煌石室遺書』に收める。

十 名勝之屬（目に「未詳」あり）

總志：『遊名山記』

明の都穆。

舊直隸：『盤山志』

清の蔣溥（等奉敕）。

『四庫全書總目』山川：「盤山は薊州城の北二十五里にある」。

江蘇：『茅山志』

元の劉大彬。

『四庫全書總目』山川：「劉大彬は延祐年間に茅山第四十五代の宗師を受け繼ぐ」。

安徽：『黃山圖經』

元闕名。

山西：『清涼山志』

明の釋鎮澄。

山東：『泰山紀勝』

清の孔貞瑄。

『四庫全書總目』遊記：「初めて泰安の教諭に任ぜられた時、周遊した地について記述する」。

河南：『說嵩』

清の景日畛。

『四庫全書總目』山川：「舊文をとりまとめて作ったに過ぎない」。

陝西：『西嶽華山志』

金の王處一。

『四庫全書總目』道家類：「華山の神仙の故事を載せており……地方志の政党的な體例ではない」。

甘肅：『首陽山記』

清の蔣熏。

浙江：『西湖遊覽志』

明の田汝成。

『四庫全書總目』山川：「名勝にちなんで事蹟を附し、大小すべて漏れなくカバーする」。

江西：『廬山記』

宋の陳舜俞。

『四庫全書總目』山川：「北宋の地方志で世に傳わるものはほとんど無い。この書の考證は精確である」。

湖北：『遊赤壁記』

清の邵長衡。

湖南：『南嶽小録』

唐の李冲昭。

『四庫全書總目』山川：「唐代の名山洞府に關する書は……現在残っていないが、これのみ舊本（古いテキスト）で流傳している」。

四川：『蜀中名勝記』

明の曹學佺。

『四庫全書總目』山川：「蜀の掌故を談ずる者は、『全蜀藝文志』とこの書を取材の源とした」。

福建：『武夷山志』

清の董天工。

廣東：『羅浮志』

明の陳璉。

廣西：『桂勝』

明の張鳴鳳。

『四庫全書總目』山川：「資料の調査収集は非常に詳細であり、また事項ごとに考證を附し、數多く訂正を加えている」。

雲南：『雲南山川志』

明の楊慎。

貴州：『貴陽山泉志』

明の慎蒙。

新疆：『淨海記』

清の洪亮吉。

滿洲：『封長白山記』

清の方象瑛。

『四庫全書總目』雜史類：「康熙十六年……長白山に派遣された時の事を記す」。

未詳：『遊鱸山記』

清の羅有高。

日本：『遊日光山記』

清の黎庶昌。『古逸叢書』の編者（叢書部景仿類）。

朝鮮：『東國名勝記』

朝鮮の金敬淵。

西洋：『白雷登避暑記』

清の薛福成。白雷登は英國のブライトン。ト來敦の三字を當てる場合もある。黎庶昌『ト來敦記』。

十一 宮殿學校祠墓寺觀名園之屬（目は建物の種類による区分）

宮苑：『三輔黃圖』

漢闕名。原書（漢末から三國魏）と今本（中唐以後）。

陵寢：『南宋六陵遺事』

清の萬斯同。

橫舍：『白鹿書院志』

清の毛德琦。四庫全書總目』では古蹟。＊朱熹『白鹿書院教規』（子部儒家類家訓勸學鄉約之屬）。

園第：『洛陽名園記』

宋の李格非（李清照の父）。四庫全書總目』では古蹟。全部で十九か所。

祠墓：『岳廟志略』

清の馮培。岳廟は岳飛の廟。

梵寺：『洛陽伽藍記』

後魏の楊街之。『四庫全書總目』では古蹟。＊東洋文庫

道觀：『金陵玄觀志』

明闕名。

名園：『勺園圖錄考』

近人の洪業。

雜：『文瀾閣志』

清の孫樹禮・孫峻。

十二 游記紀程路程總記之屬（目は時代による区分）

南北朝：『西征記』

晉の戴祚。

唐：『來南錄』

李翱。

宋：『入蜀記』

陸游。

『四庫全書總目』傳記類：「他の人間の旅行記が……瑣末な記載に終始するのとは比べものにならない」。＊東洋文庫

金：『遼東行部志』

王寂。作者が提點遼東路刑獄だった時、各地を巡察して得た見聞を記す。四庫未收。

元：『大理行記』

郭松年。

明：『徐霞客遊記』

明の徐宏祖。霞客はその號。『徐霞客旅行路線考察圖集』（中國地圖出版社、1991 年）はその足跡を地圖に示す。

清：『聖祖五幸江南恭錄』

闕名。聖祖康熙帝の第五次南巡（康熙 44 年）の記録。

叢鈔：『游志續編』

元の陶宗儀。『南村輟耕錄』の著者、『說郛』の編者。

附録：『西行瑣録』

德國の福克。

域外遊記：『佛國記』

晉の釋法顯。＊東洋文庫に『法顯傳』

『四庫全書總目』外記：「義熙年間に長安から天竺へ旅行し、三十餘國を経て還る」。

路程：『廣東省各驛里數』

清闕名。

十三 土諺習俗之屬（目は土諺・習俗）

土諺：『越諺』

清の范寅。

習俗：『荊楚歲時記』

梁の宗懔。『四庫全書總目』では雜記。＊東洋文庫

十四 目錄叢刻之屬

目錄：『中國地方志綜録』

近人の朱士嘉。

叢刻：『小方壺齋輿地叢鈔』

清の王錫祺。

第十二 職官類（屬は二。目は時代による區分）

官制之屬	官吏の職制を記した書を收める。
官箴之屬	官吏の心得を記した書を收める。

一 官制之屬

漢：『漢官舊儀』

衛宏。『四庫全書』では政書類典禮。

後漢時代に表された漢代の官制や儀式に關する著作の總合したものに『漢官六種』があり、闕名『漢官』、王隆『漢官解詁』、衛宏『漢舊儀』、應劭『漢官儀』、蔡質『漢官典職儀式選用』、吳の丁孚『漢儀』を含む。諸本を校訂し「職官索引」を付して、1990年に中華書局より出版。

晉：『晉公卿禮秩』

傅暢。『晉書』本傳に『晉諸公敍讚』『公卿故事』の著作ありと記す。

唐：『大唐六典』

玄宗李隆基（撰）・李林甫（等奉敕注）。

『四庫全書總目』：「三師・三公・三省・九寺・五監・十二衛について、その職司官佐を列ね、その品秩を敍す」。

宋：『麟臺故事』

程俱。

『四庫全書總目』：「宋初の事を數多く記し、典章文物について、燦然として明らかである」。

元：『秘書志』

王士點・商企翁。

『四庫全書總目』：「至元年間以後の建置・遷除・典章・故事について記載しないものはない」。

明：『土官底簿』

闕名。土官＝土司（元代以降、中國の西部および西南部に置かれた官で、各地の少数民族の首長を起用し、實態に即した統治を行わせた）。

『四庫全書總目』：「明の正徳以前の諸土司の官爵世系承襲削除について詳しく載せる」。

清：『大清縉紳全書』

清代の官員録。

民國：『稅務處一覽統計表』

通攷：『欽定歷代職官表』

乾隆四十五年の敕撰。

『四庫全書總目』：「細目の區分はすべて現行の制度に準じ、長官・次官・屬僚を列舉する」。

二 官箴之屬

漢：『揚雄十二州箴』

揚雄。

宋：『州縣提綱』

闕名。

『四庫全書總目』：「不正を防止する方途について、鋭い指摘がなされている」。

元：『三事忠告』

張養浩。牧民忠告・風憲忠告・廟堂忠告。

『四庫全書總目』：「その言葉はすべて實際に即し筋道が通っている」。

明：『牧鑑』

楊昱。

『四庫全書總目』子部雜家類：「經史百家の言のうち政治に関わるものを収集して一書とする」。

清：『福惠全書』

黃六鴻。實地の經驗に基づいており、當時の地方行政の實態を知るのに便利。

叢刻：『宦海指南』

欽頒州縣事宜・州縣須知・佐治藥言・學治臆說・折獄便覽。

幕箴：『入幕須知』

幕學舉要・佐治藥言・學治臆說・辦案要略・刑幕要略。

幕友（地方長官の私設秘書）にとっての箴言。

第十三 政書類（屬は十四。目は屬によって異なる）

歷代通制之屬	制度の通史を収める。
各代舊制之屬	制度の斷代史を収める。
古今典禮之屬	朝廷の儀式に関する書を収める。
通禮之屬	禮の通史を収める。
雜禮之屬	禮に関する個別具體的な書を収める。

邦計之屬	經濟制度・行政に關する書を收める。
軍政之屬	軍事制度・行政に關する書を收める。 * 兵法や軍事技術に關する書は子部兵家類に收める。
法令之屬	司法制度・行政に關する書を收める。 * 法思想に關する書は子部法家類に收める。
考工之屬	技術制度・行政に關する書を收める。
科舉學校之屬	教育制度・行政に關する書を收める。
交渉之屬	外交制度・行政に關する書を收める。
掌故雜記之屬	制度・行政に關する瑣事を記した書を收める。
雜論之屬	制度に關する雜多な議論を展開した書を收める。
叢刻之屬	

一 歷代通制之屬

『通典』

唐の杜佑。食貨・選舉・職官・禮・樂・兵刑・州郡・邊防。

二 各代舊制之屬（目は時代による區分）

三代：『三代正朔通考』

清の崔述。

周秦：『七國攷』

清の董說（董若雨、『西游補』の著者）。繆文遠に『七國考訂補』（上海古籍出版社、1987年。自序は1984年）あり。

漢：『西漢會要』

宋の徐天麟。

『四庫全書總目』：「『唐會要』の體例に倣い、『漢書』に載せる制度典章を取り上げる」。

三國：『三國會要』

清の楊晨。1991年上海古籍出版社版は錢儀吉の稿本を整理したもの。

唐五代：『唐會要』

宋の王溥。

『四庫全書總目』：「唐代に變遷・増減した制度に關して詳細を極める」。

宋：『建炎以來朝野雜記』

李心傳。

『四庫全書總目』：「體例は會要と同じであり、『建炎以來繫年要錄』と相互補完的な關係にある」。

元：『大元聖政國朝典章』

闕名。元代法制史料として最も價值が高い。

明：『大明會典』

會典は基本的な法律を總合したもの。

清：『欽定戶部則例』

則例は總合法典を補訂した法律で、各官庁が關係分をまとめる。

民國：『現行中華法規大全』

外國：『新譯日本法規』

清の劉崇傑（等）。

叢録：『漢唐事箋』

元の朱禮。漢（『漢書』『後漢書』）と唐（『新唐書』）の食貨・職官・禮樂・兵刑について考察。

『四庫未收書目提要』：「實是の學であり、蕪蔓の辭は無い」。

三 古今典禮之屬（目は時代による区分）

漢：『漢禮器制度』

叔孫通。

晉：『決疑要注』

摯虞。＊叢書部一人所著書類『摯太常遺書』参照。

梁：『樂社大義』

武帝蕭衍。

唐：『大唐開元禮』

蕭嵩（等）。

『四庫全書總目』：「新舊の『唐書』禮志はいずれもこの書に材料を求めているが、現存するのはわずかに十の三四である」。

宋：『太常因革禮』

歐陽脩（等）。

遼：『遼帝后哀冊文錄』

清の羅振玉。

金：『大金集禮』

張瑋（等）。

『四庫全書總目』：「『金史』の諸志をチェックしてみると、その源はすべてこれに發しており、しかも志の文章は引用の仕方に疎漏がある」。

明：『明宮史』

劉若愚。

『四庫全書總目』：「當時の宮殿・樓臺・服食・宴樂および宮闈の諸雜事を敘述する」。

清：『幸魯盛典』

孔毓圻（等）。

『四庫全書總目』：「康熙二十三年、聖祖仁皇帝は……直々に孔廟を祀った」。

民國：『中華民國通禮草案』

通制：『歷代陵寢備考』

清の來孔陽。

四 通禮之屬

『讀禮通考』

清の徐乾學。

『四庫全書總目』經部禮類儀禮附錄：「喪禮を扱う古今の書物の中で、これが最も完備している」。

五 雜禮之屬（目は時代による区分）

漢：『鄭氏婚禮』

鄭玄。

三國：『問禮俗』

魏の董助。

晉：『葬禮』

賀循。

南北朝：『禮論』

劉宋の何承天。

唐：『婚雜儀注』

段成式。『酉陽雜俎』の著者（東洋文庫）。

宋：『文公家禮』

朱熹。『四庫全書總目』では經部禮類雜禮書。事が國典に関わるもの→政書類、私家の儀注→雜禮書。

元：『義門鄭氏家儀』

鄭泳。

『四庫全書總目』經部禮類雜禮書：「司馬氏の『書儀』・朱子の『家禮』に基づき、それらを損益する」。

明：『呂氏四禮翼』

呂坤。『四庫全書總目』では經部禮類雜禮書。冠禮翼・婚禮翼・喪禮翼・祭禮翼。

清：『殷禮徵文』

王國維。「殷人以日爲名之所由來」など甲骨文による考證。

叢刻：『葬書』

清の關名。葬書・罔極錄・蜀山葬書・喪葬雜說・慎終錄要。

六 邦計之屬（目は内容による区分）

賦税：『租簿』

關税：『粵海関志』

清關名。

俸餉：『度支部軍餉司奏案彙編』

光緒三十四年官撰。

歲計：『光緒會計錄』

清の李希聖。

權量：『中西度量權衡表』

清關名。

倉庾：『大元倉庫記』

元の趙世延（等）。

漕運：『大元海運記』

元の天曆中の官撰。

錢法：『四朝鈔幣圖録』

清の羅振玉。

鹽法：『四川鹽法志』

清の羅文彬（等）。

荒政：『救荒活民書』

宋の董煟。

『四庫全書總目』：「宋志の關を補うに足り、……古書の中で實用に裨するものである」。

保甲：『杭州治火議』

清の毛奇齡。

恤養：『孚惠全書』

清の彭元瑞。

雜議：『富國策』

英國の法思德（撰）・清の汪鳳藻（譯）。

七 軍政之屬（目は内容による区分）

兵制：『欽定八旗通志』

嘉慶中の官撰。

簡閱：『乾淳御教記』

宋の周密。

馬政：『大元馬政記』

元の趙世延（等）。

江防：『江防總論』

清の姜宸英。

海防：『備倭記』

明のト大同。

『四庫全書總目』子部兵家類：「福建で役人となっていた時に、倭寇を防ぐ策を研究して著した書である」。

邊政：『建州女直考』

明の天都山臣。

掌故：『兵部公牘』

清の黃雲鵠。

八 法令之屬（目は内容による区分）

律學：『唐律疏議』

唐の長孫無忌（等）。『永徽律疏』（實は李林甫等『開元律疏』）。律學は法文解釋。

刑案：『刑案匯覽』

清の祝慶祺。刑案は判決令。

判牘：『龍筋鳳髓判』

唐の張鷟。判牘は判決文集。

『四庫全書總目』子部類書類：「事柄を羅列するために作ったのであり、律を定めるために作ったものではない」。

平獄：『明刑弼教錄』

清の王祖源。平獄は裁判行政。

檢驗：『宋提刑洗冤集錄』

宋の宋慈。檢驗は檢死。

『四庫全書總目』子部法家類：「後の檢驗の諸書は、おおむねこの書を原本としている」。

九 考工之屬（目は内容による区分）

營造：『營造方式』

宋の李誠。營造は營繕。

『四庫全書總目』：「その書の言うところは藝事（技術）に止まるが、能く經傳を考證し、衆説を参照している」。

河工：『河防通議』

元の沙克什。河工は黄河の治水。

『四庫全書總目』地理類河渠：「黄河治水の法を具體的に論ず」。

水政：『吳中水利書』

宋の單鏐。水政は一般の治水。

『四庫全書總目』地理類河渠：「獨り小舟に乗って蘇州・常州・湖州の間を往來した」。

海塘：『海塘錄』

清の翟均廉。海塘は防波堤・航海術。

『四庫全書總目』地理類河渠：「考訂辨證はよく行き届いている」。

器用：『欽定聚珍版程式』

清の金簡。器用は製作。活字印刷の工程を示した書。*金子和正『中國活字版印刷法—武英殿聚珍版程式—』

『四庫全書總目』：「圖は16、説は19で、いずれも實地の試験を経たものである」。

軍火：『陸軍兵工廠説明書』

軍火は兵器製造。

軌政：『京漢鐵路規章彙覽』

軌政は鐵道。

十 科舉學校之屬（目は時代による區分。科舉の掌故・學政についても目を立てる）

*宮崎市定『科舉史』（東洋文庫）

唐：『唐摭言』

王定保。

『四庫全書總目』子部小説家類：「唐一代の貢舉の制度について特に詳しく、正史の志が言及しないものが多い」。

宋元：『紹興十八年同年小録』

『四庫全書總目』傳記類：「宋の王佐の榜の進士題名録である。……この榜は朱子の名を五甲の第九十に載せる」。

明：『科場條貫』

陸深。

『四庫全書總目』：「洪武から嘉靖までの科舉の實施方法を記し、その間の變遷について詳しく列舉する」。

清：『清秘述聞』

法式善。鄉試・會試などの試験官や出題内容、首席合格者などを年次別に掲載。鄉會考官類・學政類・同考官類。『續』『再續』あり。

通制：『登科記考』

清の徐松。『文獻通考』に載せる「唐登科記」を基礎に諸資料を纂輯。

掌故：『槐廬載筆』

法式善。『清秘述聞』とともに「科名故實二書」と呼ばれる。

學政：『廟學典禮』

元闕名。官庁が頒布した儒學に關する公文書。

『四庫全書總目』：「『元史』と相互に參照するに足る」。

十一 交渉之屬（目は時代による区分。但し明清のみ。）

明：『福建市舶提舉司志』

明の高岐。

清：『各國條約』

清關名。

分界：『中俄交界記』

清の王錫祺。

外國：『華夷譯語』

明の火源潔。中國語と蒙古語の對譯。同名異書が複数あり。

十二 掌故雜記之屬（目は時代による区分）

漢：『獨斷』

蔡邕。

『四庫全書總目』子部雜家類：「いささか混亂もあるが、もとよりその本旨を損なうものではなく、考證家の淵藪を究めている」。

三國：『帝王要略』

呉の環濟。『三國志』に傳無し。

晉：『大司馬寮屬名』

伏滔。『晉書』文苑傳。

宋：『石林燕語』

葉夢得。

『四庫全書總目』子部雜家類：「舊聞を纂述し、いずれも當時の掌故に関わりがある。官制・科目（科舉）について、とりわけ詳細に記述しており、いささか史傳の闕を補うに足る。宋敏求の『春明退朝錄』、徐度の『却掃編』と表裏の関係にある」。

元：『玉堂嘉話』

王惲。

『四庫全書總目』子部雜家類：「當時の制誥について特に詳しく記載しており、一朝の制度を窺うに足る」。

明：『今言』

鄭曉。洪武から嘉靖までの政治・制度・軍事・財政などに關する記録。『四庫全書總目』では雜史類。

清：『郎潛紀聞』

陳康祺。文苑士林・宦海官場・典章制度・社會情況に關する記述。

十三 雜論之屬

『皇朝經世文編』

清の賀長齡。經世論を事項別に編纂した書。後に別人の手になる『續編』『新編』などあり。

十四 叢刻之屬

『敏果齋七種』

清の許乃釗。

第十四 書目類 (屬は八。目は屬によって異なる)

公庫箸録之屬	公共機關の藏書目録を収める。
家藏知見之屬	個人の藏書目録を収める。
因地箸録之屬	地方ごとの著述目録を収める。
書景之屬	景刻・景印によって善本の版式を掲載した書を収める。
勸學之屬	讀書指南書を収める。
掌故瑣記之屬	目録學に關する雜事を記した書を収める。
彙鈔之屬	著述ないし出版目録を収める。
目録叢刻之屬	

一 公庫箸録之屬 (目は時代による區分)

漢：『別録』

劉向。

宋：『崇文總目』

王堯臣 (等奉敕)。

『四庫全書總目』：「原本は各條の下に論説を備えていた」。

元：『元西湖書院重整書目』

胡師安 (等)。

明：『文淵閣書目』

楊士奇 (等)。『千字文』による排列。

清：『欽定四庫全書總目』

乾隆四十七年の敕撰。

近代：『北京圖書館善本書目』

二 家藏知見之屬 (目は時代による區分)

南北朝：『七錄序目』

梁の阮孝緒。

宋：『昭德先生郡齋讀書志』

晁公武。袁本と衢本。兩本を併せた『郡齋讀書志考證』(上海古籍出版社、1990 年)。

ほかに陳振孫『直齋書錄解題』が著名。

明：『澹生堂藏書目』

祁承燦。「庚申整書略例」において分類は「因」「益」、著録は「通」「互」の方針で臨んだと表明。叢書の定義が明確。

清初：『千頃堂書目』

黃虞稷。

『四庫全書總目』：「明代の著作を考える上で最も頼りになる」。

清中葉前期：『振綺堂書目』

汪憲。以後、汪汝璥→汪誠→汪遠孫と引き繼がれる。

清中葉後期：『堯圃藏書題識』

黃丕烈。以後、その藏書は汪士鐘の藝芸書舍→瞿鏞の鐵琴銅劍樓・楊以增の海源閣へ引き繼がれる。

清季：『邵亭知見傳本書目』

莫友芝。『藏園訂補邵亭知見傳本書目』（中華書局、1993 年）
近人：『藏園羣書題記』
傳增湘。1943 年自行排印、1989 年傳熹年による整理點校重編。
外國：『靜嘉堂文庫觀書記』
傳增湘。
叢刻：『江刻書目三種』
江標。

三 因地箸録之屬（目は地域による區分）

舊直隸：『八旗藝文編目』
恩華。
江蘇：『常熟藝文志』
丁祖蔭。
安徽：『安徽通志藝文考』
安徽通志館。
甘肅：『關右經籍考』
清の邢澍。
浙江：『杭州藝文志』
清の呉慶坻。すなわち『光緒杭州府志』卷第百六至第百十五。
江西：『四庫著録江西先哲遺書鈔目』
豫章叢書編刻局。『豫章叢書』に收める。
湖北：『鍾祥藝文考』
李權。鍾祥は湖北の縣名。
兩湖：『楚寶目錄』
清の劉人熙。
福建：『福建藝文志』
陳衍。
外國：『日本訪書志』
楊守敬。

四 書景之屬

『中國版刻圖録』
北京圖書館。

五 勸學之屬

『書目答問』
清の張之洞。四部分類に即した讀書指南の書。叢書部を獨立させる。范希曾『書目答問補正』。

六 掌故瑣記之屬（目は内容による區分）

考偽：『偽書通考』
張心澂。總論＋經・史・子・集・道藏・佛藏の具體例。
版式：『簡牘檢署攷』

清の王國維。簡牘の形體を考證。鈴木虎雄譯で『藝文』に掲載。
 徵訪：『徵刻唐宋秘本書目』
 清の黃虞稷・周在浚。未見の本のリスト。
 禁燬：『禁書總目』
 乾隆中の官撰。
 藏書約：『澹生堂藏書約』
 明の祁承燦。讀書訓・聚書訓（抄集）と藏書訓略（自著）。
 傳記：『藏書紀事詩』
 清の葉昌熾。
 雜論：『經籍會通』
 明の胡應麟。目錄學概論に類する著述。
 瑣記：『書林清話』
 葉德輝。ほかに清の李文藻『琉璃廠書肆記』などを収める。

七 彙鈔之屬（目は内容による区分）

一姓箸書：『嘉定錢氏藝文志畧』
 清の錢師環。一族の著述目錄。
 一人箸書：『戴先生所箸書攷』
 胡樸安。戴先生は戴震。
 閨秀：『清閨秀藝文略』
 單士釐。
 官刻：『五代兩宋監本考』
 清の王國維。
 家刻：『明毛氏汲古閣刻書目錄』
 陶湘。
 坊刻：『中國近代古籍出版發行史料叢刊』
 各地：『兩浙古刊本考』
 清の王國維。
 叢書：『中國叢書綜錄』
 闕名。
 引用書目：『古書目四種』
 清の沈家本。古書の中に引用された他の書名を列挙。

八 目錄叢刻之屬

『中國歷代書目總錄』
 梁子涵。

第十五 金石類（屬は十一。目は屬によって異なる）

*『四庫全書總目』では目錄類第二に置かれる

纂錄考證之屬	總括的著錄を収める。
因地箸錄之屬	所在地ごとの著錄を収める。
專釋之屬	個別の金石文について考證した書を収める。

彙考文字之屬	金石文の文字を字體の面から整理考察した書を収める。
義例之屬	とくに石刻の體例に關する書を収める。 * 史評類に同じく義例之屬あり
鏡鑑泉幣雜器之屬	鏡鑑・泉幣（貨幣）・雜器に關する書を収める。
玉之屬	玉に關する書を収める。
匱之屬	陶器に關する書を収める。
甲骨之屬	甲骨文字に關する書を収める。
繪帛簡牘之屬	繪帛・簡牘に關する書を収める。
目錄叢刻之屬	

一 纂録考證之屬（目は時代による区分）

六朝：『鼎録』

梁の虞荔。

『四庫全書總目』子部譜録類：「長らく流傳しているうちに、しばしば改竄され、その眞偽はすでに辨じ難い」。

唐：『三代鼎器録』

呉協。『鼎録』の『四庫全書總目』に「呉の字は虞に近く、協の字は荔に近いので、傳寫の誤りか」という。

宋：『隸釋』

洪适。

『四庫全書總目』目錄類金石：「この書は隸書を考察するために作られたので、各篇はすべてその文字（隸書）によって書寫されている」。

元：『古刻叢鈔』

陶宗儀。

『四庫全書總目』：「金石家の遺漏を補うばかりでなく、歴史を読み技藝を談するという點でも裨益する所がある」。

明：『金薤琳琅』

都穆。

『四庫全書總目』：「古碑においていずれも原文を録し、剥落して不完全なものについては、洪适の『隸釋』によって補う」。

清初：『金石文字記』

顧炎武。

『四庫全書總目』：「實際に見た漢以來の碑刻を集め、時代によって排列し、各條の下に跋を記す」。

清中葉前期：『西清古鑑』

『四庫全書總目』子部譜録類：「内府所藏の古い鼎・彝・尊・罍の屬について、器に従って圖を描き、圖にちなんで解説を付す」。

清中葉後期：『金石萃編』

王昶。金石學の集大成というべき書。

清季：『古籀拾遺』

孫詒讓。原名は『商周金識拾遺』。『鐘鼎彝器款識』『積古齋鐘鼎款識』『筠清閣金石録』に載せる各器の原文の校訂。

近人：『國朝金文著錄表』

清の王國維。関連する著作として『宋代金文著錄表』『宋代之金石學』がある。

二 因地著錄之屬（目は地域による区分）

總記：『寰宇訪碑錄』

清の孫星衍・邢澍。

舊直隸：『京畿金石考』

清の孫星衍。

東三省：『滿洲金石志』

近人の羅福頤。

江蘇：『江蘇金石志』

闕名。

安徽：『安徽金石略』

清の趙紹祖。

山西：『山右石刻叢編』

清の胡聘之。

山東：『山左金石志』

清の畢沅・阮元。

河南：『芒洛冢墓遺文』

清の羅振玉。

陝西：『關中金石文字存逸考』

清の毛鳳枝。

甘肅新疆：『沙州文錄』

清の蔣斧。

浙江：『兩浙金石志』

清の阮元。

江西：『江西金石目』

清の繆荃孫。

湖北：『鍾祥金石考』

近人の李權。

湖南：『湘城訪古錄』

清の陳運溶。

四川：『蜀碑記』

宋の王象之。

福建：『閩中金石志』

清の馮登府。

廣東：『粵東金石略』

清の翁方綱。

廣西：『粵西金石略』

清の謝啓昆。

雲南：『滇南金石錄』

清の阮福。

蒙古：『和林金石錄』

清の李文田。

外國：『海東金石苑』

清の劉喜海。ほかに陳其鐫譯録『埃及〈エジプト〉碑釋』などを収める。

三 專釋之屬（目は内容による区分）

金：『毛公鼎銘考釋』

清の王國維。

石：『石鼓文音釋』

明の楊慎。楊慎は唐人の拓本を手に入れて702字を得たと稱するが、すべて偽託。

四 彙考文字之屬

『漢隸字源』

宋の婁機。楷書で見出しを立てて隸書を排列。『四庫全書總目』では經部小學類。*拓本文字データベース（漢字情報研究センター）

五 義例之屬

『金石例』

元の潘昂霄。作文の模範を示すことが目的で、金石を考訂するものではない。『四庫全書總目』では集部詩文評類。續書多數。

六 鏡鑑泉幣雜器之屬（目は内容による区分）

鏡鑑：『古鏡圖録』

清の羅振玉。

泉幣：『泉志』

宋の洪遵。

『四庫全書總目』子部譜録類：「文字の記すべきもの、形象の描くべきものは、すべて載せる」。

刀劍：『古今刀劍録』

梁の陶弘景。『真誥』（子部道家類）の著者。

『四庫全書總目』子部譜録類：「夏の啓王から梁の武帝まで、帝王の刀劍にまつわる四十の逸話を載せる」。

符牌：『歷代符牌圖録』

清の羅振玉。

度量衡：『傳世古尺圖録』

近人の羅福頤。*王國維に「記現存歷代尺度」がある（『觀堂集林』收）

範模：『古器物範圖録』

清の羅振玉。範模は鑄型。

地券：『地券徵存』

清の羅振玉。地券は土地契約。

七 玉之屬

『古玉圖譜』

宋の龍大淵（等奉敕）。

『四庫全書總目』子部譜錄類：「後人が宋代の官本に假託したものに相違ない」。

八 匄之屬（目は内容による区分）

甌：『浙江磚錄』

清の馮登府。甌は墓穴を圍む煉瓦。

瓦當：『唐風樓秦漢瓦當文字』

清の羅振玉。

明器：『古明器圖錄』

清の羅振玉。明器は副葬品。

封泥：『封泥攷略』

清の呉式芬・陳介祺。封泥は文書を封印した泥に印影のあるもの。

總：『鐵雲藏陶』

清の劉鶚。鐵雲はその號。ほかに甲骨之屬に『鐵雲藏龜』。また集部小説類章回小説之屬に『老殘遊記』（東洋文庫）。

九 甲骨之屬

『殷虛書契考釋』

清の羅振玉。

十 繪帛簡牘之屬

『居延漢簡釋文』

近人の勞榦。＊『武威漢代醫簡』は醫家類

十一 目錄叢刻之屬（目は内容による区分）

學錄：『金石學錄』

清の李遇孫。

目錄：『金石書目』

近人の黃立猷。

叢刻：『百一廬金石叢書』

近人の陳乃乾。

第十六 史鈔類（屬・目ともに無い）

『左國諛詞』

明の凌迪知。

『四庫全書總目』：「『左傳』『國語』の字句を採って分類編集する。……採録したのはいずれも僅かに一二語である」。

第十七 史評類（屬は三。目は屬によって異なる）

義例之屬	史書の體例や書法について論じた書を收める。
議論之屬	歴史事實に對する批評を收める。
考訂之屬	歴史事實に關する考證を收める。

一 義例之屬

『史通』

唐の劉知幾。

『四庫全書總目』：「内篇は史家の體例を論じ、……外篇は史籍の源流を述べる」。

* 西脇常記譯注『史通内篇』『史通外篇』

埤：『讀史糾謬』

清の牛運震。史書の文章に對する批評。

二 議論之屬

『讀通鑑論』

清の王夫之。正史の論贊に比べると、西洋の史學における歴史解釋に近づく。

三 考訂之屬（年表・元號を目として附す）

『考信錄』

清の崔述。* 内藤湖南『支那史學史』『清朝の史學・古史の研究』

年表：『二十史朔閏表』

陳垣。

元號：『歷代紀元韻覽』

清の章學誠。『文史通義』の著者（義例之屬）。* 内藤湖南「章學誠の史學」

子 部

第一	諸子合刻類	諸學派の書の合刻本および総合的研究書を収める。
第二	儒家類	孔子や孟子の教えに基づく書を収める。
第三	兵家類	兵學に關する書を収める。 * 軍事制度に關する書は史部政書類軍政之屬に収める。
第四	法家類	法律刑罰重視の思想に基づく書を収める。 * 司法制度に關する書は史部政書類法令之屬に収める。
第五	農家類	農林水産業に關する書を収める。
第六	醫家類	醫學書を収める。
第七	天文算法類	天文學や數學に關する書を収める。
第八	術數類	占いで吉凶を推測する術を述べた書を収める。
第九	藝術類	書畫・嗜好・遊戲などに關する書を収める。
第十	雜家類	専門の類を立てるには規模が小さい學派の書、および各學派の主張を折衷した書を収める。
第十一	類書類	各書の記載を一定の基準に従って分類編集した書を収める。
第十二	小説家類	史料としての信憑性に乏しい逸話を記録した書、および文言によるフィクションを収める。
第十三	釋家類	佛教など外來の宗教に關する書を収める。
第十四	道家類	老莊思想および道教に關する書を収める。

第一 諸子合刻類 (屬は無い。目は内容による区分)

合刻：『二十二子』

合考：『諸子平議』

清の俞樾。

目録：『子略』

宋の高似孫。諸家が見た各種の諸子の書 38 種を集めて、書名卷數を記し、論斷を加える。依據した版本が古いので、後の諸本の誤りを訂正するのに役立つ。

第二 儒家類 (屬は四。目は屬によって異なる)

議論經濟之屬	政治社會論の書を収める。
性理之屬	哲學思想論 (宋學・道學) の書を収める。 * 理は普遍的な道理、性は人間における理の現れ。
考訂之屬	儒家の立場による諸事の実證を行った書を収める。
家訓勸學鄉約之屬	各種の心得を記した書を収める。

一 議論經濟之屬 (目は時代による区分。孔子家語のみ別扱い)

孔子家語：『孔子家語』

魏の王肅（注）。孔子とその弟子の言行録。『漢書』藝文志に著録するが、現在のテキストは王肅の學徒が鄭玄の學説に對抗するために増補再編集したものとされる。

先秦：『荀子』

『四庫全書總目』：「周の荀況は……荀卿ともいう。漢人が孫卿というのは、宣帝の諱が詢であるのを避けたことによる」。

漢：『鹽鐵論』

桓寬。＊東洋文庫

『四庫全書總目』：「論じているのはすべて食貨（經濟）の事だが、内容は先王について述べ六經を引き合いに出しているのので、諸史はいずれもこれを儒家に列ねる」。

三國：『典論』

魏の曹丕。『隋書』經籍志「儒」に『典論』五卷と著録。

晉：『傅子』

傅玄。

隋：『文中子中說』

王通。

唐：『貞觀政要』

吳兢。太宗（李世民）と羣臣との問答を記録。『四庫全書總目』では史部雜史類。

宋：『大學衍義』

眞德秀。君主の徳を養うことを目的として『大學』の精神を説く。

元：『治世龜鑑』

蘇天爵。

明：『大學衍義補』

丘濬。眞德秀の疎漏を補う。

清：『明夷待訪録』

黃宗羲。＊東洋文庫

二 性理之屬（目は時代による区分。宋以後）

宋：『朱子語類』

朱熹。記録者は嘉定八年（1215）の李道傳から咸淳六年（1270）の黎靖徳まで。

元：『集慶路江東書院講義』

程端禮。

明：『傳習録』

王守仁。＊岩波文庫。島田虔次『朱子學と陽明學』（岩波新書）。

清初：『明儒學案』

黃宗羲。明代の講學の學者を對象として、文集語録を集め、學問の系統を明らかにする。『四庫全書總目』では史部傳記類。

清中葉前期：『河洛精蘊』

江永。

清中葉後期：『孟子字義疏證』

戴震。＊安田二郎（他）『戴震集』（中國文明選8）

清季：『聖學源流』

謝蘭生。兩廣總督の阮元が激賞し、『廣東通志』編纂に招聘。

近人：『南雷學案』

黃嗣文。黃宗羲の家學・師承・先正・同調・及門・私淑・尊聞の傳。

顔李學：『顔李學』

近人の徐世昌。清初の顔元と李塋。朱子學の靜座修養を批判し、實踐を重視。

三 考訂之屬（目は時代による区分）

三國：『王子正論』

魏の王肅。鄭玄の禮の解釋に對抗。

晉：『古今注』

崔豹。

『四庫全書總目』雜家類：「長らく伝えられているので、とりあえず一家の學として備えておく」。

隋：『讀書記』

王劭。經史の誤りを指摘。

唐：『匡謬正俗』

顏師古。『漢書』の注者。世間一般で使われる文字の音義の誤りを經史に基づいて正す。

『四庫全書總目』では經部小學類。

宋：『夢溪筆談』

沈括。『四庫全書總目』では雜家類。＊東洋文庫

元：『敬齋古今註』

李治。各種書籍における疑問點を考證。『四庫全書總目』では雜家類。「註」は演（述べる・繰り広げる）の意。

明：『古言』

鄭曉。

『四庫全書總目』雜家類：「務めて高論を吐くが道理から外れている」。

清初：『日知錄』

顧炎武。清朝考證學の基礎。『四庫全書總目』では雜家類。

清中葉前期：『羣書拾補』

盧文弨。精密な校勘を行う。

清中葉後期：『十駕齋養新錄』

錢大昕。經史の訓詁などの考證に重きを置いた學術札記。

清季：『東塾讀書記』

陳澧。漢學に造詣が深く、また宋儒も尊敬し、鄭玄の學と朱子の學をともに重視。

近人：『國故論衡』

章炳麟。＊岩波文庫『章炳麟集』

四 家訓勸學鄉約之屬（目は内容による区分）

帝範附東宮皇子：『帝範』

唐の太宗李世民。皇帝としてあるべき姿を説く。皇太子に賜る。

臣軌：『臣軌』

唐の則天武后。臣下としてあるべき姿を説く。日本の『佚存叢書』に収める。

家訓：『顔氏家訓』

北齊の顏之推。＊東洋文庫

『四庫全書總目』雜家類：「唐志や宋志はいずれも儒家に列ねるが……一家の言を専らにしたものではない」。

女誠：『女誠』

漢の班昭（曹大家）。女誠は女性に対する戒め。

少儀：『童蒙訓』

宋の呂本中。少儀は子供に対する戒め。

『四庫全書總目』：「この書は家塾の教科書である」。

勸學：『程氏家塾讀書分年日程』

元の程端禮。初學者に対する指南。

『四庫全書總目』：「朱子の方法に基づいてそれを推し廣める」。

鄉約：『鄉約・鄉儀』

宋の呂大鈞。陝西省の藍田。朱熹に『增損呂氏鄉約』あり。鄉約は共同体における約束事。

俗訓：『存人編』

清の顔元。対象は字を知らない者や僧侶・道士。

雜訓：『先哲嘉言錄』

闕名。

目錄：『禮範』

宋闕名。

叢刻：『五種遺規』

清の陳弘謀。

第三 兵家類（屬は無い。目は時代による区分）

先秦：『孫子』

*岩波文庫

漢：『黃石公三略』

黃石公。後人の偽託。

三國：『武侯心書』

蜀の諸葛亮。

晉：『戰略』

司馬彪。『續漢書』の著者。

唐：『唐太宗李衛公問對』

闕名。用兵に關する李靖（衛國景武公）と太宗との問答。後人が編纂。

宋：『武經總要』

曾公亮（等奉敕）。

明：『紀效新書』

戚繼光。倭寇に對する軍事教練の際に著す。

清：『讀史兵略』

胡林翼。太平天國の平定に功績。

民國：『曾胡治兵語錄』

蔡鐸。曾胡は曾國藩と胡林翼。

目錄：『歷代兵書目錄』

陸達節。

叢刻：『武經七書』

□闕名。

増録：『水雷秘要』

英國の史理孟。西洋近代の軍事技術に關する譯書を收める。

第四 法家類 (屬は無い。目は時代による区分)

先秦：『韓非子』

ほかに『管子』『商君書』など。

漢：『終軍書』

終軍。『漢書』本傳。

三國：『劉氏政論』

魏の劉廙。『三國志』本傳。

宋：『棠陰比事』

宋の桂萬榮。判決例。先行書に『疑獄集』『折獄龜鑑』。＊岩波文庫

清：『折獄卮言』

陳士鏞。

目録：『中国歴代法家著述考』

近人の孫祖基。

第五 農家類 (屬は五。目は屬によって異なる)

總説之屬	農事全般に關する書を收める。
農桑之屬	穀物・養蠶に關する書を收める。
蔬花果木之屬	食用の蔬菜果物、觀賞用の花卉樹木に關する書を收める。 ＊『四庫全書總目』では譜録類に入るものが多い。
畜牧水産之屬	牧畜と水産および動物一般に關する書を收める。 ＊『四庫全書總目』では譜録類に入るものが多い。
土産之屬	地方別物産に關する書を收める。

一 總説之屬 (目は時代による区分)

先秦：『神農書』

漢：『汜勝之書』

汜勝之。『齊民要術』が多く引用。

南北朝：『齊民要術』

後魏の賈思勰。現存する中國最古の總合的農書。

宋：『農書』

陳旉。上卷は農事一般、中卷は養牛、下卷は養蠶。

元：『農書』

王楙。

『四庫全書總目』：「引用は該博、文章は優雅、繪畫も精緻で、形式と實質が兼ね備わっている」。

明：『天工開物』

宋應星。産業百科全書。＊東洋文庫

清：『欽定授時通考』

乾隆二年の敕撰。中國の農書の集大成。

目録：『中国農學書録』

王毓瑚。

増録：『農務化學問答』

英國の仲仕敦。西洋近代の農業技術に關する譯書を收める。

二 農桑之屬（目は時代による区分）

唐『耒耜經』

陸龜蒙。犁の製作法に詳しい。

宋『蠶書』

秦觀。『淮海集』の著者。著名な詞人。

王毓瑚『中国農學書録』：「作者が記述しているのは兗州の人の方法であり、呉の養蠶家とは異なる点があるようだ」。

元『農桑輯要』

元の司農司（官撰）。

『四庫全書總目』：「元ではこの書を經國の要務（國家の重要政策）とした」。

明『老圃良言』

巢鳴盛。文章は簡潔だが、中身は實用的。

清『捕蝗考』

陳芳生。

『四庫全書總目』史部政書類邦計：「薄っぺらい書物だが、なかなか實用的である」。

増録『意大里蠶書』

意國の丹吐魯。西洋近代の養蠶技術に關する譯書を收める。

三 蔬果花木之屬（目は對象による区分） *佐藤武敏『中國の花譜』（東洋文庫）

總：『種樹書』

唐の郭橐駝。郭橐駝の名は柳宗元「郭橐駝傳」に基づく附會。

蔬總：『野菜博録』

明の鮑山。

『四庫全書總目』：「明末には饑饉が續いたから、鮑山がこの書を著したのも、仁者の心遣いであろうか」。

笋：『筍譜』

宋の釋贊寧。品種・栽培法・調理法などを記す。『四庫全書總目』では譜録類。

菌：『菌譜』

宋の陳仁玉。品種・形状・色や味について記す。『四庫全書總目』では譜録類。

芋：『芋經』

明の黃省曾。「藝法」で當時の種芋法を論じる」。

甘藷：『甘藷録』

清の陸燿。甘藷に關する前人の記録を輯録。

橘：『橘録』

宋の韓彥直。柑・橘・橙。『四庫全書總目』では譜録類。

荔枝：『荔枝譜』

宋の蔡襄。32種。栽培技術と果實の加工貯藏法。『四庫全書總目』では譜録類。

棗：『打棗譜』

元の柳貫。73種の棗について記す。『説郛』所収本なので摘録。

花總：『花鏡』

清の陳淏子。栽培法について独自の秘訣。

海棠：『海棠譜』

宋の陳思。

『四庫全書總目』譜録類：「上巻は海棠の故實を記し、中下二巻は唐宋の諸家の題詠を記す」。

芍薬：『揚州芍薬譜』

宋の王觀。

『四庫全書總目』譜録類：「揚州の芍薬は宋初から天下に名高い」。

牡丹：『洛陽牡丹記』

宋の歐陽脩。花品敍・花釋名・風俗記に分かつ。『四庫全書總目』では譜録類。

梅：『范村梅譜』

宋の范成大。私園の12品種。『四庫全書總目』では譜録類。

菊：『菊譜』

宋の范成大。私園の36品種（實際は35）。『四庫全書總目』では譜録類。

瓊花：『瓊花集』

明の曹瑋。『四庫全書總目』には明の楊端の『瓊花譜』あり。

玉薬：『玉薬辨證』

宋の周必大。『四庫全書總目』譜録類に『唐昌玉薬辨證』あり。唐昌は長安の道観。

桃：『水蜜桃譜』

清の褚華。栽培・換接・除蟲に分かつ。水蜜桃は上海の特産で、明代から有名。

橋李：『橋李譜』

清の王逢辰。橋李の李は淨相寺のものが最も有名。

鳳仙花：『鳳仙譜』

清の趙學敏。

蘭：『金漳蘭譜』

宋の趙時庚。品種によって異なる育成法について詳述。『四庫全書總目』では譜録類。

桐：『桐譜』

宋の陳翥。敍源・類屬から詩賦まで10項目に分け、桐の育て方について自分の経験を記述。

竹：『竹譜』

晉の戴凱之。四字句を用いて竹の種類と産地を記述。『四庫全書總目』では譜録類。

荷：『瓦荷譜』

清の楊鍾寶。33品種。出秧・蒔藕・位置・培養・喜忌・藏秧。

月季：『月季花譜』

清の評花館主。澆灌・培壅・養胎・修剪など九項目に分かつ。月季は薔薇の一種。

四 畜牧水産之屬（目は対象による区分）

總：『禽獸決録』

南齊の卞彬。『南齊書』本傳。

蟲：『蜂衙小記』

清の郝懿行。蜂の生活や養蜂に関する 15 條。

魚：『異魚圖贊』

明の楊慎。

『四庫全書總目』譜錄類：「魚圖三卷、贊八十六首、異魚八十七種」。

鳥：『禽經』

晉の張華（注）。

『四庫全書總目』譜錄類：「南宋末に偽作されたと思われるが、すでに數百年も傳わっているの……とりあえず参考に備える」。

獸：『獸經』

明の黃省曾。

畜：『馬記』

明の郭子章。

『四庫全書總目』譜錄類：「各書に記された馬に関する事項を拾い集めて上下二篇に分かつ」。

五 土産之屬（目は地域による區分）

總：『中國物産考略』

清の龔柴。

江蘇：『吳草譜』

清の呉林。草はキノコ。食用を 3 種類に分け、毒キノコにも及ぶ。

甘肅：『涼州異物志』

□關名。

浙江：『臨海異物志』

□沈瑩。

湖南：『湖南方物志』

清の黃本驥。

四川：『益部方物畧記』

宋の宋祁。『唐書』の著者（歐陽脩との合撰）。

『四庫全書總目』史部地理類：「東陽の沈立が著した劍南の方物 28 種を基礎に、その遺漏を補ったもので、草木の屬 41、藥の屬 9、鳥獸の屬 8、蟲魚の屬 7、合計 65 種」。

福建：『閩中海錯疏』

明の屠本峻。海錯は豊富な海産物の意。

『四庫全書總目』史部地理類：「知識を増やす上で有益である」。

廣東：『南方草木狀』

晉の嵇含。『晉書』本傳。

『四庫全書總目』史部地理類：「草木果竹の 4 類に分け、全部で 80 種、敘述は典雅である」。

廣西：『桂海虞衡志』

宋の范成大。虞衡は山林川澤を掌る古代の官名。

『四庫全書總目』史部地理類「各篇ともに敘述は簡潔典雅で、お國自慢に墮することもない」。

雲南：『滇海虞衡志』

清の檀萃。

異域：『扶南異物志』

呉の萬震。

増録：『求礦指南』

英國の安德孫。西洋近代の鑛業技術に關する譯書を收める。

第六 醫家類（屬は無い。目は黒田源次の『中國醫學書目』と岡西爲人の同續編による）

内經：『黃帝内經素問』

唐の王冰（注）。戰國時代の醫學上の成就。＊藪内清『中國の科學』

金匱：『金匱要畧方論』

漢の張機（述）。後漢以前の豊富な臨床經驗。

傷寒：『注解傷寒論』

漢の張機（述）。漢代以前の急性發熱とその診療に關する豊富な經驗。

溫疫：『溫病條辨』

清の吳瑭。溫病は急性發熱の總稱。風溫・冬溫・暑溫など。

中藏：『中藏經』

漢の華佗。おもに内科の病状について述べ、治療法を紹介。

難經：『難經集注』

明の王九思。難經は後漢以前に成立。問答形式。

經脈：『脈經』

晉の王叔和。現存する最も早い脈學の專著。

鍼灸：『鍼灸甲乙經』

晉の皇甫謐。比較的早期の鍼灸學の專著。

巢氏病源：『巢氏諸病源候總論』

隋の巢元方。現存最古の病因と病状を論じた專著。

本草：『本草綱目』

明の李時珍。明代以前の藥物學の成果を全面かつ系統的に總括。

方藥：『潔古老人珍珠囊』

金の張元素。投藥の方法を總論。

方書：『備急千金要方』

唐の孫思邈。唐代以前の醫學上の成果を系統的に總括。

養生：『養生膚語』

明の陳繼儒。

『四庫全書總目』：「寡欲保神および起居調攝の諸法を養生の要とする」。

内經明堂：『中西骨格辯正』

清の劉廷楨。明堂は人體模型に記す鍼灸のポイント。

雜病：『脚氣治法總要』

宋の董汲。

『四庫全書總目』：「自述によると、かつてこの病をひどく患ったので、原因を探求して、その秘要を得たと稱する」。

幼科：『小兒藥證眞訣』

宋の錢乙。臨床實用の價值が非常に高い。

痘科：『痘疹傳心錄』

明の朱惠明。感染初期から治癒に至るまで、段階を追って診療法を論じる。

麻疹：『麻疹闡註』

- 清の張廉。
- 女科：『産育寶慶集』
宋闕名。出産について論じた書。
- 外科：『外科精義』
元の齊德之。腫れ物の診察に關して最も詳細。
- 眼科：『銀海精微』
唐の孫思邈。銀海は目のこと。
- 喉科：『咽喉脈證通論』
□闕名。喉科の書の中で比較的適切な書。
- 雜論：『褚氏遺書』
南齊の褚澄。褚澄の名に託して宋代に著された醫書。『四庫全書總目』は、「贋本ではあるが廢することはできない」と評價。
- 雜識：『醫說』
宋の張杲。
『四庫全書總目』：「三代にわたる醫者で淵源があり、道聽塗説の輩とはまったく異なる」。
- 掌故瑣記：『歷代名醫蒙求』
宋の周守忠。
- 目錄：『四庫全書總目提要・醫家類及續編』
續編に 417 種。上海科學技術出版社、1992 年。
- 叢刻：『醫統正脈全書』
明の王肯堂。43 種 213 卷。上記の『四庫全書總目提要・醫家類及續編』によれば、「隨刻隨編、校勘粗疏」。
- 附錄：『西藥大成』
英國の來拉・海得蘭。西洋近代の醫學に關する譯書を收める。

第七 天文算法類（屬は三。目は屬によって異なる）

推歩之屬	天文學・曆術に關する書を收める。 *推歩は、天の歩みを推す意
算書之屬	數學書を收める。
目錄叢刻之屬	

一 推歩之屬（目は時代による區分。周髀算經・星經は別扱い）

- 周髀算經：『周髀算經』
漢の趙爽（注）。北周の甄鸞（重述）。唐の李淳風（等奉敕注釋）。円周率 3。蓋天説。
- 星經：『星經』
『四庫全書總目』：「多く隋唐の州名を擧げているので、絶対に秦漢時代の書ではない。載せられた星々も、今では失われて完全ではない」。
- 漢：『三統術衍』
清の錢大昕。劉歆の三統術（『漢書』律曆志）の解釋。*藪内清『中國の科學』
- 三國：『昕天論』
吳の姚信。『三國志』に傳無し。

晉：『年歷』

皇甫謐。

南北朝：『漏刻經』

□闕名。

隋：『天文大象賦』

李播。『隋書』に傳無し。

唐：『七曜曆日』

闕名。敦煌本。

五代：『後唐天成元年殘曆』

後唐闕名。敦煌出土。

宋：『新儀象法要』

蘇頌。

『四庫全書總目』：「この書は渾儀（天體觀測機器）を改めて製作するために作る」。

元：『革象新書』

趙友欽。

『四庫全書總目』：「觀測についても誤りが多いが、熟慮を重ねて、前人が明らかにしていない點を明らかにした」。

明：『乾坤體義』

西洋の利瑪竇。

『四庫全書總目』：「その見解は實測によって確かめられ、其の方法は應用力に富む」。

清初：『曉庵新法』

王錫闡。

『四庫全書總目』：「空が晴れている時は、必ず屋根の登って寝そべり、星々を觀察して、一晚じゅう寝ないでいた」。

清中葉前期：『御製律曆淵源』

『曆象考成』（曆書）『律呂正義』（音律）『數理精蘊』（數學）の三部。

清中葉後期：『皇朝儀器圖式』

乾隆中の敕撰。

清季：『輿地經緯度里表』

丁取忠。

近人：『生霸死霸考』

清の王國維。俞樾の同名書の啓發を受け、「古人一月四分之紀日法（個人が一月を四つに分けて日を記す法）」を考察。

増録：『談天』

英國の侯失勒。西洋近代の天文學に關する譯書を收める。

二 算書之屬（目は時代による區分。九章算術・孫子算經は別扱い）

九章算術：『九章算術』

魏の劉徽（注）。官吏に必要な數學を網羅。＊藪内清『中國の科學』

孫子算經：『孫子算經』

唐の李淳風（等奉敕注釋）。高水準の數學專著でなく、典型的な普及讀物。

漢：『數術記遺』

漢の徐岳（撰）・北周の甄鸞（注）。『四庫全書總目』は唐代の僞託とする。

三國：『海島算經』

魏の劉徽。ピタゴラスの定理を應用して測量上の問題を解く。

南北朝：『五曹算經』

唐の李淳風（等奉敕注釋）。曹は官署の部局（田・兵・集・倉・金）。

唐：『緝古算經』

王孝通（撰併注）。唐代最大の數學家。

宋：『數書九章』

秦九韶。不定解析・高次數値方程式など。

元：『測圓海鏡細草』

李冶。方程式の解法。＊ニーダム『中國の科學と文明』數學

明：『幾何原本』

西洋の利瑪竇（口譯）・徐光啓（筆受）。ユークリッド幾何學前半。

清初：『御製數理精蘊』

康熙五十二年の敕撰。梅穀成・明安圖などが編んだ『律曆淵源』の一部。

清中葉前期：『割圓密率捷法』

明安圖。清代における無限級數の研究。

清中葉後期：『象數一原』

項名達。三角函數・冪級數の展開式の問題を論述。

清季：『則古昔齋算學』

李善蘭。西洋數學の本來の姿を中國に紹介。ユークリッド幾何學後半の翻譯。

近人：『治算學日記』

清の呉壽萱。

外國算書：『對數表』

美國の赫士（口譯）・清の朱葆琛（筆述）。西洋近代の數學に關する譯書を收める。

三 目錄叢刻之屬（目は内容による區分）

學錄：『疇人傳』

清の阮元。歴代の天文學者・數學者の傳記。

目錄：『算學書目提要』

近人の丁福保。

叢刻：『曆算全書』

清の梅文鼎。清代曆學・數學者の代表的存在。梅穀成はその孫。

第八 術數類（屬は七。命書相書之屬を除き、目は無い）

數學之屬	數の組み合わせにより自然現象を人事現象の象徴として解釋する書を收める。 ＊『易』の模倣。
相宅相墓之屬	家相・墓相に關する書を收める。
占候之屬	天文現象を人事現象の象徴として解釋する書を收める。
占卜之屬	獨自の占いの書を收める。 ＊『易』の經文に必ずしも忠實ではない。
命書相書之屬	命書〔生年月日時の干支（八字）による占い書〕、相書〔人相占いの書〕を收める。

陰陽五行之屬	『易』に基づく陰陽と、『書』洪範に基づく五行〔木火土金水〕とによる占いの書を収める。
雑技術之屬	その他の占いの書を収める。

一 數學之屬

『太玄經』

漢の揚雄。

『四庫全書總目』：「『易』に擬して作る」。

二 相宅相墓之屬

『黃帝宅經』

『四庫全書總目』：「この書は偽託と思われる。……術數の中では、それでも最も古に近い」。

三 占候之屬

『大唐開元占經』

唐の瞿曇悉達（等奉敕撰）。

『四庫全書總目』：「第一卷の天占から第一百十卷の星圖まで、いずれも占天の形象である」。

四 占卜之屬

『靈棋經』

『四庫全書總目』：「舊本は漢の東方朔の撰と題する。……すべて方術の士の偽託の言葉であり……おおむね『易』の筮と表裏する」。

五 命書相書之屬（目は命書・相書）

命書：『玉照定眞經』

□闕名。

『四庫全書總目』：「年儀・月儀・六害・三奇・三爻・四象の類を論ずるあたりは、とりわけ明らかにする點が多い」。

相書：『月波洞中記』

吳の張仲遠（傳本）。

『四庫全書總目』：「論ずるところの相法は、後の俗本に比べるとわりに精密明晰である」。

六 陰陽五行之屬

『丙丁龜鑑』

宋の柴望。

『四庫全書總目』：「この書の大旨は、丙午・丁未を國家が災厄に見舞われる年であるとみなす點である」。

七 雑技術之屬

『物類相感志』

宋の蘇軾。身體から禽魚・雜著まで十二門に分ち、治療と禁忌について述べる。『四庫全書總目』では雜家類。

増録（反術數の書）：『辨惑編』

元の謝應芳。呉における鬼神信仰と禁忌に関する分析と論駁。『四庫全書總目』では儒家類。

第九 藝術類（屬は九。目は屬により異なる）

書畫之屬	書畫に關する書を收める。後に作品を附す。
音樂之屬	音樂に關する書を收める。 * 禮に關わる樂は經部禮類樂之屬、戲曲の音樂は集部詞曲類詞譜詞韻之屬。
篆刻之屬	篆刻に關する書を收める。
賞鑒器物之屬	趣味觀賞用の器物に關する書を收める。 * 『四庫全書總目』では譜錄類に入るものが多い。
製造食品之屬	食品・嗜好品に關する書を收める。 * 『四庫全書總目』では譜錄類に入るものが多い。
雜技雜戲之屬	遊戲に關する書を收める。
各種韻事之屬	文人趣味全般に關する書を收める。
格致之屬	西洋近代の自然科學に關する譯書を收める。 * 『江南製造局譯書彙刻』（叢書部雜叢類）などに收められる。
叢刻之屬	

一 書畫之屬（目は時代による區分。目錄・叢刻・作品（書・畫）を附す）

晉：『四體書勢』

衛恆。『三國志』劉劭傳の裴松之注に古文・篆書・隸書・草書の各序あり。

南齊：『古畫品錄』

謝赫。

『四庫全書總目』：「そこで言われる六法（氣韻・生動など）は、畫家が手本と仰ぐもので、現在に至るまで千載不易である」。

梁：『書品』

庾肩吾。

『四庫全書總目』：「漢から齊・梁までの眞草（楷書と草書）者の名手 128 人を載せ、九品に分かつ」。

陳：『續畫品』

姚最。

『四庫全書總目』：「謝赫の評價の高下が多くその實を失っている、ただ時代のみを敘し、品に分かつことをしない」。

唐：『歷代名畫記』

張彥遠。

『四庫全書總目』：「見聞するところを述べ、非常に幅廣く行き届いており、……引用も豊富である」。* 東洋文庫

五代：『豫章先生論畫山水賦』

後梁の荊浩。『四庫全書總目』は贋作説。

宋：『圖畫見聞誌』

郭若虛。『歷代名畫記』の續編。

『四庫全書總目』：「製作の理を論じて、また深く畫旨を體得している」。

元：『圖繪寶鑑』

夏文彦。上古から元代までの1500人餘りを取り上げる。

『四庫全書總目』：「考察は綿密であり、配慮も行き届いている」。

明：『清河書畫舫』

張丑。

『四庫全書總目』：「明代の鑑賞家は考證に遺漏が目立つが、この書に限っては誤りを訂正するところが多い」。

清初：『芥子園畫傳』

王概・王著・王臬。中國畫を學ぶ人で『芥子園畫傳』を知らない者はいない。

清中葉前期：『小山畫譜』

鄒一桂。花卉を描く法を論ず。

清中葉後期：『山靜居畫論』

方薰。各種の畫派および畫法に關する獨自性を持った周到な議論。

清季：『虛齋名畫錄』

龐元濟。個人收藏家として全國一の豊富さを誇る。

民國：『嶺南畫徵畧』

汪兆鏞。廣東における唐以後の畫家400餘人を收録。

目錄：『書畫書録解題』

近人の余紹宋。後漢から近代までの書畫に關する書籍850餘種を著録。

叢刻：『王氏書苑・畫苑』

明の王世貞。

作品

書：『王右軍書記』

晉の王羲之。

畫：『女史箴圖』

晉の顧愷之。

二 音樂之屬（目は音樂の種類・樂器による區分。舞踊を附す）

總：『樂府雜錄』

唐の段安節。ここでの樂府は、唐中葉以後の音樂・歌舞・雜戲などを包括する。

『四庫全書總目』：「（『唐書』は）彼が音律に精通し、自ら作曲できると述べている。それゆえこの書は非常に綿密に樂府の法を述べている」。

雅樂：『皇祐新樂圖記』

宋の阮逸（等奉敕）。上卷には律呂・黍尺・四量・權衡の法を載せ、中下卷では鍾磬・晉鼓・三牲鼎・鸞刀の制度を考定する。『四庫全書總目』では經部樂類。

燕樂：『教坊記』

唐の崔令欽。＊東洋文庫

『四庫全書總目』類書類：「開元中の猥雜な事柄を多く記す」。

樂府：『歌者葉記』

唐の沈亞之。同時代の女性歌手葉氏に関する記述。

琴：『琴史』

宋の朱長文。前五卷は琴の理に通じる 146 人（附 9 人）の事蹟。第六卷は 11 の視点から琴を論ず。

『四庫全書總目』：「収録は詳細で幅廣く、文章は典雅で豊かである」。

瑟：『瑟譜』

明の朱載堉。＊戴念祖『朱載堉——明代的科學和藝術巨星』（人民出版社、1986 年）

笛：『荀勗笛律圖注』

清の徐養原。＊王子初『荀勗笛律研究』（人民音樂出版社、1995 年）

埙譜：『棠湖埙譜』

清の吳潯源。埙は土笛。

磬策：『磬策格』

唐の段成式。『酉陽雜俎』の著者（東洋文庫）。段安節の父。

羯鼓：『羯鼓錄』

唐の南卓。

『四庫全書總目』：「最初に羯鼓の源流や形状を述べ、……羯鼓諸宮曲名を附録する」。

琵琶：『琵琶錄』

唐の段安節。

舞：『六代小舞譜』

明の朱載堉。

三 篆刻之屬

『學古編』

元の吾丘衍。

『四庫全書總目』：「この書は専ら篆刻印章のために作られた」。

四 賞鑒器物之屬（目は対象による区分。製作者の傳記を附す）

筆：『筆經』

晉の王羲之。

墨：『墨譜』

宋の李孝美。

『四庫全書總目』譜録類：「今の人間が實用に供するには適さないが、古法古式を傳承する役割を果たせる」。

紙：『十竹齋箋譜』

明の胡正言。＊1934 年に魯迅と鄭振鐸が翻刻

硯：『硯箋』

宋の高似孫。

『四庫全書總目』譜録類：「多くの書物の記載を傍證として引用しているので読み應えがある」。

文具：『文房四譜』

宋の蘇易簡。

『四庫全書總目』譜録類：「それぞれについて本末と故實を述べ、最後に詞賦詩文を附す」。

陶瓷：『陶說』

清の朱琰。明清の代表的な官窯瓷器およびその製造法を敘述。

玉：『玉譜類編』

清の徐壽基。

石：『雲林石譜』

宋の杜綰。116種。＊『中田勇次郎著作集』第8巻

『四庫全書總目』譜録類：「それぞれにつき出産の地、採取の法を挙げ、その形状色澤を詳述する」。

金：『宣德鼎彝譜』

明の呂震（等奉敕）。

『四庫全書總目』譜録類：「宣德窯は明代においてすでに偽物が多いが、この書は非常に精密に辨別分析している」。

髹飾：『髹飾録』

明の黃成。中國現存唯一の古代の漆工藝の專著。＊王世襄『髹飾録解説』（文物出版社、1983年）

竹刻：『竹人録』

清の金元鉦。

衣服：『錦裙記』

唐の陸龜蒙。

劍：『名劍記』

明の李承勛。

杖扇：『羽扇譜』

清の張燕昌。

几：『燕几圖』

宋の黃伯思。燕几は、燕會の時に遊戲に用いる几の一種。

『四庫全書總目』譜録類：「後人が偽託したものだろう」。

遊具：『遊具雅編』

明の屠隆。『考槃餘事』の著者（『中田勇次郎著作集』第8巻）。

酒具：『觥記注』

宋の鄭獬。＊杜金鵬（等）『中國古代酒具』（上海文化出版社、1995年）

裝潢：『裝潢志』

清の周嘉胄。裝潢は表装。

錦：『蜀錦譜』

元の費著。

繡：『絲繡叢刊』

近人の朱啓鈴。

香：『香乘』

清の周嘉胄。

『四庫全書總目』譜録類。「二十餘年の力を盡くし、……あらゆる記述を網羅している」。

船：『湖船録』

清の厲鶚。

燈：『冷雲齋冰燈詩』

清の傅山。『昭代叢書』および傅山の詩文集『霜紅龕集』卷十四に收める。

叢録：『古奇器録』

明の陸深。

『四庫全書總目』譜録類：「古人の奇器の名をあれこれ記録し、それぞれ出典を標記している」。

傳記：『中國藝術家徵略』

清の李放。

五 製造食品之屬（目は対象による区分）

總：『隨園食單』

清の袁枚。＊岩波文庫

飯：『飯有十二合説』

清の張英。稻・炊・肴・蔬・脩・菹・羹・茗・時・器・地・侶に分かつ。

鹽：『熬波圖』

元の陳椿。『四庫全書總目』では史部政書類。

糖：『糖霜譜』

宋の王灼。糖霜は白砂糖。

『四庫全書總目』譜録類：「宋代の糖霜の産地としては……遂寧が一番であり、王灼は遂寧に生まれたので、この譜を作った」。

酒：『酒譜』

宋の竇苹。＊中村喬『中國の酒書』（東洋文庫）

『四庫全書總目』譜録類：「酒の故事についてあれこれ述べる」。

茶：『茶經』

唐の陸羽。＊布目潮風・中村喬『中國の茶書』（東洋文庫）

『四庫全書總目』譜録類：「茶を論ずる人間で陸羽より精しい者はいない。その文章もまた素朴優雅で古風である」。

煙：『煙筩雜著』

清の顧禄。『清嘉録』の著者（東洋文庫）。煙はタバコ。

六 雜技雜戲之屬（目は遊戯の種類による区分）

＊『中國傳統遊戯大全』（農村讀物出版社、1990年。13類164種の遊戯）

嘯：『嘯旨』

□闕名。

造庭：『園冶』

明の計成。造園理論に関する專著。

餅花：『瓶史』

明の袁宏道。＊佐藤武敏『中國の花譜』（東洋文庫）

投壺：『投壺新格』

宋の司馬光。『禮記』に投壺篇あり。

蹴鞠：『蹴鞠圖譜』

□汪雲程。＊『中國古代足球史料選集』（華夏出版社、1987年）

捶丸：『丸經』

元闕名。＊『中國古代體育文物圖録』（中華書局、2000年）に「捶丸圖」あり

煙火：『火戲略』

清の趙學敏。孟元老『東京夢華録』に記載あり。

角力：『角力記』

□調露子。唐およびそれ以前の摔跤（レスリング）について總括。

碁：『忘憂清樂集』

宋の李逸民。現存する最古の棋譜。

打馬：『打馬圖經』

宋の李清照。宋元兩代に盛んに行われたゲームの一種。女性の室内遊戲に適す。李清照は著名な詞人。

樗蒲：『五木經』

唐の李翱。漢魏南北朝時代は樗蒲が非常に流行。

雙六：『譜雙』

宋の洪邁。『容齋隨筆』『夷堅志』の著者。『事林廣記』に「打雙六圖」あり。

官儀戲：『骰子選格』

唐の房千里。縣尉から侍中に至る出世を競うサイコロゲーム。升官圖。

打牌：『詩牌譜』

明の王良樞。引き当てた詩牌に基づいて詩を作り、優劣を競う。

拳：『拇陣譜』

明の袁福徵。拇戰。

廋詞：『廋詞』

清の黃周星。廋詞は謎かけ。ほかに『燈謎』『隱書』など。

墨戲：『美人揉碎梅花廻文圖』

清の沈士瑛。30首の梅花詩の文字を梅花状にあしらった圖。

屬對：『楹聯叢話』

清の梁章鉅。『稱謂錄』の著者。對句遊び。

酒令：『觴政』

明の袁宏道。酒令の具體的場面として『紅樓夢』第40回・第63回。

叢錄：『方氏五種』

清の方綯。

七 各種韻事之屬（目は内容による区分）

雜錄：『雲煙過眼錄』

宋の周密。

『四庫全書總目』雜家類雜品：「實際に見た書畫古器について記し、おおまかに優劣をつけているが、それほど考證はしていない」。

雜賞：『長物志』

明の文震亨。室廬・花木から香茗までの十二類に分かつ。『四庫全書總目』では雜家類雜品。＊東洋文庫

雜約：『眞率會約』

清の尤侗。「人・期・地・具（飲食）・事・禮」に關する會の規約。

八 格致之屬（目は分野による区分）

原理總論：『格致啓蒙』

英國の司都藹。

地學：『地球總論』

葡國の瑪吉士。

物理學：『光學』

英國の田大里。
 化學：『化學初階』
 美國の嘉約翰。
 應用總論：『工程致富論』
 英國の瑪體生。
 器械：『汽機新制』
 英國の白爾格。
 冶金：『冶金錄』
 美國の阿發滿。
 電氣：『無線電報』
 英國の克爾。
 叢錄：『西藝知新』
 英國の傅蘭雅。*王揚宗『傅蘭雅與近代中國的科學啓蒙』（科學出版社、2000年）

九 叢刻之屬

『美術叢書』
 近人の鄧實。

第十 雜家類（屬は四。目は屬によって異なる）

雜學之屬	マイナーとなった諸子百家の書、雜駁ではあるが思想的價值のある書を収める。 *立説 ↔ 雜說之屬
勸善書之屬	儒家だけに依據しない教訓書を収める。 *儒家類家訓勸學鄉約之屬
雜說之屬	雜駁ではあるが知見に富んだ書を収める。 *記事 ↔ 雜學之屬
雜纂之屬	一定の排列基準に従うことなく、各書の記載を抜き出した書を収める。

一 雜學之屬（目は時代による区分）

先秦：『墨子』

*東洋文庫。ほかに名家の『公孫龍子』、雜家の『呂氏春秋』など。

前漢：『淮南鴻烈解』

劉安。『呂氏春秋』の後を繼いで、先秦諸子の學説を集大成。

後漢：『論衡』

王充。

『四庫全書總目』：「その言葉には過激なところが多く、「刺孟」「問孔」の二篇は……聖賢と張り合っている」。*東洋文庫

三國：『人物志』

魏の劉邵。『皇覽』（類書類）の編者。12の觀點（九徵・體別・流業・材理・材能・利害・接識・英雄・八觀・七繆・效難・釋爭）による人物批評。

晉：『時務論』

楊偉。『晉書』に傳無し。

南北朝：『金樓子』

元帝蕭繹。古今の事蹟を包括し、勸戒の意を含む。金樓子は蕭繹が即位する前の號。

唐五代：『兩同書』

唐の羅隱。

『四庫全書總目』：「上卷五篇はすべて老子の言葉で締めくくり、下卷五篇はすべて孔子の言葉で締めくくる」。

宋：『習學記言』

葉適。

『四庫全書總目』：「經史諸子百家を輯録し、それぞれに論述を加える。……議論は新奇さを好む」。

元：『三教平心論』

劉謐。三教は儒・佛・道。

明：『菜根譚』

洪應明。＊岩波文庫

清：『潛書』

唐甄。『論衡』の體に倣う。上篇は學術、下篇は政治を論ず。

近人：『卮書』

章炳麟。古代の各種學說の考察、現實問題および社會改造方案の探求。

増録：『佐治芻言』

□闕名撰・英國の傅蘭雅（口譯）。西洋近代の政治に關する譯書を收める。

二 勸善書之屬（目は時代による區分）

南北朝：『鑒戒象讚』

後魏の常景。『魏書』本傳。

唐：『大藏治病藥』

釋靈澈。

宋：『樂善錄』

李昌齡。

『四庫全書總目』：「罪福因果を語る。記載内容は宋の事が多いものの、まゝ漢以來の事に及ぶ」。

元：『三教源流搜神大全』

闕名。

明：『服食崇儉論』

黃元會。

清：『勸戒撮要』

程璧。

三 雜說之屬（目は時代による區分）

漢：『風俗通義』

應劭。

『四庫全書總目』：「事に因って論を立て、文辭はさわやかでキレがよく、物事を幅廣く知るのに役立つ」。

唐五代：『封氏聞見記』

封演。

『四庫全書總目』：「唐人の小説は、非合理的になりがちだが、この書は話に根據がある」。

北宋：『東坡先生志林』

蘇軾。

『四庫全書總目』：「蘇軾が気ままに記したもので、ちゃんとした著作でなく、書名も無い。後人が輯録したものである」。

南宋：『容齋隨筆』

洪邁。

『四庫全書總目』：「經史諸子百家から醫卜星算まで、これぞと思ったことを気ままにノートしたものである」。

金：『遺山題跋』

元好問。『遺山先生文集』卷四十に収める。

元：『輟耕錄』

陶宗儀。

『四庫全書總目』小説家類：「俚俗戲謔の語や閭里鄙穢の事を混入しており、いささか著作の體に乖く」。

明：『千百年眼』

張燧。先秦の典籍から諸史・百家に至るまで、通説に迎合しない議論を展開。清代には『全毀書目』に入れられる。

清初：『池北偶談』

王士禛。談故（清代の制度）・談獻（明中葉以後の人物）・談藝（詩文評論）・談異（異聞怪異）に分かつ。

清中葉前期：『隨園隨筆』

袁枚。諸經・諸史・金石・天時地志から詩文著述・古姓名・雜記・術數まで。

清中葉後期：『履園叢話』

錢泳。舊聞・閩古・考索・水學から陵墓・園林・笑柄・夢幻・雜記まで。

清季：『春在堂隨筆』

俞樾。學術考證、詩文の雜録、民情の記載、時政の議論など。

近人：『荑楚齋隨筆』

劉聲木。作者は目録版本の學に通曉していたので、その分野に關する記述が多い。

四 雜纂之屬（目は内容による區分）

纂言：『羣書治要』

唐の魏徵（等奉敕）。中國では失われ、四部叢刊本は日本版に基づく。

纂事：『元明事類鈔』

清の姚之駟。

風謠：『古今風謠』

明の楊慎。『四庫全書總目』では小説家類。別に『古今諺』があり、ともに『古謠諺』に収める。

諺：『古謠諺』

清の杜文瀾。引用書は860種。先秦から明代までの謠諺3300餘首を輯録。

第十一 類書類 (属は二。目は彙考之属のみ)

彙考之属	カテゴリー別に分類排列した書
摘錦之属	韻書の文字配列に従った辞典

一 彙考之属 (目は時代による区分)

三國：『皇覧』

魏の劉邵（等奉敕）。類書の元祖。

六朝：『修文殿御覧』

北齊の顔之推（等奉敕）。『顔氏家訓』の著者。

唐五代：『藝文類聚』

唐の歐陽詢。

『四庫全書總目』：「カテゴリー順に並び、事柄が前にあり、文章が後に列なり、……類書の中で體例が最も優れている」。

宋：『太平御覧』

李昉（等奉敕）。一千卷。初名は『太平編類』。太宗が毎日三卷ずつ閲讀し、一年で讀み終えたので、この名を賜った（宋敏求『春明退朝録』）。

金：『重刊増廣分門類林雜說』

王朋壽。唐の于立政『類林』に基づいて作られる。『類林』は長らく失われ、『四庫全書總目』にも著録されていない。

元：『古今事文類聚』

祝穆。

『四庫全書總目』：「各類は羣書の要語で始まり、次いで古今の事實、次いで古今の文集が続く」。

明：『五雜俎』

謝肇淛。天・地・人・物・事の5部に分かť。＊東洋文庫

清：『古今圖書集成』

康熙中の敕撰。一萬卷。曆象・方輿・明倫・博物・理學・經濟の6部。

二 摘錦之属 ＊『永樂大典』は『洪武正韻』の順序により典籍を排列

『佩文韻府』

清康熙五十年御定。原本は宋の『韻府羣玉』。

第十二 小説家類 (属は三。目は時代による区分)

＊寧稼雨『中國文言小説總目提要』（齊魯書社、1996年）

＊魯迅『中國小説史略』（東洋文庫）・『古小説鈎沈』

雜記雜說之属	特に收録範圍を限定せずに、廣く瑣事逸話を記録した書を收める。
異聞之属	怪異譚を收める。
諧謔之属	滑稽譚を收める。

一 雜記雜說之属

先秦：『青史子』

漢：『西京雜記』

劉歆。

『四庫全書總目』：「小説家の言が多いけれども輯録は豊富であり、……杜甫の詩は用事（故事を引用すること）が謹嚴であるが、それでも多くこの書の言葉を採り上げている」。

晉：『裴啓語林』

裴啓。

劉宋：『世說新語』

劉義慶。志人小説の代表作。

梁：『殷芸小説』

殷芸。

唐：『酉陽雜俎』

段成式。＊東洋文庫

五代：『開元天寶遺事』

後周の王仁裕。宮中の瑣聞雜事を記す。開元・天寶は、唐の玄宗の年號。

北宋：『墨客揮犀』

彭乘。

『四庫全書總目』：「宋代の遺聞軼事および詩話文評について引用が豊富である」。

南宋：『癸辛雜識』

周密。

『四庫全書總目』：「瑣事雜言が九割を占めるので、退けて小説家に列ねる」。雜家類に『齊東野語』あり。

元：『研北雜志』

陸友。

『四庫全書總目』雜家類：「すべて軼文瑣事である。陸友はいささか賞鑒に精しく、また篆隸に巧みであったので、書畫古器に關する記事が多くを占める」。

明：『陶庵夢憶』

張岱。＊岩波文庫

清：『柳南隨筆』

王應奎。讀書と見聞の札記。

二 異聞之屬

漢：『漢武帝內傳』

班固。

『四庫全書總目』：「班固と題するが、根據は不明である。……おそらく魏晉の間の文士がこしらえたものであろう」。

三國：『山陽死友傳』

魏の蔣濟。

晉：『搜神記』

干寶。志怪小説の代表作。＊東洋文庫

前秦：『王子年拾遺記』

王嘉。

『四庫全書總目』：「その内容は荒唐無稽で、史傳と證合するとすべて一致しない」。

劉宋：『幽明錄』

- 劉義慶。＊東洋文庫
- 梁：『周氏冥通記』
陶弘景。周氏と神靈の感通記録。＊吉川忠夫『中國古代人の夢と死』
- 北齊：『還冤記』
顔之推。『顔氏家訓』の著者。春秋から宋・齊までの各種の冤死相報の記事で、大部分が舊籍に見える。
- 隋：『古鏡記』
王度。寶鏡の靈驗にまつわる王度と王勣の物語。
- 唐：『遊仙窟』
張鷟。日本で流傳。＊東洋文庫
- 五代：『録異記』
前蜀の杜光庭。
- 北宋：『太平廣記』
李昉（等奉敕）。五百卷。現在では失われた唐・五代までの小説を多く収める。
- 南宋：『夷堅志』
洪邁。宋人の志怪小説の中で規模の大きなもの。夷堅は、古の物識りの名（『列子』湯問篇）。
- 金：『續夷堅志』
元好問。『夷堅志』ほど規模は大きくないが、内容豊富。
- 元：『重刊湖海新聞夷堅續志』
闕名。
- 明：『情史類畧』
馮夢龍。歴代の筆記小説およびその他著作に見える男女の戀愛故事。
- 清：『聊齋志異』
蒲松齡。作者の見聞・前人の題材・民間傳説・作者の虚構を含む。

三 諧謔之屬

- 魏：『笑林』
邯鄲淳。後代の笑話や文言小説全體に深い影響を与える。
- 唐：『啓顔録』
侯白。『笑林』の後を繼ぐ重要な著作。
- 宋：『軒渠録』
呂本中。北宋から南宋初期までの諧謔の故事を記す。その多くは名臣の軼聞。
- 元：『拊掌録』
闕名。呂本中の『軒渠録』の模倣。
- 明：『笑府』
馮夢龍。＊岩波文庫
- 清：『漢林四傳』
鄭相如。白蘭生（酒）・開明君（燈）・楮先生（紙）・雙童子（眼）の話。
- 民國：『歷代笑話集』
王利器。

第十三 釋家類（屬は無い。目は『大藏經』の分類を利用）

經：『金剛般若波羅蜜經』

姚秦の釋鳩摩羅什（譯）。經は佛の說法。

律：『十誦律』

姚秦の釋弗若多羅・釋鳩摩羅什（同譯）。律は佛徒の戒律。

論：『大智度論』

姚秦の釋鳩摩羅什（譯）。論は佛法の論釋。

諸宗：『六祖壇經』

唐の釋慧能。禪宗の第六祖。韶州の大梵寺における說法。

史傳：『高僧傳』

梁の釋慧皎。類傳體で十門に分かつ。＊陳垣『中國佛教史籍概論』

雜著：『弘明集』

梁の釋僧佑。

『四庫全書總目』：「輯録したのは後漢から梁までの佛法を明らかにする文章である」。

事彙：『法苑珠林』

唐の釋道世。

『四庫全書總目』：「佛經の故實を、分類排列し、罪福の由來を明らかにして、敬信の念を生じさせる」。

目錄：『出三藏記集』

梁の釋僧佑。後漢から梁までに翻譯された經・律・論の佛典の目錄。

叢刻：『大藏經』

佛教教典の全集。『高麗大藏經』『大正新修大藏經』など。

外教：『天主實義』

明の西洋の利瑪竇。中國人と西洋人の問答形式。『四庫全書總目』では雜家類。＊東洋文庫

第十四 道家類（屬は無い。目は道家と道教とに大別して排列。

道家は『老子』などを別扱いした上で時代によって區分。

道教は『道藏』の分類を利用)

陰符經：『黃帝陰符經』

『四庫全書總目』：「後の時代に現れた書物だが、深く道理に適っており、それゆえ學者も多く注釋を施しているの、いま著録して残す」。

老子：『老子道德經』

＊岩波文庫

關尹子：『關尹子』

『四庫全書總目』：「偽託ではあるが、その主旨を考察してみると、『天隱子』や『無能子』よりはるかに優れているので廢することはできない」。

列子：『列子』

＊岩波文庫

莊子：『莊子』

＊岩波文庫、東洋文庫

周易參同契：『參同契』

漢の魏伯陽。『周易』の爻象を道家の鍊丹修養の説に借用。

三國：『任子道論』

魏の任嘏。『三國志』本傳。

晉：『抱朴子』

葛洪。内篇は純粹に道家の言、外篇は時政の得失を論ず。＊東洋文庫

南齊：『少子』

南齊の張融。『南齊書』本傳。

唐：『無能子』

闕名。「詞旨膚淺」（『四庫全書總目』）↔「唐代哲學史上、重要な位置を占める」（王明『無能子校注』）

南唐：『齊丘子』

南唐の譚峭。

宋：『莊列十論』

宋の李元卓。

明：『至游子』

闕名。

『四庫全書總目』：「大旨は清心寡欲を重んじる」。

道經：『上清大洞真經』

後世の道教の上清派は『大洞真經』を根本經典とする。

神符：『太上靈寶五符序』

五符とは、東・南・西・北・中央の五方の符命。

靈圖：『龍虎手鑑圖』

譜錄：『梓潼帝君化書』

梓潼帝君とは文昌帝君のこと。梓潼文昌帝君が歷世顯化した事跡を敘述。

戒律：『赤松子中誠經』

黃帝と赤松子の問答。人には一つの星があり、その人の言行の善惡によって禍福がこれに應じるといふ。

威儀：『萬靈燈儀』

方法：『太上九要心印妙經』

衆術：『破迷正道歌』

讚頌表奏：『玉音法事』

論書：『真誥』

梁の陶弘景。＊吉川忠夫・麥谷邦夫『真誥研究（譯注篇）』

雜箸：『呂祖全書』

唐の呂嵒（呂洞賓）。

記傳別錄：『許眞君仙傳』

＊『道藏』の『周氏冥通記』を収める（1963年版の漢籍分類目録では、他本を小説家類異聞之屬に分類しており不統一）。『東京大學東洋文化研究所漢籍分類目録』では道家類に統合。

記傳總錄：『七眞傳』

元の李道謙。

福地：『洞天福地嶽瀆名山記』

前蜀の杜光庭。

『四庫全書總目』：「すべて神仙の玄妙な言葉なので、山川のことを記してあっても、地理類には分類しない」。

目録：『道藏經目録』

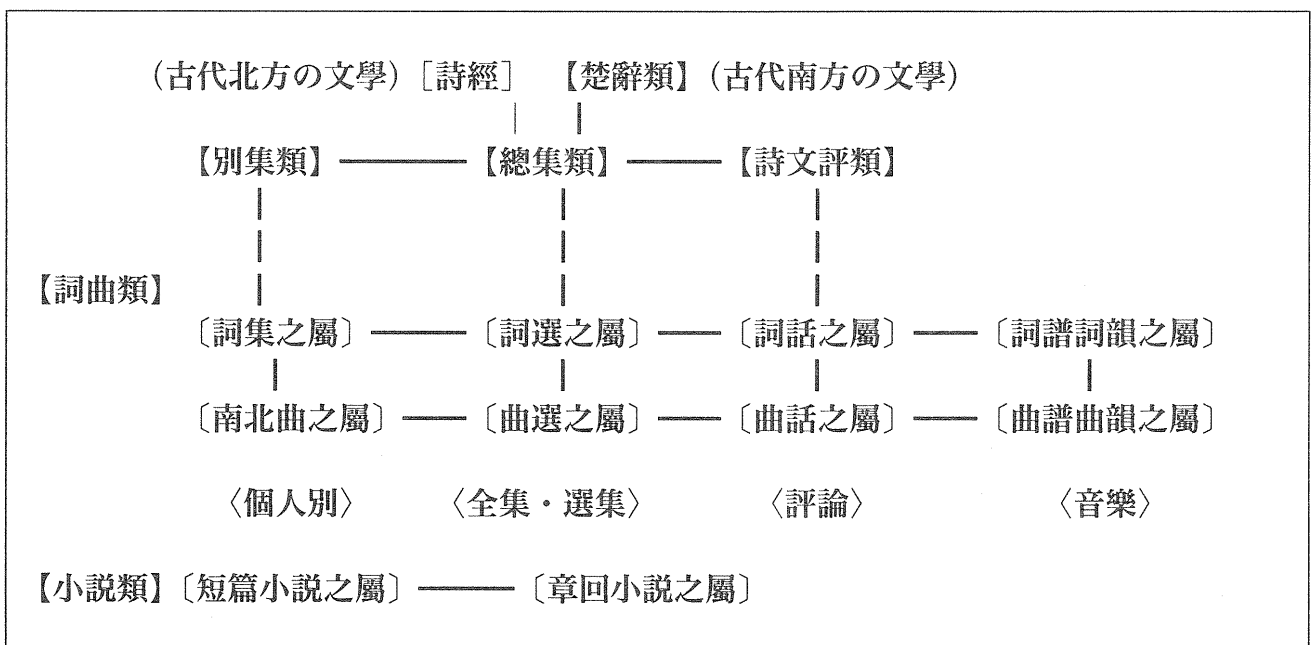
* 近著に『道藏提要』（中國社會科學出版社、1991 年）

叢刻：『道藏』

釋家の『大藏經』に相當。

部 集

第一	楚辭類	『楚辭』〔楚の屈原、およびその門下や後人が屈原に倣って作った作品の總稱〕を収める。
第二	別集類	個人別の詩文集を収める。
第三	總集類	時代別・地域別・文體別など一定の編集方針に従って複数の人の詩文を集めた書を収める。
第四	詩文評類	詩文に関する評論・隨筆を収める。
第五	詞曲類	詞と曲という二つの新興ジャンルの作品、およびそれに関する書を収める。
第六	小説類	口語によるフィクションを収める。



第一 楚辭類 (屬は無い。目は時代による区分)

正文：『楚辭』

漢：『楚辭章句』

王逸。宋の洪興祖に補注あり。

唐：『楚辭音』

闕名。敦煌本。

宋：『楚辭集註』

朱熹。

『四庫全書總目』：「(王逸と洪興祖の) 兩書が訓詁に詳しいものの主旨を得ていないことに鑑み、舊編を總括してこの本を定めた」。

明：『屈宋古音義』

陳第。『毛詩古音考』の著者。兩書には深い関連があるため、『四庫全書總目』ではともに經部小學類に分類される。

清：『楚辭通釋』

王夫之。

民國：『屈原賦校注』

姜亮夫。『楚辭書目五種』も編纂。

第二 別集類（屬は十三。目は漢魏六朝之屬・唐五代之屬・金元之屬にあり）

* 明代の区分は吉川幸次郎『元明詩概説』に従う。

漢魏六朝之屬	
唐五代之屬	
北宋之屬	
南宋之屬	
金元之屬	
明初之屬	洪熙年間〔～1425〕までに生まれた人物の詩文集を収める。
明中葉之屬	宣德年間から嘉靖五年まで〔1426～1526〕に生まれた人物の詩文集を収める。
明季之屬	嘉靖六年〔1527〕以降に生まれた人物の詩文集を収める。
清初之屬	順治・康熙年間に活躍した人物の詩文集を収める。生まれは明末。
清中葉前期之屬	雍正・乾隆年間に活躍した人物の詩文集を収める。生まれは清初（順治元年は1644年）。
清中葉後期之屬	嘉慶・道光に活躍した人物の詩文集を収める。生まれは清中葉前期（雍正元年は1723年）。
清季之屬	咸豐・同治・光緒・宣統に活躍した人物の詩文集を収める。生まれは清中葉後期（嘉慶元年は1796年）。
近人之屬	清季（咸豐元年は1851年）に生まれた人物の詩文集を収める。民國期に活躍しても清を冠する場合がある。

一 漢魏六朝之屬

漢：『蔡中郎文集』

蔡邕。

三國：『曹子建文集』

魏の曹植。＊中國詩人選集3（岩波書店）

晉：『陶淵明集』

陶潛。＊『陶淵明全集』（岩波文庫）

劉宋：『謝康樂集』

謝靈運。

南齊：『謝宣城集』

謝朓。
梁：『梁昭明太子集』
昭明太子蕭統。『文選』の編者。
陳：『徐孝穆集』
徐陵。『玉臺新詠』の編者。
後魏：『溫侍讀集』
溫子昇。
北齊：『魏特進集』
魏收。『魏書』の撰者。
北周：『庾開府集』
庾信。
隋：『牛奇章集』
牛弘。

二 唐五代之屬 *小川環樹『唐詩概説』（岩波文庫）
萬曼『唐集紱録』（中華書局、1980年）

初唐：『寒山詩集』
釋寒山。*中國詩人選集5（岩波書店）
盛唐：『杜工部集』
杜甫。*『杜詩』（岩波文庫）
中唐：『白氏長慶集』
白居易。
晚唐：『李義山詩集』
李商隱。*中國詩人選集15（岩波書店）
五代：『碧雲集』
南唐の李中。

三 北宋之屬 *吉川幸次郎『宋詩概説』、祝尚書『宋人別集紱録』（中華書局、1999年）
『蘇文忠公詩集』
蘇軾。*『蘇東坡詩選』（岩波文庫）

四 南宋之屬
『渭南文集』
陸游。*中國詩人選集二集8（岩波書店）

五 金元之屬 *吉川幸次郎『元明詩概説』
金：『元遺山詩集』
元好問。*中國詩人選集二集9（岩波書店）
元：『雁門集』
薩都刺。

六 明初之屬
『青邱高季迪先生詩集』

高啓。＊中國詩人選集二集 10（岩波書店）

七 明中葉之屬

『六如居士全集』

唐寅。

八 明季之屬

『袁中郎全集』

袁宏道。＊中國詩人選集二集 11（岩波書店）

九 清初之屬 ＊張舜徽『清人文集別錄』、袁行雲『清人詩集敘錄』

『吳梅村編年詩集』

吳偉業。＊中國詩人選集二集 12（岩波書店）

十 清中葉前期之屬

『樊榭山房集』

厲鶚。

十一 清中葉後期之屬

『定盦文集』

龔自珍。＊中國詩人選集二集 14（岩波書店）

十二 清季之屬

『曾文正公詩集』

曾國藩。

十三 近人之屬

『觀堂集林』

清の王國維。

第三 總集類（屬は十二。目は屬によって異なる）

文選之屬	本來なら詩文之屬に入るところだが、特別扱い。
各代之屬	時代を基準として編纂した總集を収める。
各地之屬	地域を基準として編纂した總集を収める。
家集之屬	家族の總集を収める。
故舊之屬	交遊關係にある人々の總集を収める。
詩文之屬	文體を基準として編まれた總集を収める。
樂府之屬	漢魏六朝時代の歌曲および唐人の模擬作品の總集を収める。
辭賦駢體回文之屬	辭賦・駢體・回文の總集を収める。
尺牘詞命表啓時文之屬	尺牘・詞命・表啓・時文の總集を収める。

題詠之屬	特定のテーマについて詠った詩文の總集を収める。
倡和投贈之屬	應酬された詩文の總集を収める。
課藝之屬	書院における課題と答案の總集を収める。

一 文選之屬

『文選』

梁の昭明太子蕭統。＊全釋漢文大系（集英社）

二 各代之屬（目は時代による区分）

上古漢魏六朝：『古文苑』

□闕名。

『四庫全書總目』：唐以前の散佚した文は、往々この書によって伝えられている。

唐：『篋中集』

唐の元結。

『四庫全書總目』：「その詩はいずれも淳古淡泊で、少しも飾り立てていない」。

五代：『全五代詩』

清の李調元。

宋：『南宋羣賢小集』

宋の陳起。＊祝尚書『宋人總集敘録』（中華書局、2004年）

唐宋：『唐宋八家文讀本』

清の沈德潛。

西夏：『西夏文綴』

清の王仁俊。

遼：『全遼文』

近人の陳述。初名は『遼文匯』。

金：『中州集』

元好問。

『四庫全書總目』：「詩によって史を存す」。

元：『元文類』

蘇天爵。

『四庫全書總目』：「輯録した諸作品は元初から延祐年間までであり、元の文章が極めて盛んだった時期に当たる」。

宋金元：『宋金元詩詠』

清の呉綺。

明：『列朝詩集』

清の錢謙益。明代の約2,000人の代表作を選録。

金元明：『金元明八大家文選』

清の李祖陶。

清：『戊戌六君子遺集』

張元濟。戊戌政變（1898）の際に逮捕處刑された譚嗣同等6人の遺集。＊張元濟は著名な藏書家で、商務印書館の重要人物の一人。近年、書簡・序跋・日記などが次々に整理出版された。

歴代：『歴代詩選』

明の曹學佺。＊人文研に陶湘舊藏崇禎刊本あり。

三 各地之屬（目は地域による区分）

舊直隸：『國朝畿輔詩傳』

清の陶樸。

八旗：『八旗文經』

清の盛昱・楊鍾羲。

江蘇：『淮海英靈集』

清の阮元。

安徽：『貴池二妙集』

清の劉世珩。

山西：『河汾諸老詩集』

元の房祺。

『四庫全書總目』：「麻革から曹之謙まで八人の詩を集め、人ごとに一卷とする。いずれも金の遺老である」。

山東：『國朝山左詩鈔』

清の盧見曾。

河南：『中州名賢文表』

明の劉昌。河南に赴任していた時に蒐集。

陝西：『陝西集』

明の曹學佺。『歴代詩選』に収める。

浙江：『國朝杭郡詩輯』

清の呉振棫。

江西：『鄱陽五家集』

清の史簡。

兩湖：『楚風補』

清の廖元度。

湖北：『湖北詩徵傳略』

清の丁宿章。

湖南：『湘中名賢遺集五種』

清の陳運溶。

四川：『蜀雅』

清の李調元。

福建：『閩詩錄』

清の鄭杰。

廣東：『嶺南三大家詩選』

清の王隼。

雲南：『滇詩重光集』

清の許印芳。

貴州：『黔詩紀略』

清の莫友芝。『邵亭知見傳本書目』の著者。

外國：『東古文存』

朝鮮の金正喜。

四 家集之屬

『寶氏聯珠集』

唐の寶常・寶牟・寶羣・寶庠・寶輦。

『四庫全書總目』：「一人につき一卷で、各卷にそれぞれ小序があり、その経歴を詳述する」。

五 故舊之屬

『隨園女弟子詩選』

清の袁枚。

六 詩文之屬

『玉臺新詠』

陳の徐陵。＊岩波文庫

七 樂府之屬（目は無い。排列は時代順）

『樂府詩集』

宋の郭茂倩。

八 辭賦駢體回文之屬（目は内容による区分）

辭賦：『七十家賦鈔』

清の張惠言。『楚辭』の流れを汲む賦の總集。

駢體各代：『唐駢體文鈔』

清の陳均。四字または六字の對句で構成された文（四六文）の總集。

駢體：『四六法海』

明の王志堅。魏晉から元までの四六文を集める。

回文：『回文類聚』

宋の桑世昌。上下どちらから讀んでも意味を成す詩の總集。

九 尺牘詞命表啓時文之屬（目は内容による区分）

尺牘：『明尺牘墨華』

清の黃本驥。書簡の總集。

詞命：（該當書無し）

皇帝の辭令書を代作したものの總集。

表啓：（該當書無し）

皇帝への上奏文の總集。

時文：『同治癸酉科浙江闈墨』

清闕名。八股文の總集。

十 題詠之屬

『百美新詠』

清の顏希源。

十一 倡和投贈之屬

『西崑酬唱集』

宋の楊億。

『四庫全書總目』：「その詩は唐の李商隱を手本とする」。

十二 課藝之屬

『學海堂集』

清の阮元。＊學海堂は阮元が兩廣總督の時に廣州に開設

第四 詩文評類（屬は五。目は屬によって異なる）

各代之屬	ある時代の詩文を對象とした評論を収める。
各地之屬	ある地域の詩文を對象とした評論を収める。
詩話文話之屬	時代や地域を限定しない評論を収める。
辭賦駢體時文之屬	總集類の辭賦駢體回文之屬・尺牘詞命表啓時文之屬に對應する。
叢刻之屬	

一 各代之屬（目は時代による區分）

先秦：『春秋詩話』

清の勞孝輿。

漢：『漢詩總說』

清の費錫璜。

唐：『本事詩』

孟榮。作品の誕生にまつわるエピソード集。情感・事感・高逸・怨憤・微異・微咎・嘲戲に分かつ。

五代：『五代詩話』

清の王士禛。未完の作で、門人が傳鈔。

宋：『宋詩紀事』

清の厲鶚。

『四庫全書總目』：「掲載した事柄に関わりの無い詩を多く収めて、まるで總集のようであり、掲載した詩に関わりの無い事柄まで話が及んで、ほとんど小説家に類する」。

遼金元：『遼代文學考』

清の黃任恆。

明：『明詩評』

王世貞。

明清：『本事詩』

清の徐鉉。

清：『清代閨閣詩人徵略』

施淑儀。順治から光緒まで1260餘名の姓名・里居・著述・事蹟など。

歷代：『歷代詩話』

清の吳景旭。

二 各地之屬（目は地域による区分）

江蘇：『廣陵詩事』

清の阮元。

安徽：『桐城文學淵源考』

近人の劉聲木。

浙江：『全浙詩話』

清の陶元藻。

江西：『豫章詩話』

明の郭子章。

『四庫全書總目』：「郷里の人の詩と郷里で作られた詩とを論じ、古代から明に至る」。

四川：『蜀中詩話』

明の曹學佺。

福建：『榕城詩話』

清の杭世駿。

雲南：『滇南草堂詩話』

清の檀萃。

三 詩話文話之屬（目は時代による区分）

晉：『文章流別志論』

摯虞。＊叢書部一人所著書類『摯太常遺書』参照。

南北朝：『文心雕龍』

梁の劉勰。＊世界古典文學全集（筑摩書房）

唐：『二十四詩品』

司空圖。

北宋：『六一居士詩話』

歐陽脩。

南宋：『滄浪詩話』

嚴羽。＊『文學論集』（中國文明選 13）

金：『滄南詩話』

王若虛。『滄南遺老集』の著者。

『四庫全書總目』：「金・元の時代に、學問に根底がある人物として、王若虛の右に出る者はいない」。

元：『木天禁語』

范梈。

『四庫全書總目』：「その體例は煩瑣冗雜で、數え切れないほどである」。

明：『升庵詩話』

楊慎。

清初：『漁洋詩話』

王士禛。神韻說。＊中國詩人選集二集 13（岩波書店）

清中葉前期：『談龍錄』

趙執信。王士禛の姪の婿だが、詩壇においては對立。

清中葉後期：『昭昧詹言』

方東樹。桐城派（穏やかで格調ある文章創作を主張）としての詩論。

清季：『射鷹樓詩話』

林昌彝。鴉片戦争時期の詩歌創作に関する重要書。

近人：『文品彙鈔』

郭紹虞。『中國文學批評史』の著者。

四 辭賦駢體時文之屬（目は内容による区分）

樂府：『樂府古題要解』

唐の呉兢。

『四庫全書總目』：「好事家が……郭茂倩の引く「樂府解題」を輯録して、呉兢の書と偽ったものである」。

辭賦：『聲律關鍵』

宋の鄭起潛。

駢體：『四六叢話』

清の孫梅。

時文：『四書大小題輯解』

清の蘇濟川。

集唐：『集唐要法』

清の郎廷極。集唐は、唐人の詩句を集めて一篇の詩を作ること。

五 叢刻之屬

『歷代詩話』

清の何文煥。

第五 詞曲類（屬は九。目は時代による区分を基本とする）

詞集之屬	個人別の詞集を収める。別集類に相當する。
詞選之屬	複数の人の詞を集めた全集・選集を収める。總集類に相當する。
詞話之屬	詞に関する批評を収める。詩文評類に相當する。
詞譜詞韻之屬	詞の音樂的要素に関する書を収める。
南北曲之屬	戲曲の單獨作品や個人別の作品集を収める。別集類に相當する。
曲選之屬	複数の人の戲曲を集めた全集・選集を収める。總集類に相當する。
曲話之屬	戲曲に関する批評を収める。詩文評類に相當する。
曲譜曲韻之屬	戲曲の音樂的要素に関する書を収める。
目錄叢刻之屬	

一 詞集之屬 * 饒宗頤『詞集考（唐五代宋金元編）』

唐：『香奩詞』

韓偓。

五代：『南唐二主詞』

李璟・李煜。＊習慣的に詞集之屬に分類

北宋：『東坡詞』

蘇軾。

南宋：『稼軒長短句』

辛棄疾。

金：『遺山樂府』

元好問。＊「樂府」は詞や曲を指す場合もある

元：『天籟集』

白樸（白仁甫）。元の四大戯曲家の一。

明：『眉庵詞』

楊基。

清初：『秋雪詞』

余懷。『板橋雜記』の著者。

清中葉前期：『納蘭詞』

納蘭性德。

清中葉後期：『玉壺山房譜』

改琦。『紅樓夢圖詠』の著者。

清季：『復堂詞』

譚獻。

近人：『觀堂長短句』

清の王國維。

二 詞選之屬（歴代・各地・家集を目として附す）

唐五代：『花間集』

後蜀の趙崇祚。

『四庫全書總目』：「宋以後、體製はますます複雑になり、選録はますます多くなったが、淵源を遡れば、この選集を最古とすべきである」。

宋：『陽春白雪』

趙聞禮。

金：『中州樂府』

元好問。

宋金元：『四印齋所刻詞』

清の王鵬雲。

元：『鳴鶴餘音』

元の彭致中。

『四庫全書總目』：「唐以來の羽流（神仙の術を修める者）が著した詩餘を輯録する」。

清：『篋中詞』

譚獻。

歴代：『草堂詩餘』

宋闕名。

『四庫全書總目』：「詞家の小令・中調・長調の区分は、この書より始まる」。

各地：『國朝常州詞録』

清の繆荃孫。
家集：『李氏花萼集』
宋の李淑（等）。

三 詞話之屬

宋：『碧鷄漫志』
王灼。
『四庫全書總目』：「曲調の源流を詳述する」。

元：『詞旨』
陸行直。
『四庫全書總目』：「大したことは言っていないので、失われても惜しくはない」。

明：『詞品』
楊慎。

清初：『詞苑叢談』
徐鉉。
『四庫全書總目』：「専ら詞家の故實を集める。……採録は豊富で、典據も明白であり、詞を論ずるものの總合とするに足る」。

清中葉前期：『詞林紀事』
張宗櫚。

清中葉後期：『雨村詞話』
李調元。

清季：『詞概』
劉熙載。

近人：『人間詞話』
清の王國維。西洋の美學を中國文學に適用した最初の著作。

四 詞譜詞韻之屬（目は詞譜・詞韻・叢刻）

詞譜：『詞律』
清の萬樹。
『四庫全書總目』：「唐宋以來、詞調の聲律によって字句を當てはめ歌を作る方法は長らく失われていたが、萬樹はその八、九割を得た」。

詞韻：『詞韻』
清の仲恆。
『四庫全書總目』：「詞韻は……明の沈謙がはじめてその枠組みを創出した。仲恆のこの書は、沈謙の書をもとに、これを訂正したものである」。

叢刻：『詞學全書』
清の查培繼。

五 南北曲之屬（散曲・寶卷・彈詞・鼓詞・雜曲を目として附す）

* 李修生『古本戲曲劇目提要』（文化藝術出版社、1997年）

宋：『商調蝶戀花詞』
趙令時。

金：『董解元西廂記』
董□。

元：『感天動地竇娥冤』

關漢卿。

元明：『劉關張桃園三結義』

□關名。

明：『牡丹亭還魂記』

湯顯祖。

清初：『秣陵春』

吳偉業。

清中葉前期：『長生殿傳奇』

洪昇。＊東洋文庫

清中葉後期：『冬青樹』

蔣士銓。

清季：『驪山傳』

俞樾。

近人：『紅樓真夢傳奇』

子厂。

散曲（元雜劇の歌詞の部分とまったく同じ性質をもつ獨立の歌曲ジャンル）

金：『自然集』

關名。

元：『東籬樂府』

馬致遠。

明：『誠齋樂府』

朱有燾。

清：『鈍吟樂府』

馮班。

寶卷：『孟姜仙女寶卷』

清關名。寶卷は說唱文學の一種。

彈詞：『再生緣全傳』

□關名。彈詞は弦樂器の伴奏に合わせて歌う民間文藝の一種。

鼓詞：『木皮散人鼓詞』

明の賈冕西。鼓詞は太鼓などで拍子を取りながら歌う民間文藝の一種。

雜曲：『掛枝兒』

明の馮夢龍。『山歌』（曲選之屬雜曲）の編者。＊大木康『馮夢龍——山歌の研究』

六 曲選之屬（散曲・雜曲を目として附す）

南北曲

元：『元曲選十集』

明の臧懋循。

元明：『脈望館鈔校本古今雜劇』

明の趙琦美。

明：『盛明雜劇三十種』

沈泰。

清：『清人雜劇初集』

近人の鄭振鐸。
 近人：『京劇叢刊』
 中國戲曲研究院。
 歷代：『古本戲曲叢刊』
 古本戲曲叢刊編刊委員會。
 散曲：『朝野太平新聲樂府』
 元の楊朝英。
 雜曲：『敦煌變文集』
 周紹良。敦煌石窟から發見された唐・五代時期の説唱文學。

七 曲話之屬

宋：『雜劇段數』
 周密。『武林舊事』卷十に收める。
 元：『錄鬼簿』
 鍾嗣成。元曲家の經歷や作品を輯録。研究者必備の書。
 明：『南詞敘録』
 徐渭。南戲に關する最も早い概論的著作。
 清：『劇說』
 焦循。各書に散見する論曲・論劇の語を集成。
 近人：『清代燕都梨園史料』
 張江裁。二百年以上にわたる北京の戲曲の歴史を反映する史料。

八 曲譜曲韻之屬

『太和正音譜』
 明の朱權。古典戲曲（散曲を含む）の理論と史料、および北雜劇の曲譜。

九 目錄叢刻之屬（目は目錄・叢刻）

目錄：『曲録』
 清の王國維。＊『宋元戲曲考』（東洋文庫）
 叢刻：『中國古典戲曲論著集成』
 中國戲曲研究院。

第六 小説類（屬は三。目は章回小説之屬にあり）＊魯迅『中國小説史略』（東洋文庫）

短篇小説之屬	短篇小説集を收める。
章回小説之屬	長篇小説を收める。
目錄叢刻之屬	

一 短篇小説之屬

『京本通俗小説』
 宋闕名。南宋の人情嚙の筆録、京本は都のテクストの意。＊吉川幸次郎譯『西山一窟鬼——京本通俗小説』

二 章回小説之屬（目は内容による区分）

講史：『三國演義』

明の羅本（羅貫中）。歴史小説。

煙粉：『紅樓夢』

清の曹雪芹。人情小説。

靈怪：『西遊記』

明の呉承恩。神魔小説。

説公案：『忠義水滸全書』

明の羅本。俠義小説。

風世：『儒林外史』

清の呉敬梓。諷刺小説。

三 目錄叢刻之屬

『中國通俗小説書目』

近人の孫楷第。＊『中國通俗小説總目提要』（中國文聯出版公司）

叢書部

第一	雜叢類	景仿類から一人所箸書類までの限定された編集方針にとらわれない叢書を収める。
第二	景仿類	善本の複製を目的とする叢書を収める。
第三	輯佚類	すでに失われた書の復元を目的とする叢書を収める。
第四	郡邑類	地縁を基準に編集された叢書を収める。
第五	一姓所箸書類	血縁を基準に編集された叢書を収める。
第六	一人所箸書類	いわゆる個人の全集を収める。

第一 雜叢類 (屬は六。目は無い)

宋元之屬
明之屬
清順康雍乾朝之屬
清嘉道朝之屬
清咸同光宣朝之屬
民國之屬

一 宋元之屬

『百川學海』

宋の左圭。

最も早く編纂された叢書は宋の兪鼎孫・兪經の『儒學警悟』。ほかに著名な叢書として元の陶宗儀の『說郛』。

二 明之屬

『漢魏叢書』

程榮。*王謨『增訂漢魏叢書』

三 清順康雍乾朝之屬

『學海類編』

曹溶。『流通古書約』を著して、藏書を秘匿することに反対。

四 清嘉道朝之屬

『士禮居叢書』

黃丕烈。題跋集に『堯圃藏書題識』などあり。士禮居は書齋名。堯圃は號。

五 清咸同光宣朝之屬

『粵雅堂叢書』

伍崇曜。廣東の人。粵は廣東。郡邑類に『嶺南遺書』。

六 民國之屬

『涵芬樓秘笈』

孫毓修(等)。孫毓修は『中國雕板源流考』の著者。*張元濟『涵芬樓燼餘書錄』

第二 景仿類 (屬・目は無い)

『四部叢刊』

1922年初編、1926～29年重印(21種の版本入替)、1936年縮印。

第三 輯佚類 (屬・目は無い)

『玉函山房輯佚書』

清の馬國翰。もとは632種だが、すでに40餘種失われる。經・史・諸子の三編に分かれる。經編が最も充實し、16類400餘種を収める。

第四 郡邑類 (屬は無い。目は地域による区分)

舊直隸：『畿輔叢書初編』

清の王灝。

東三省：『遼海叢書』

遼海書社。

江蘇：『常州先哲遺書』

清の盛宣懷。

安徽：『貴池先哲遺書』

清の劉世珩。

山西：『山右叢書初編』

近人の任晰(等)。

山東：『山左先哲遺書提要』

近人の陳準。但し提要のみ。

河南：『三怡堂叢書』

近人の張鳳臺。

陝西：『關中叢書』

近人の宋聯奎(等)。

浙江：『武林掌故叢編』

清の丁丙。

江西：『豫章叢書』

清の胡思敬(等)。

湖北：『湖北先正遺書』

近人の盧靖。

湖南：『湖南叢書』

近人の孫文昱(等)。

福建：『浦城宋元明儒遺書』

清の祝昌泰(等)。

廣東：『嶺南遺書』

清の伍元薇・伍崇曜。

雲南：『雲南叢書』

近人の趙藩。

貴州：『黔南叢書』

近人の任可澄（等）。
日本：『海外新書』
清の錢泳。『孝經』および荻生雙松（徂徠）の『辯道』『辯名』を含む。

第五 一姓所箸書類（屬・目ともに無い）

『河南二程全書』
宋の程顥・程頤。

第六 一人所箸書類（屬は八。目は無い）

*叢書の出現は 13 世紀に入ってからなので、屬は宋以後について立てられる。
但し、宋以前の人物について、その著作が經・史・子・集にまたがる形で全集として編纂された場合、形式の上で一人所箸書類に分類せざるを得ない。ここでは例として『摯太常遺書』を載せる。

宋之屬
金元之屬
明之屬
清初之屬
清中葉前期之屬
清中葉後期之屬
清季之屬
近人之屬

『摯太常遺書』
晉の摯虞。文集・決疑要注・文章流別志論を含む。『決疑要注』は史部。

一 宋之屬

『歐陽文忠公集』
歐陽脩。『四部叢刊』では集部（『四部叢刊』に叢書部は無い）。

二 金元之屬

『知非堂集』
元の何中。

三 明之屬

『少室山房集』
胡應麟。『廣雅叢書』に收める。子目の『少室山房筆叢』も分類は一人所箸書類。

四 清初之屬

『亭林遺書』
顧炎武。

五 清中葉前期之屬
『鹿洲全集』
藍鼎元。

六 清中葉後期之屬
『章氏遺書』
章學誠。

七 清季之屬
『曾文正公全集』
曾國藩。

八 近人之屬
『譚瀏陽全集』
清の譚嗣同。＊『仁學』（岩波文庫）

参考文献

吉川幸次郎「中國文獻學大綱」「支那文獻學大綱」『吉川幸次郎遺稿集1』筑摩書房、1995年

吉川幸次郎「事柄の學問と言葉の學問——京大人文研東方部の藏書について」『吉川幸次郎講演集』筑摩書房、1996年

井波陵一『知の座標——中國目錄學』白帝社、2003年

＊實例に關する譯書等の参考文献は必ずしも網羅的ではない。

附録

『天津圖書館書目』分類一覽 (部一類一屬。目は無い)

1936 年、中國留學から戻り研究書に入った吉川（幸次郎）は、前年に歸國し 2 ヶ月前に研究所員となっていた倉石（武四郎）とともに、研究の時間を割いて分類目録の作成を開始した。細目分類のモデルには、倉石の發案により天津圖書館の書目が使われた。吉川らは、研究書の藏する全漢籍の一頁一頁に目を通し、彼らの學問體系にもとづき、改正を加えつつ現在の分類を作りあげた。（『人文科學研究所 50 年』「漢籍分類目録」より。京都大學人文科學研究所、1979 年）

經部

正經正注類	合刻之屬（十三經注疏・四書章句集注など）
	分刻之屬（詩經集傳・春秋經傳集解など）
列朝經解類	唐以前易之屬
	宋元明易之屬
	近世易之屬
	増易緯河洛緯之屬
	尚書古今文之屬
	尚書一篇一義之屬
	増緯候及百兩篇之屬
	毛詩之屬
	詩序詩譜之屬
	三家詩之屬
	増詩緯之屬
	周禮之屬
	儀禮之屬
	禮記之屬
	三禮總義之屬
	三禮分類專門之屬
	増禮緯
	樂之屬
	増樂緯
	春秋左傳之屬
	春秋事實分類之屬（春秋大事表など）
	春秋公羊之屬
	春秋穀梁之屬
	春秋總義之屬

	增春秋緯
	論語之屬
	增論語識及隱義
	孟子之屬
	四書之屬
	增學庸
	孝經之屬
	增孝經緯
	爾雅之屬
羣經總義類	羣經總義之屬
	羣經授受源流之屬
	羣經音義之屬
	羣經校刻文字之屬
	羣經總義石經之屬
小學類	說文之屬
	各體書之屬
	訓詁之屬
	官韻之屬（廣韻・集韻・佩文韻府など）
	古音之屬（毛詩古音考・音論など）
	切韻之屬

史部

正史類	合刻之屬
	分刻之屬
	注補表譜考證之屬
編年類	通鑑綱目之屬
	別本編年之屬（前漢紀・續資治通鑑長編など）
紀事本末類	
古史類	魏晉以前人所撰之屬
	宋以後人所撰之屬
別史類	
雜史類	事實之屬

	瑣記之屬
載記類	
傳記類	聖賢之屬
	名臣名儒名士之屬
	忠孝義俠之屬（孝子傳・明末忠烈紀實など）
	鄉賢之屬
	高逸之屬
	列女之屬
	雜傳雜記之屬（高力士傳など）
	記言之屬
	記事之屬
	自序行述之屬
詔令奏議類	詔令之屬
	奏議之屬
地理類	總志之屬
	輿圖之屬
	古州郡縣志之屬
	直省府廳州縣志之屬
	雜地志之屬
	直省紀程之屬
	域外紀程及江海道里之屬
	古蹟名勝路程總記之屬
	水道水利之屬
	外紀之屬
	邊防之屬
	祠墓寺觀之屬
	土諺習俗之屬
職官類	官制之屬
	官箴之屬
時令類	
政書類	歷代通制之屬
	各代舊制之屬

	古今典禮之屬
	通禮之屬
	雜禮之屬
	邦計之屬
	軍政之屬
	法令之屬
	考工之屬
	掌故雜記之屬
譜錄類	書目之屬
	家乘年譜之屬
	姓名年齒之屬
	盛事題名之屬（元祐黨籍碑・宋紹興十八年題名錄など）
金石類	金石目錄及考證之屬
	因地著錄之屬
	專門詳釋之屬
	圖象之屬（考古圖・歷代鐘鼎彝器款識など）
	義例之屬
史鈔類	
史評類	論史法之屬
	論史事之屬

子部

儒家類	古今各家之屬
	性理之屬
	考訂之屬
兵家類	
法家類	
農家類	總說之屬
	農桑之屬
	蔬果花木之屬
	畜牧水產之屬
	土產之屬

醫家類	
天文算法類	中法之屬（九章算術など）
	西法之屬（幾何原本など）
	中西兼用之屬（數理精蘊など）
術數類	術學之屬
	占星望氣及陰陽五行之屬
	相宅相墓之屬
	命書相書之屬
	雜技術之屬
藝術類	書畫之屬
	音樂之屬
	篆刻之屬
	賞鑒器物之屬
	製造食品之屬
	各種韻事之屬
	雜技雜戲之屬
雜家類	雜學之屬
	勸善書之屬
	雜說之屬
	雜纂之屬
小説類	雜記雜說之屬
	異聞之屬
	通俗章回之屬（儒林外史・綱鑑通俗衍義の2種のみ）
	麗情之屬（楊太真外傳・板橋雜記・紅樓夢詩鈔など）
	寓言之屬
	雅談之屬（鶴林玉露など）
	諧謔之屬
釋家類	
道家類	
類書類	彙考之屬

	摘錦之屬
--	------

集部

楚辭類	
別集類	漢魏六朝之屬
	唐之屬
	宋之屬
	金元之屬
	明之屬
	近世詩文之屬
	近世文之屬
	近世詩之屬
總集類・詩文總集	數代合編之屬
	各代分編之屬
	以地分編之屬
	以姓分編之屬
總集類・文總集	數代合編之屬
	各代分編之屬
	以地分編之屬
	以姓分編之屬
	駢體文之屬
總集類・詩總集	數代合編之屬
	各代分編之屬
	以地分編之屬
	以姓分編之屬
	倡和之屬
	投贈之屬
詩文評類	文評之屬
	詩評之屬
詞曲類	詞集之屬
	詞選之屬
	詞話之屬
	詞譜詞韻之屬

	南北曲之屬
集部附録	(制藝叢話・尺牘新鈔・曾文正家書・楹聯録存など)

叢書總目	古今人著述合刻叢書（南宋羣賢小集・說郛・漢魏六朝百三家集・宋六十名家詞・玉函山房輯佚書・皇清經解・詞學叢書・粵雅堂叢書・小方壺齋輿地叢鈔など）
	以地分編之叢書（嶺南遺書・紹興先正遺書など）
	一人一族著述合刻叢書（歐陽公全集・玉海・亭林遺書・音學五書など）

人名索引

あ

アレキサンダー大王 41

阿發滿 89

阿彌達 49

安徽通志館 63

安德孫 78

晏子 30

い

韋昭 20

池田末利 7

尹洙 29

因亮 38

殷芸 93

う

于欽 45

于立政 92

宇文懋昭 31

え

慧皎 95

慧能 95

衛冀隆 12

衛宏 54

衛恆 83

衛湜 8

袁珂 30

袁行雲 101

袁宏 29

袁宏道 87,88,101

袁康 30

袁樞 29

袁枚 87,91,104

袁彬 32

袁福徵 88

閻若璩 4,37

お

オルタイ（鄂爾泰） 46

小川環樹 100

小野和子 40

尾崎雄二郎 22

王安石 6

王安定 38

王埶昌 51

王毓瑚 75

王引之 21,23

王隱 31

王憚 61

王易 33

王應奎 93

王應麟 5

王嘉 93

王概 84

王闡運 12

王觀 76

王羲之 84,85

王九思 78

王堯臣 62

王臬 84

王元規 11

王儉 7

王孝通 81

王肯堂 79

王灝 114

王國維

4,10,11,18,19,21,22,32,34,38,58,64,66,
67,80,101,108,109,111

王佐 60

王粲 38

王士禎 43,91,105,106

王士性 48

王士點 55

王子初 85

王志堅 104

王志長 6

王灼 87,109

王若虛 106

王守仁（王陽明） 16,32,42,71

王儒行 50

王樹枏 9

王充 89

王秀楚 33

王叔和 78

王肅 2,3,4,7,8,11,16,71,72

王隼 103

王處一 51

王偁 31

王象之 66

王頌蔚 28
王軾 32
王仁昫 23
王仁俊 102
王仁裕 93
王世襄 86
王世貞 34,84,105
王寂 53
王勣 94
王錫祺 48,54,61
王錫闡 80
王先謙 5,20,26,27,34
王祖源 59
王著 84
王昶 65
王通 71
王定保 60
王楨 74
王鼎 32
王度 94
王念孫 20
王冰 78
王溥 56
王夫之 2,36,40,69,99
王秉恩 20
王炳燮 42
王聘珍 9
王謨 113
王朋壽 92
王逢辰 76
王鵬雲 108
王明 96
王鳴盛 28
王有光 21
王揚宗 89
王利器 94
王隆 54
王良樞 88
王綸 41
汪雲程 87
汪遠孫 36,62
汪誠 62
汪輝祖 28
汪憲 62
汪士鐘 62
汪汝璥 62

汪兆鏞 84
汪鳳藻 59
皇侃 8,14
翁方綱 66
歐大任 39
歐陽脩 5,26,27,35,57,76,77,106,115
歐陽詢 92
應劭 44,54,90
大木康 110
荻生雙松(徂徠) 115
恩華 63
溫睿臨 44
溫子昇 100
溫大雅 29

か
火源潔 61
何晏 14
何異孫 18
何休 12
何秋濤 49,50
何承天 22,58
何崇祖 39
何妥 2
何中 115
何文煥 107
和苞 34
河上鈞叟 33
柯劭忞 26
夏忻 36
夏獻綸 44
夏承燾 42
夏大觀 50
夏文彥 84
華佗 78
賀循 58
賀長齡 61
賈思勰 74
賈思同 11
賈昌朝 19
賈嵩 38
賈晁西 110
嘉約翰 89
改琦 108
海瑞 40
海得蘭 79

岳珂 19
岳飛 53
郝懿行 14,27,77
赫士 81
郭階 16
郭子章 77,106
郭若虛 84
郭松年 53
郭紹虞 107
郭湜 40
郭橐駝 75
郭忠恕 22
郭昇 41
郭茂倩 104,107
鄂爾泰 →オルタイ
樂史 44
葛洪 7,40,96
金子和正 60
川合康三 27
川勝義雄 11
干寶 2,6,93
邯鄲淳 94
桓寬 71
寒山 100
環濟 61
韓偓 107
韓嬰 5
韓彥直 75
韓道昭 23
韓愈 7,14
顏延之 14
顏希源 104
顏元 42,72,73
顏元孫 22
顏之推 72,92,94
顏師古 72
顏真卿 38,40
關駟 44
關漢卿 110
關朗 2

き
祁承燦 62,64
綦世基 50
綦毋邃 15
魏源 49

魏收 100
魏徵 41,91
魏伯陽 95
牛運震 15,69
牛弘 100
丘濬 32,71
許印芳 103
許景澄 49
許謙 5,16
許慎 21
許嵩 31
許乃釗 61
姜宸英 59
姜亮夫 43,99
龔柴 48,77
龔自珍 50,101
龔明之 46
金毓黻 35
金簡 60
金敬淵 52
金元鈺 86
金正喜 104
金尼閣 23
金梁 38,40

く
孔穎達 13
虞集 42
虞荔 65
鳩摩羅什 95
瞿曇悉達 82
瞿鏞 62

け
京房 2
計成 87
計六奇 29
邢澍 63,66
倪燦 28
倪瓚 38
桂文燦 15
嵇含 77
惠棟 2,4,12,13,18,22
景日畛 51
荊浩 84
元結 102

元好問 26,42,91,94,100,102,108
玄奘 49
阮逸 2,84
阮元 19,20,66,71,81,103,105,106
阮孝緒 62
阮福 66
嚴羽 106
嚴式誨 24

こ

古本戲曲叢刊編刊委員會 111

伍元微 114
伍崇曜 113,114
吾丘衍 85
吳偉業 101,110
吳應箕 33
吳其禎 48
吳綺 102
吳協 65
吳兢 71,107
吳玉搢 21
吳均 29
吳景旭 105
吳敬梓 112
吳慶坻 63
吳士鑑 27
吳士連 36
吳自牧 47
吳式芬 68
吳壽萱 81
吳承恩 112
吳昌瑩 21
吳商 9
吳仁傑 27
吳任臣 35
吳振臣 46
吳振械 103
吳潯源 85
吳纘 27
吳翮 40
吳大澂 22
吳澄 2,4,9
吳廷華 7
吳廷燮 27
吳璫 78
吳林 77

胡安國 13,14
胡應麟 64,115
胡廣 8,14
胡仔 37
胡思敬 114
胡師安 62
胡正言 85
胡培翬 7
胡聘之 66
胡樸安 64
胡林翼 73
顧榮 38
顧炎武 5,12,20,24,42,44,50,65,72,115
顧愷之 84
顧歡 14
顧元慶 38
顧棟高 14
顧鳴鳳 41
顧野王 22
顧苓 36
顧祿 87
句延慶 35
孔安國 3,16
孔毓圻 57
孔穎達 →くようだつ
孔元措 37
孔廣森 9,10
孔子 2,3,12,37,71,90
孔尚任 37
孔貞瑄 51
孔傳 37
弘曆 (清の高宗) 46
江永 5,7,8,10,11,15,24,71
江藩 18
江標 63
江有誥 19
行均 22
杭世駿 106
侯瑾 31
侯失勒 80
侯白 94
洪應明 90
洪适 65
洪業 53
洪遵 67
洪昇 110

洪邁 88,91,94
洪亮吉 12,27,52
皇侃 →おうがん
皇甫謐 30,40,78,80
高岐 61
高季興 35
高拱 32
高啓 101
高似孫 70,85
高閭 34
康有爲 15,37
敖繼公 7
項繹 17
項名達 81
項琳 35
黃雲鵠 59
黃休復 47
黃虞稷 62,64
黃元會 90
黃嗣文 71
黃周星 88
黃淳耀 47
黃遵憲 48
黃省曾 75,77
黃任恆 105
黃淬伯 24
黃成 86
黃石公 73
黃宗羲 8,15,28,36,38,71
黃伯思 86
黃璞 39
黃丕烈 62,113
黃本驥 77,104
黃立猷 68
黃六鴻 55
興膳宏 27
鄭露 47
克爾 89

さ

左圭 113
佐藤武敏 75,87
沙克什 60
查培繼 109
柴望 82
崔鴻 35

崔述 4,56,69
崔寔 43
崔豹 72
崔令欽 84
崔靈恩 5,9
蔡鏐 73
蔡爾康 33
蔡質 54
蔡襄 75
蔡沈 3
蔡邕 61,99
薩都刺 100
山濤 36
贊寧 75

し

子夏 2
子厂 110
支偉成 36
司空圖 106
司都藿 88
司農司 75
司馬光 22,28,33,87
司馬遷 42
司馬彪 25,39,73
史簡 103
史游 22
史理孟 74
施國祁 28
施淑儀 105
摯虞 57,106,115
島田虔次 71
車頻 34
謝應芳 38,83
謝赫 83
謝啓昆 24,66
謝國楨 33
謝綽 33
謝承 39
謝朓 100
謝肇淛 92
謝萬 16
謝蘭生 71
謝靈運 99
朱彝尊 18,20,46
朱雲錦 47

朱琰 86
朱熹 (朱子)
5,10,16,41,42,53,58,60,71,72,73,98
朱啓鈐 86
朱惠明 78
朱權 32,111
朱載堉 10,85
朱士嘉 54
朱宸濠 32
朱宗文 24
朱長文 85
朱澄儉 40
朱葆琛 81
朱彭 51
朱謀埠 20
朱睦㮮 18
朱有燬 110
朱禮 57
周羽翀 35
周嘉胄 86
周嘉猷 27
周拱辰 12
周行逢 35
周洪謨 18
周在浚 64
周守忠 79
周紹良 111
周續之 4
周達觀 48
周伯琦 21
周斐 39
周必大 76
周邦彥 38
周密 59,88,93,111
周履靖 41
周亮工 47
叔孫通 57
祝慶祺 59
祝尚書 100,102
祝昌泰 114
祝穆 92
荀悅 29
荀況 (荀子) 71
荀卿 → 荀況
荀柔之 2
徐渭 111

徐開任 42
徐緒 21
徐岳 80
徐鉉 105,109
徐兢 48
徐繼畲 48
徐乾學 57
徐鉉 21
徐光啓 37,81
徐光溥 43
徐宏祖 (徐霞客) 53
徐鼎 3
徐壽基 86
徐松 50,51,60
徐世昌 39,72
徐定文 39
徐天麟 56
徐度 61
徐葆光 48
徐夢莘 29
徐養原 85
徐陵 100,104
舒焚 39
諸葛亮 38,73
諸錦 9
邵長衡 52
邵廷采 36
昭槱 34
商企翁 55
常璩 45
常鈞 47
常景 90
常爽 17
章學誠 46,69,116
章炳麟 72,90
焦延壽 3
焦袁熹 18
焦循 15,111
葉昌熾 64
葉適 90
葉德輝 64
葉秉敬 23
葉夢得 61
葉隆禮 31
蔣熏 52
蔣士銓 110

蔣濟 93
蔣斧 66
蔣溥 51
鄭玄 2,3,4,7,8,9,13,14,37,38,57,71,72
蕭繹 (梁の元帝) 90
蕭衍 (梁の武帝) 10,16,57
蕭子良 22
蕭氏 (遼の懿德皇后) 32
蕭常 31
蕭嵩 57
蕭統 (昭明太子) 100,102
鍾嗣成 111
鍾文烝 13
鍾鏐 42
聶崇義 9
譙周 17
饒宗頤 107
申培 4
任可澄 115
任嘏 96
任晰 114
任預 9
沈亞之 85
沈瑩 77
沈家本 64
沈懷遠 45
沈括 72
沈謙 109
沈士瑛 88
沈重 5,6,10
沈泰 110
沈廷瑛 50
沈德潛 102
沈復 41
沈立 77
辛棄疾 108
辛文房 40
信都芳 10
眞德秀 71
秦觀 75
秦九韶 81
慎蒙 52
甄鸞 79,80

す
鄒一桂 84

せ
盛昱 103
盛弘之 45
盛宣懷 114
齊召南 48,50
齊德之 79
席世臣 31
戚繼光 73
戚袞 6
薛福成 49,53
單鐸 60
單士釐 64
單登 32
潛説友 45
錢乙 78
錢泳 91,115
錢繹 20
錢儀吉 56
錢謙益 102
錢師璟 64
錢大昕 28,72,79
錢德洪 32
錢鏐 35

そ
蘇易簡 85
蘇頌 80
蘇軾 3,42,83,91,100,108
蘇濟川 107
蘇籀 41
蘇轍 41
蘇天爵 38,71,102
宋應星 74
宋祁 27,77
宋慈 59
宋敏求 36,45,61,92
宋濂 32
宋聯奎 114
宗懷 54
桑世昌 104
曹寅 24
曹學佺 52,103,106
曹勛 32
曹元弼 17
曹憲 20,22

曹之謙 103
曹植 42,99
曹雪芹 112
曹睿 76
曹廷杰 51
曹丕 71
曹溶 113
巢元方 78
巢鳴盛 75
曾公亮 73
曾國藩 38,42,73,101,116
僧佑 95
臧懋循 110
束皙 17,30
則天武后 10,72
孫詒讓 7,65
孫毓 4
孫毓修 113
孫楷第 112
孫穀 18
孫希旦 8
孫卿 →荀況
孫思邈 78,79
孫樹禮 53
孫峻 53
孫星衍 2,66
孫盛 29
孫梅 107
孫馮翼 50
孫文昱 114

た

太行山人 35
酒賢 51
戴凱之 76
戴震 10,15,42,64,71
戴聖 8
戴祚 53
戴祖啓 50
戴德 7,8,9
戴念祖 85
高橋和巳 14
丹吐魯 75
段安節 84,85
段龜龍 34
段玉裁 7,22,24

段成式 58,85,93
啖助 13
談遷 29
檀萃 77,106
譚乾初 49
譚獻 108
譚嗣同 102,116
譚峭 96

ち

中國戲曲研究院 111
仲恆 109
仲仕敦 75
褚華 76
褚澄 79
長孫無忌 59
晁公武 62
張瑋 57
張鑑 9
張英 87
張燕昌 86
張華 77
張鑑 35
張機 78
張惠言 104
張元濟 102,113
張元素 78
張彥遠 83
張江裁 40,111
張杲 79
張治 13
張采田 38
張鷟 59,94
張參 19
張之洞 63
張自烈 23
張爾岐 7
張諮 34
張舜徽 101
張勝 39
張枏 38
張心澂 63
張燧 91
張齊賢 33
張宗櫛 109
張岱 31,93

張丑 84
張仲遠 82
張道 27
張道宗 45
張敦頤 51
張方 39
張鳳臺 114
張鳴鳳 52
張揖 20,22
張融 96
張養浩 55
張廉 79
趙宦光 21
趙煜 30
趙學敏 76,87
趙岐 15,16,39
趙琦美 110
趙匡 13
趙時庚 76
趙執信 106
趙紹祖 66
趙崇祚 108
趙世延 58,59
趙爽 79
趙藩 114
趙間禮 108
趙秉忠 47
趙輔 32
趙汾 11
趙友欽 80
趙翼 28
趙令時 109
調露子 87
陳懿典 12
陳運溶 39,66,103
陳垣 69
陳衍 63
陳介祺 68
陳其鏞 67
陳起 102
陳儀 49
陳均 104
陳繼儒 78
陳弘謀 73
陳康祺 61
陳誤子 76

陳澹 8
陳士元 15,19
陳思 76
陳壽 39
陳壽祺 10
陳述 102
陳準 114
陳舜俞 52
陳翥 76
陳仁玉 75
陳鱣 31
陳宗彝 19
陳乃乾 68
陳第 5,99
陳椿 87
陳貞慧 33
陳鼎 48
陳登龍 50
陳獨秀 23
陳專 74
陳芳生 75
陳彭年 23
陳暘 10
陳澧 24,72
陳璉 52
鎮澄 51

て
丁謙 27
丁顯 49
丁取忠 80
丁宿章 103
丁祖蔭 63
丁孚 54
丁福保 22,81
丁丙 114
程頤 2,115
程榮 113
程俱 54
程鴻詔 9
程顥 2,18,115
程大昌 47,48
程端學 13
程端禮 71,73
程德治 21
程敏政 38

程璧 90
程瑤田 11
鄭泳 58
鄭琰 41
鄭懈 86
鄭起潛 107
鄭曉 61,72
鄭杰 103
鄭玄 →じょうげん
鄭衆 6
鄭處誨 33
鄭相如 94
鄭燮 42
鄭振鐸 85,111
鄭成功 38
翟均廉 60
翟灝 21
天都山臣 59
田汝成 32,52
田大里 89

と
杜金鵬 86
杜光庭 94,96
杜文瀾 91
杜甫 93,100
杜佑 56
杜預 11,12
杜綰 86
屠喬孫 35
屠本峻 77
屠隆 86
都穆 51,65
東方朔 82
唐寅 101
唐甄 90
陶岳 28
陶元藻 106
陶弘景 38,67,94,96
陶澍 50
陶湘 20,64,103
陶潛 (陶淵明) 40,42,99
陶宗儀 54,65,91,113
陶樸 103
湯顯祖 110
董煒 58

董說 (董若雨) 56
董汲 78
董勛 58
董壽 42
董仲舒 12
董鼎 17
董天工 52
董□ 109
道世 95
鄧之誠 33
鄧實 89
寶鞏 104
寶羣 104
寶庠 104
寶常 104
寶萃 87
寶牟 104

な
内藤湖南 46,69
中村喬 87
南卓 85

に
ニーダム 81
西脇常記 69

ぬ
布目潮颯 87

ね
寧稼雨 92

の
納蘭性德 108

は
馬殷 35
馬其昶 3,16
馬國翰 114
馬驢 29
馬俊良 49
馬瑞辰 5
馬致遠 110
馬微麟 49
馬文升 48

馬融 13
馬令 35
瑪吉士 88
瑪體生 89
梅穀成 81
梅鶯 2,4
梅文鼎 81
裴啓 93
裴松之 7
裴庭裕 31
白居易 100
白爾格 89
白樸（白仁甫） 108
莫友芝 63,103
麥高爾 29
原田禹雄 48
汜勝之 74
范寅 54
范家相 5
范希曾 63
范垌 35
范亨 34
范康生 33
范成大 76,77
范宣 8
范梈 106
范致明 47
范仲淹 36
范甯 3,13,14
范本禮 34
范曄 25
班固 17,93
班昭（曹大家） 73
萬斯大 6,28
萬斯同 18,19,26,27,28,34,53
萬樹 109
萬震 78
萬青銓 23
萬年淳 50
萬曼 100
樊綽 47
樊深 17
潘昂霄 67
潘之恆 49

ひ

皮日休 39
皮錫瑞 4,8,17,18
費錫璜 105
費著 86
糜信 13
畢沅 51,66
評花館主 76

ふ

婦米魯 32
傅雲龍 50
傅華峰 48
傅熹年 63
傅玄 71
傅山 86
傅崧卿 9
傅增湘 63
傅暢 38,54
傅蘭雅 89,90
馮繼先 13
馮登府 19,66,68
馮培 53
馮班 110
馮夢龍 94,110
伏生 3
伏滔 61
伏曼容 2
福克 54
弗若多羅 95
文震亨 88
文秉 33

へ

北京圖書館 63
卞彬 76
辯機 49

ほ

蒲松齡 94
方薰 84
方綱 88
方式濟 46
方樹海 39
方象瑛 52
方澄嶧 46
方東樹 107

房祺 103
房千里 88
法思德 59
法式善 60
封演 91
彭元瑞 59
彭遵泗 33
彭乘 93
彭致中 108
卜大同 59
鮑山 75
鮑鼎 14
龐元濟 84
繆襲 9
繆荃孫 34,35,66,109
繆文遠 56
法顯 54

ま
麻革 103

み
宮崎市定 60

む
麥谷邦夫 96

め
明安圖 81
明僧紹 2

も
毛應龍 6
毛奇齡 14,59
毛德琦 53
毛鳳枝 66
孟元老 47,87
毛氏 4
孟珙 34
孟榮 105
孟子 15

や
安田二郎 71
戴内清 78,79,80
山井鼎 14,18

ゆ
俞樾 7,11,12,14,15,18,70,80,91,110
俞經 113
俞鼎孫 113
俞平伯 7
俞陸雲 7
庾蔚之 8
庾肩吾 83
庾信 100
庾翼 29
喻歸 35
尤侗 88
熊安生 8
熊會貞 49
熊忠 23
熊朋來 10

よ
余懷 41,108
余紹宋 84
余蕭客 18
余知古 47
豫章叢書編刻局 63
姚最 83
姚士粦 35
姚之駟 91
姚汝能 41
姚信 79
姚振宗 27
姚和都 34
揚雄 20,34,55,82
陽休之 23
楊以增 62
楊偉 90
楊維禎 34
楊昱 55
楊筠如 4
楊億 105
楊基 108
楊堯弼 36
楊銜之 53
楊士奇 32,62
楊士勛 13
楊守敬 49,63
楊樹達 15

楊承慶 22
楊鍾義 103
楊鍾賓 76
楊晨 56
楊慎 35,52,67,77,91,106,109
楊瑄 32
楊端 76
楊朝英 111
楊萬里 2
楊帝 20
吉川幸次郎 3,99,100,111
吉川忠夫 94,96

ら

羅隱 90
羅願 20,45
羅汝楠 28
羅振玉 5,27,35,41,57,58,66,67,68
羅正鈞 40
羅福頤 66,67
羅文彬 58
羅本（羅貫中） 112
羅有高 52
來孔陽 57
來拉 79
雷次宗 45
雷禮 38
藍鼎元 31,41,49,116

り

リンドレー 41
利瑪竇 37,80,81,95
李煜 108
李逸民 88
李璟 108
李延昱 39
李延壽 26
李淵（唐の高祖） 29
李化龍 33
李家同 23
李誠 59
李概 23
李格非 53
李桓 38
李希聖 58
李吉甫 44

李璿 16,72
李遇孫 68
李慶雲 49
李元卓 96
李權 63,66
李光地 10,15,16
李光廷 49
李孝美 85
李翱 53,88
李時珍 78
李慈銘 27
李贊（李卓吾） 31
李日華 41
李實 32
李秀成 41
李修生 109
李淑 109
李淳風 79,80,81
李如圭 7
李承勛 86
李昌齡 90
李商隱 100,105
李心傳 29,56
李世民（唐の太宗） 71,72,73
李靖 73
李誠 50
李清照 53,88
李善蘭 81
李祖陶 102
李中 100
李冲昭 52
李調元 102,103,109
李提摩太 48
李彤 22
李登 23
李道謙 96
李道傳 71
李燾 21
李德裕 41
李白 42
李播 80
李謐 9
李文藻 64
李文仲 22
李文田 67
李炳衡 44

李放 87
李昉 92,94
李治 72,81
李有棠 29
李隆基 (唐の玄宗) 17,33,54
李林甫 54,59
陸羽 87
陸賈 30
陸翽 34
陸機 4,45
陸龜蒙 75,86
陸行直 109
陸廣微 44
陸贄 36
陸深 60,86
陸淳 13
陸善經 15
陸達節 73
陸德明 19
陸法言 23
陸友 93
陸游 35,39,53,100
陸燿 75
陸耀 49
陸隴其 10,41
立溫斯敦 49
柳貫 76
柳興恩 13
柳宗元 47,75
劉安 89
劉緯毅 44
劉鶚 68
劉祁 26,33
劉淇 21
劉喜海 67
劉熙 20
劉熙載 109
劉義慶 93,94
劉徽 80,81
劉向 12,30,40,62
劉勰 106
劉歆 10,11,79,93
劉炫 3,5,11,17
劉源 38
劉瓛 4
劉三吾 32

劉師培 7,8,12
劉若愚 57
劉恂 47
劉劭 (梁) 40
劉昌 103
劉邵 (劉劭、魏) 89,92
劉承幹 27
劉人熙 63
劉崇傑 57
劉世珩 103,114
劉聲木 91,106
劉錫信 43
劉績 9
劉宗周 15
劉大彬 51
劉知幾 69
劉兆 13
劉珍 30
劉廷楨 78
劉廷燮 32
劉謐 90
劉復 23
劉秉鈞 39
劉芳 5,8
劉逢祿 12,16
劉寶楠 15
劉豫 36
龍大淵 67
呂嵩 (呂洞賓) 96
呂元善 37
呂坤 58
呂震 86
呂靜 23
呂祖謙 11
呂大鈞 73
呂本中 73,94
梁玉繩 26
梁克家 45
梁子涵 64
梁章鉅 21,88
梁廷枏 35
凌迪知 68
廖元度 103
廖文英 23
廖平 12,13,18
遼海書社 114

林禹 35
林希逸 10
林春溥 28
林昌彝 10,107
林寶 42
林樂知 33

れ

厲鶚 28,86,101,105
黎庶昌 52,53
黎靖德 71
黎崱 48
靈澈 90
酈道元 49
練恕 35

ろ

魯迅 85,92,111
盧見曾 103
盧靖 114
盧文弨 72
盧綸 31
老子 90
郎奎金 21
郎廷極 107
婁機 26,67
勞幹 68
勞孝輿 105

京都大學人文科學研究所漢籍分類一覽

著 者 井波陵一

發行日 2005年11月30日

發行者 京都大學人文科學研究所附屬漢字情報研究センター

606-8265 京都市左京區北白川東小倉町47

Tel. 075-753-6997 Fax. 075-753-6999

<http://www.kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/>
